

飯舘村 住民意向調査 報告書

平成 25 年 3 月

復興庁
福島県
飯舘村

目 次

I 調査の概要	5
1. 調査目的	7
2. 調査項目	7
3. 調査対象	7
4. 調査時期	7
5. 調査方法	7
6. 調査実施主体	7
7. 回収標本数	7
8. 回答者の属性	8
(1) 性別	8
(2) 年齢	8
(3) 震災当時居住地区	9
(4) 世帯での立場(震災当時)	9
9. この報告書を読む際の注意点	10
II 調査結果	11
1 避難生活の状況	13
(1) 震災当時の世帯構成	13
1) 震災当時の同居家族人数	13
2) 震災当時の世帯構成	13
(2) 世帯の分散避難状況	15
(3) 現在の同居家族構成	16
1) 現在の家族人数	16
2) 現在の同居家族構成	17
(4) 現在避難している自治体	18
(5) 現在住んでいる住宅の所有形態	20
2 避難生活における困りごと	22
(1) 避難生活の中で最も困っていること・改善を求める分野	22
(2) 医療サービスについて困っていること	24
(3) 介護・福祉サービスについて困っていること	26
(4) 教育(学校)について困っていること	28
(5) 就労について困っていること	30
(6) 地域のコミュニティについて困っていること	32
3 避難期間中の生活に関する意向	34
(1) 避難期間中過ごしたい場所	34
(2) 避難期間中に居住を希望する住居形態	36
(3) 避難期間中に居住を希望する地域	38

4 村外子育て拠点・帰村のための村内拠点に対する意向	39
(1) 「村外子育て拠点」に対する意向	39
1) 福島市飯野地区の「村外子育て拠点」を建設した場合の災害公営住宅入居意向	39
2) 福島市飯野地区に「村外子育て拠点」を建設した場合に一緒に住む予定の世帯家族人数	41
(2) 「帰村のための村内拠点」に対する意向	42
1) 村内拠点に災害公営住宅を建設した場合の入居意向	42
2) 村内拠点に災害公営住宅を建設した場合に一緒に住む予定の世帯家族人数	44
3) 村内拠点建設を希望する地域	44
5 飯舘村への帰還意向	45
(1) 飯舘村への帰還についての現時点での考え	45
(2) 飯舘村へ帰還したとき村内に必要なもの	48
(3) 飯舘村に帰還する際に行政に望む支援内容	51
(4) 避難指示解除後の村内での事業再開について	53
1) 避難指示解除後の村内での事業再開意向	53
2) 村内で事業を再開する際の課題	53
3) 村内で事業を再開しない理由・判断できない理由	54
(5) 帰還を判断するのに必要な情報	55
(6) 飯舘村へ帰還しない理由	56
(7) 今後の生活拠点への転居の時期と判断のタイミング	58
1) 今後の生活拠点への転居時期	58
2) 今後の生活拠点への転居を判断したい段階	59
(8) 今後の生活において行政に望む支援	61
6 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ちについて	63
III 調査票(付:単純集計結果)	69

I 調査の概要

1. 調査目的

飯舘村が策定した「いいたてまでいな復興計画(第2版)」に掲げられている「村外子育て拠点(仮称)」及び「帰村のための村内拠点(仮称)」の検討、帰還に向けた諸施策の適切な実施に向けた取り組みを更に具体化し、避難期間中の生活環境の整備や、復興の拠点のあり方等の諸施策の適切な実施を行うための基礎データを収集することを目的とする。

2. 調査項目

・回答者属性

1. 避難生活の状況
2. 避難生活における困りごと
3. 避難期間中の生活に関する意向
4. 村外子育て拠点・帰村のための村内拠点に対する意向
5. 飯舘村への帰還意向

3. 調査対象

(1) 調査対象

飯舘村全世帯主(分散避難している場合は、それぞれの代表者)

(2) 対象数 2,985 世帯

4. 調査時期

平成 24 年 11 月 30 日(金)～12 月 14 日(金)
(平成 24 年 12 月 28 日(金)到着分までを集計対象とした。)

5. 調査方法

郵送法

6. 調査実施主体

復興庁 福島県 飯舘村

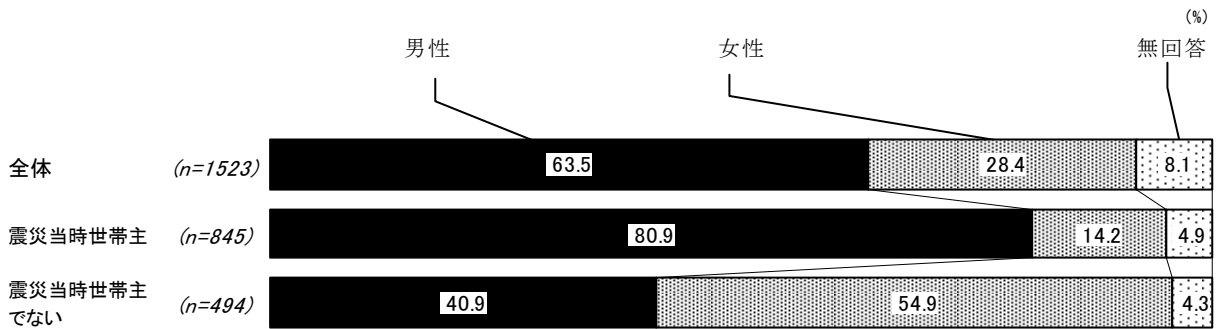
7. 回収標本数

有効回収数(率) 1,523 世帯(51.0%)

8.回答者の属性

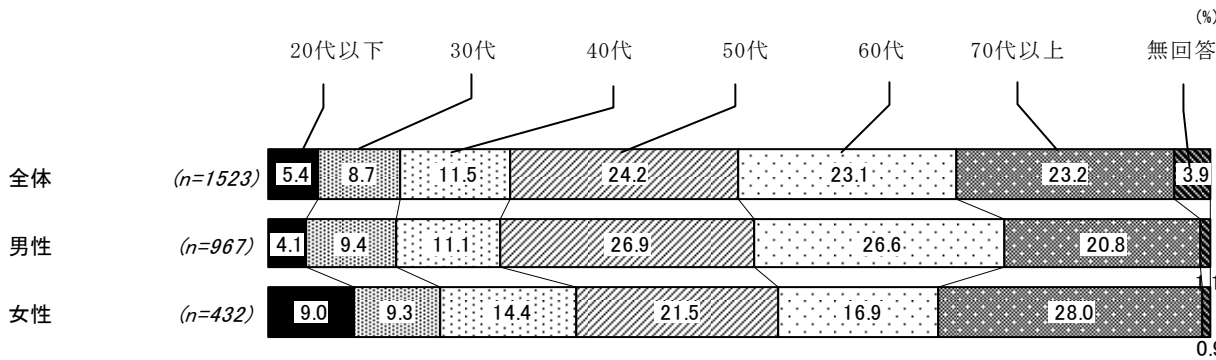
(1) 性別

図表1 性別

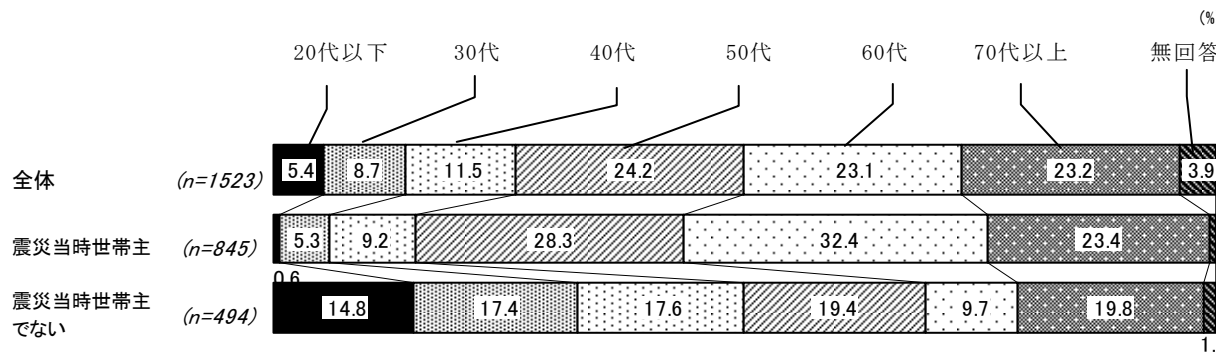


(2) 年齢

図表2 年齢



図表3 年齢(震災当時世帯主有無別)



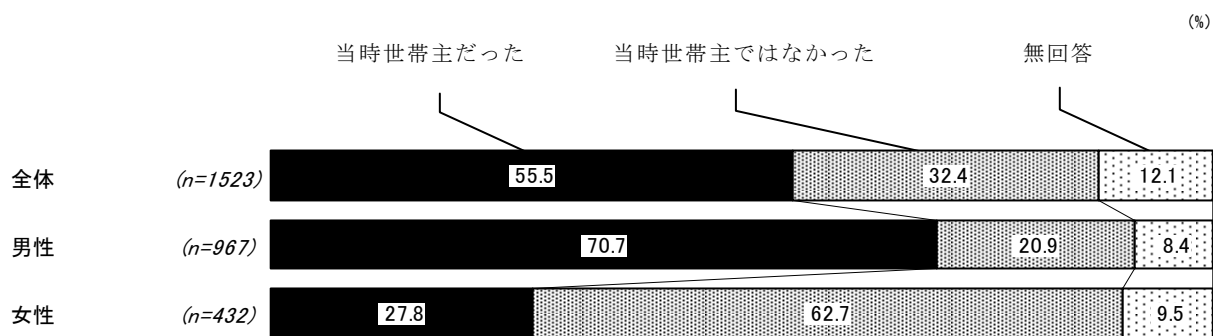
(3) 震災当時居住地区

図表4 震災当時居住地区

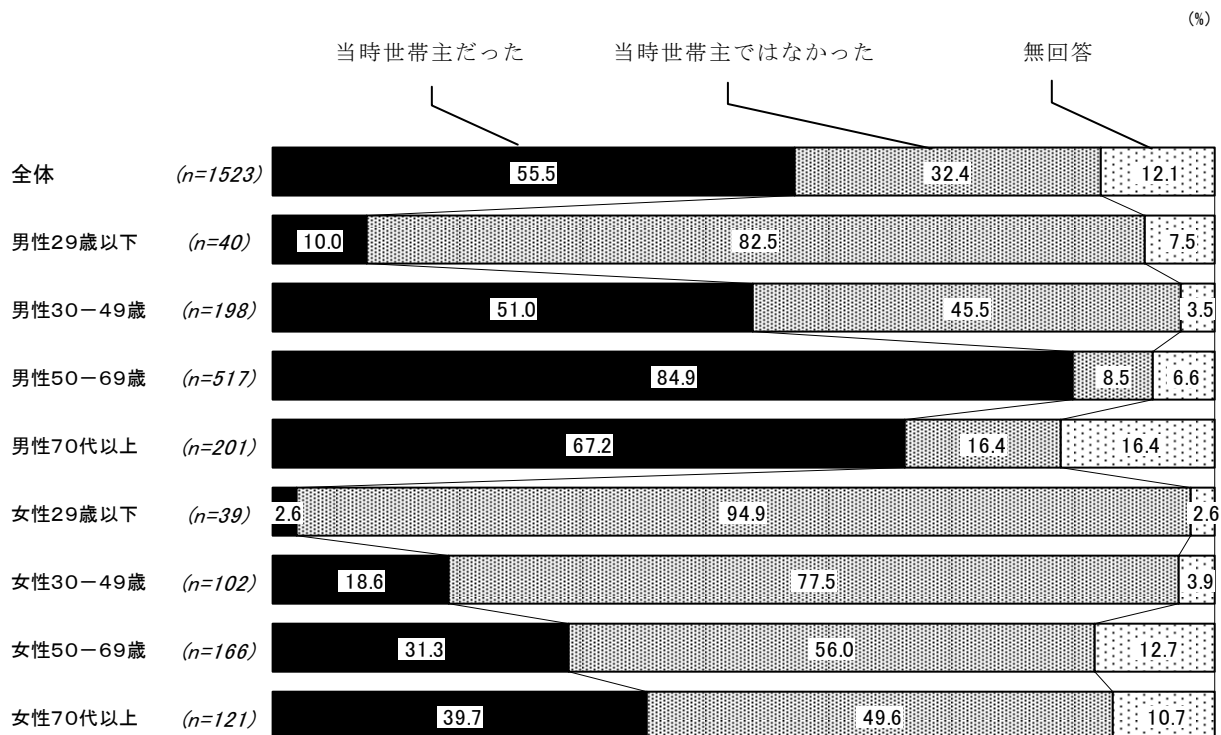
全体 n (1,523)	100.0		
草野	11.9	大久保・外内	4.1
深谷	4.7	上飯樋	7.9
伊丹沢	5.5	比曽	5.0
関沢	5.1	長泥	4.7
小宮	7.3	蕨平	2.8
八木沢・芦原	2.0	関根・松塚	3.0
大倉	2.2	臼石	4.5
佐須	3.2	前田	3.4
宮内	4.1	二枚橋・須萱	3.6
飯樋町	6.4	その他	0.5
前田・八和木	5.3	無回答	2.7

(4) 世帯での立場(震災当時)

図表5 震災当時の世帯での立場



図表6 震災当時の世帯での立場(性年代別)



9.この報告書を読む際の注意

- (1) 図表中のnとは、比率算出の基数を表すもので、原則として回答者総数(1,523 人)、または分類別の回答者数のことである。
- (2) 百分比は、小数点第2位で四捨五入して、小数点第1位までを表示した。四捨五入したため、合計値が100%を前後することがある。
- (3) 「(○はいくつでも)」と表示のある質問は、2つ以上の複数回答を認めているため、回答計は100%を超える。
- (4) 図表中“—”は、回答者が皆無であることを、“0.0”は0.05未満の数値であったことを示す。
- (5) 「Ⅱ 調査結果」では、分類別の回答者数が50人より少ない場合は傾向をみるにとどめ、分類別の分析の対象からは外している。

Ⅱ 調査結果

1. 避難生活の状況

(1) 震災当時の世帯構成

1) 震災当時の同居家族人数

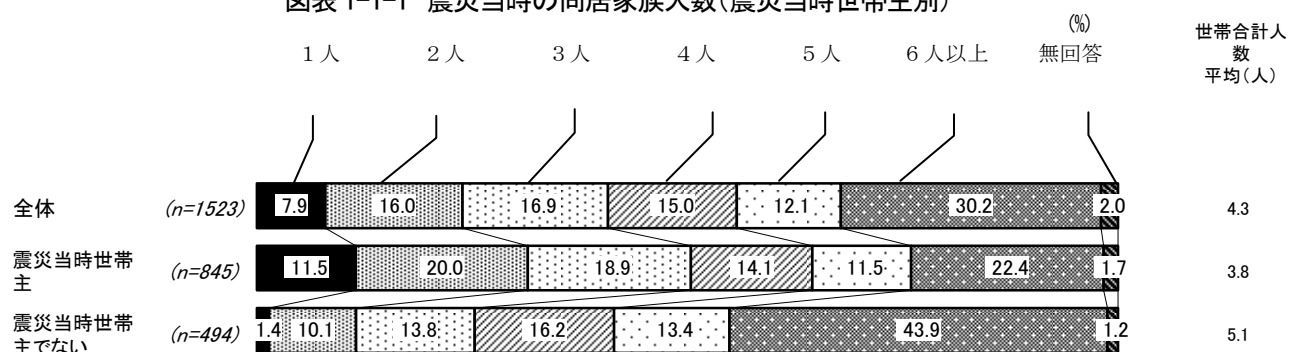
問1 震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

(1) 震災発生当時は、あなたを含めて何人でお住まいでしたか。(具体的に)

震災当時の同居家族人数は平均 4.3 人で、「6 人以上」が 30.2%と多い。(図表 1-1-1)

震災当時世帯主の世帯では、平均 3.8 人であり、最も多いのは「6 人以上」(22.4%)で、次いで、「2 人」(20.0%)、「3 人」(18.9%)の順になっている。震災当時世帯主ではない回答者の世帯では、震災当時の世帯人数は平均 5.1 人で、「6 人以上」が 43.9%と特に多く、震災当時大家族世帯が多く含まれている。(図表 1-1-1)

図表 1-1-1 震災当時の同居家族人数(震災当時世帯主別)



2) 震災当時の世帯構成

問 1(3) 震災発生当時一緒にお住まいであったご家族を、現在住んでいらっしゃる住居ごとに教えてください。

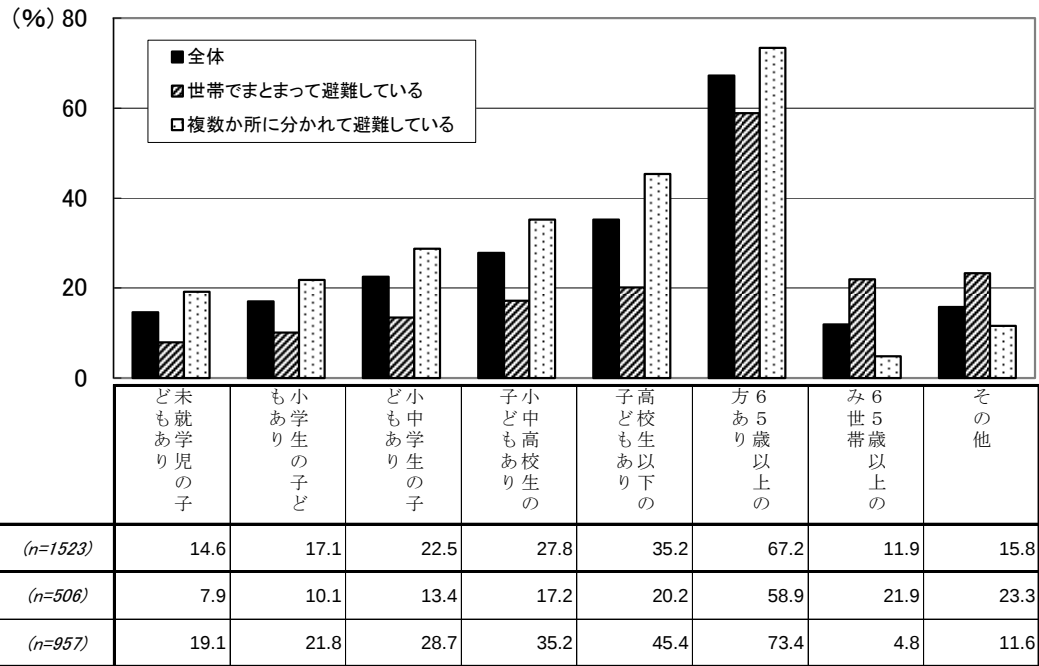
あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢を、あてはまる人数でご回答ください。

- ① あなたが現在いっしょに住んでいる方の人数を教えてください。
- ② あなたのお住まいとは別の、2か所目の住居にお住まいの方の人数を教えてください。
- ③ あなたのお住まいとは別の、3か所目の住居にお住まいの方の人数を教えてください。
- ④ あなたのお住まいとは別の、4か所目の住居にお住まいの方の人数を教えてください。

現在分散して居住している住居単位(①現在いっしょに住んでいる方、②2 か所目の住居にお住まいの方、③3 か所目の住居にお住まいの方、④4 か所目の住居にお住まいの方)の同居家族を合計して震災当時の世帯構成を算出したところ、「高校生以下の子どもあり」は 35.2%、「65 歳以上の方あり」は 67.2%、「65 歳以上のみの世帯」は 11.9%となっている。(図表 1-1-2)

世帯の避難状況別で見ると、世帯でまとまって避難している世帯に比べて、複数か所に分かれて避難している世帯では、子どもが含まれる世帯が多く、「高校生以下の子どもがいる」という回答は世帯でまとまって避難している世帯では 20.2%、複数か所に分かれて避難している世帯では 45.4%となっている。また、「65 歳以上の方あり」は、世帯でまとまって避難している世帯では 58.9%、複数か所に分かれて避難している世帯では 73.4%で、高齢者を含む世帯も分散居住しているケースが多い。(図表 1-1-2)

図表 1-1-2 震災当時の世帯構成(世帯の避難状況別)



世帯主(または代表者)の年代別に見ると、「高校生以下の子がいる」という回答は 30 代(70.7%)、40 代(64.0%)ではともに6割を超えている。また、40代以上の層では「65歳以上の方あり」がそれぞれ6割を超えている。「65歳以上のみ世帯」は 70 代以上の層で 38.8%を占めている。(図表 1-1-3)

図表 1-1-3 震災当時の世帯構成(年代別)

		未就学児の子どもあり	小学生の子どもあり	小中学生の子どもあり	小中高生の子もあり	高校生以下の子もあり	65歳以上の方あり	65歳以上のみ世帯	その他	無回答
全体	(n=1523)	14.6	17.1	22.5	27.8	35.2	67.2	11.9	15.8	4.8
20代以下	(n=82)	31.7	15.9	22.0	25.6	51.2	54.9	-	19.5	3.7
30代	(n=133)	45.9	43.6	48.1	49.6	70.7	39.8	-	15.8	1.5
40代	(n=175)	9.7	27.4	45.7	60.6	64.0	61.1	-	13.7	2.3
50代	(n=369)	11.1	10.8	16.0	22.0	27.6	61.8	-	24.9	4.1
60代	(n=352)	13.1	15.9	18.5	21.0	26.4	65.6	10.5	23.3	2.0
70代以上	(n=353)	6.8	8.2	11.3	16.1	20.1	90.7	38.8	-	9.3

(2) 世帯の分散避難状況

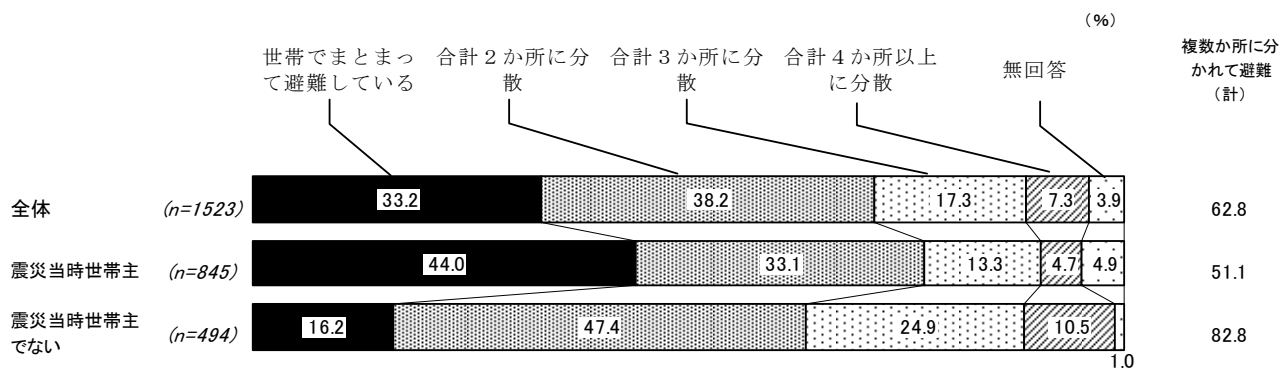
問 1(2) 震災発生当時ご一緒にお住まいであったご家族は、現在、何か所に分散してお住まいですか。(○は1つ)

世帯の分散避難の状況としては、「世帯でまとまって避難している」のは 33.2%にとどまり、62.8%の世帯が複数か所に分かれて避難している。分散か所数としては「合計2か所に分散」が 38.2%で最も多い。(図表 1-2-1)

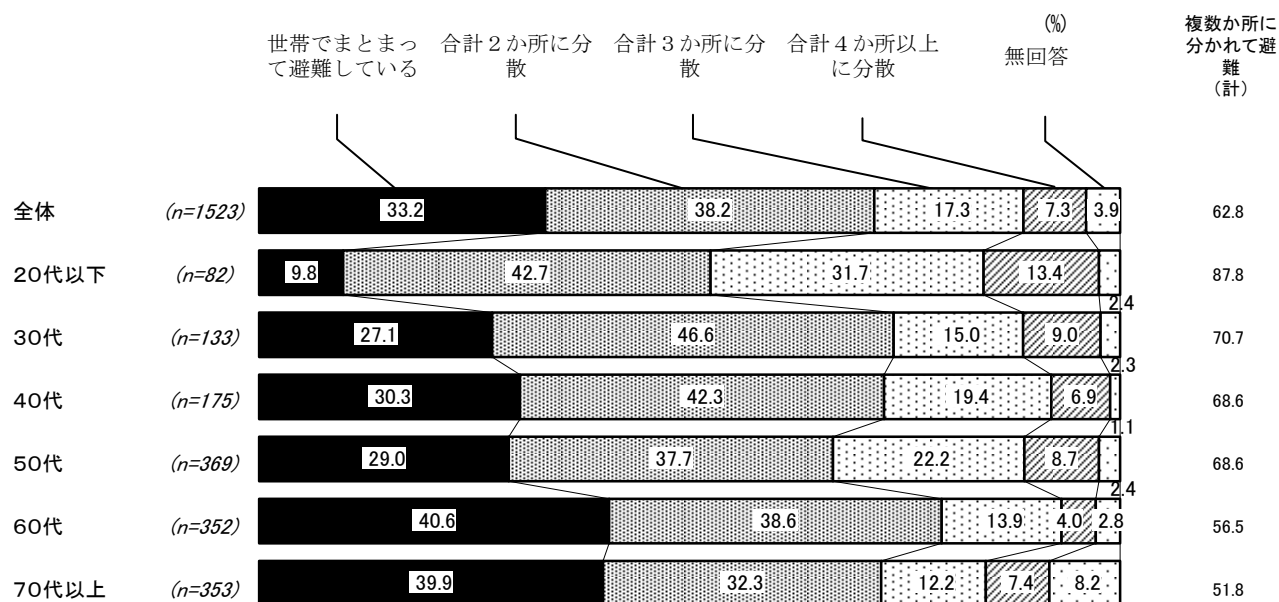
震災当時世帯主であったかどうかの別で見ると、震災当時世帯主では、「世帯でまとまって避難している」のは 44.0%で、複数か所に分かれているのは 51.1%である。分散か所数としては、「合計2か所に分散」が 33.1%で最も多い。震災当時世帯主ではない世帯では、複数か所に分かれているのは 82.8%で、分散居住のケースが多い。(図表 1-2-1)

世帯主(または代表者)の年代別に見ると、若い年代ほど複数か所に分かれて避難しており、20 代以下の層では 87.8%、30 代の層では 70.7%にものぼる。高年齢層では若年齢層ほど分散居住率は高くないものの、60 代の層で 56.5%、70 代以上の層で 51.8%と、半数以上は複数か所に分かれて居住している。(図表 1-2-2)

図表 1-2-1 世帯の分散状況(震災当時世帯主別)



図表 1-2-2 世帯の分散状況(年代別)



(3) 現在の同居家族構成

1) 現在の家族人数

問 1(3) 震災発生当時一緒にお住まいであったご家族を、現在住んでいらっしゃる住居ごとに教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢を、あてはまる人数でご回答ください。

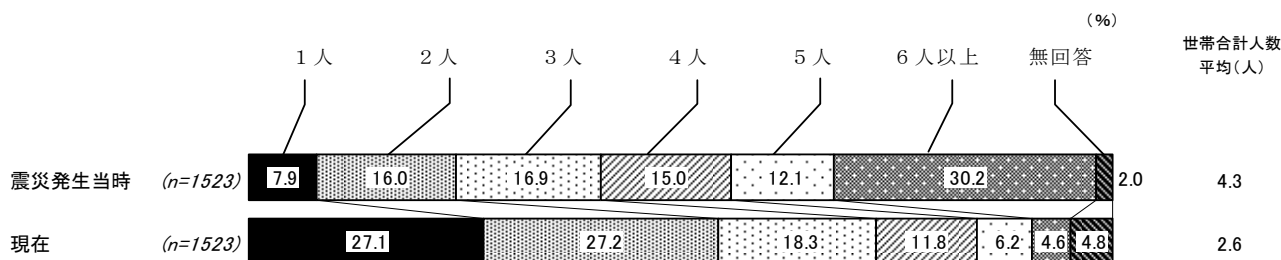
- ① あなたが現在いっしょに住んでいる方の人数を教えてください。
- ② あなたのお住まいとは別の、2か所目の住居にお住まいの方の人数を教えてください。
- ③ あなたのお住まいとは別の、3か所目の住居にお住まいの方の人数を教えてください。
- ④ あなたのお住まいとは別の、4か所目の住居にお住まいの方の人数を教えてください。

震災当時の同居家族人数(平均 4.3 人)と比較して、現在の同居家族人数は平均 2.6 人であり、震災前後で分散したことにより同居家族人数が減っている。特に、現在「1 人」で暮らしている世帯は 27.1%で、震災当時の 7.9%に比べて大幅に(19ポイント増)増加したほか、「2 人」も震災当時 16.0%から 27.2%へ増加している(11 ポイント増)。(図表 1-3-1)

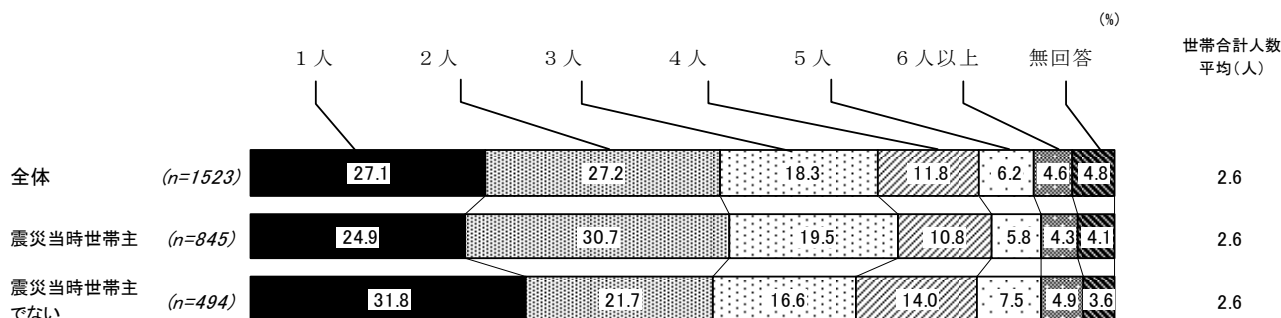
震災当時世帯主別で見ると、震災当時世帯主の世帯、震災当時世帯主でない世帯ともに、同居家族人数の平均は 2.6 人である。震災当時世帯主世帯の同居家族人数は「2 人」が 30.7%で最も多いのに対して、震災当時世帯主でない人では「1 人」が 31.8%で最も多い区分となっている。(図表 1-3-2)

世帯の避難状況別に見ると、世帯でまとまって避難している世帯では同居家族人数平均は 2.8 人で、複数か所に分かれて避難している世帯(平均 2.5 人)に比べてやや多い。世帯でまとまって避難している世帯では「2 人」が 29.6%で最も多いのに対して、複数か所に分かれて避難している世帯では「1 人」(29.3%)、「2 人」(27.6%)がともに 3 割弱で多い区分となっている。(図表 1-3-3)

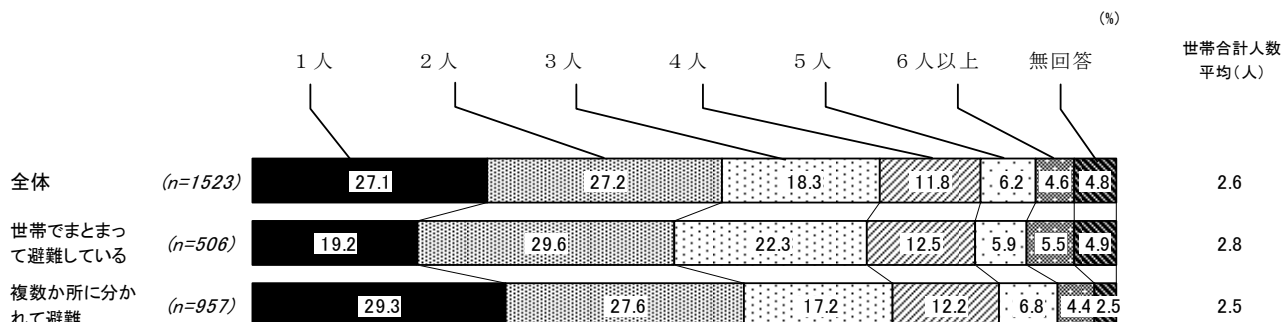
図表 1-3-1 同居家族人数



図表 1-3-2 現在の同居家族人数(震災当時世帯主別)



図表 1-3-3 現在の同居家族人数(世帯の避難状況別)



分散居住している住居別に見ると、2か所目の住居、3か所目の住居、4か所目の住居ともに「1人」での居住ケースが最も多い。特に3か所目・4か所目の住居では「1人」が半数を超えている。(図表 1-3-4)

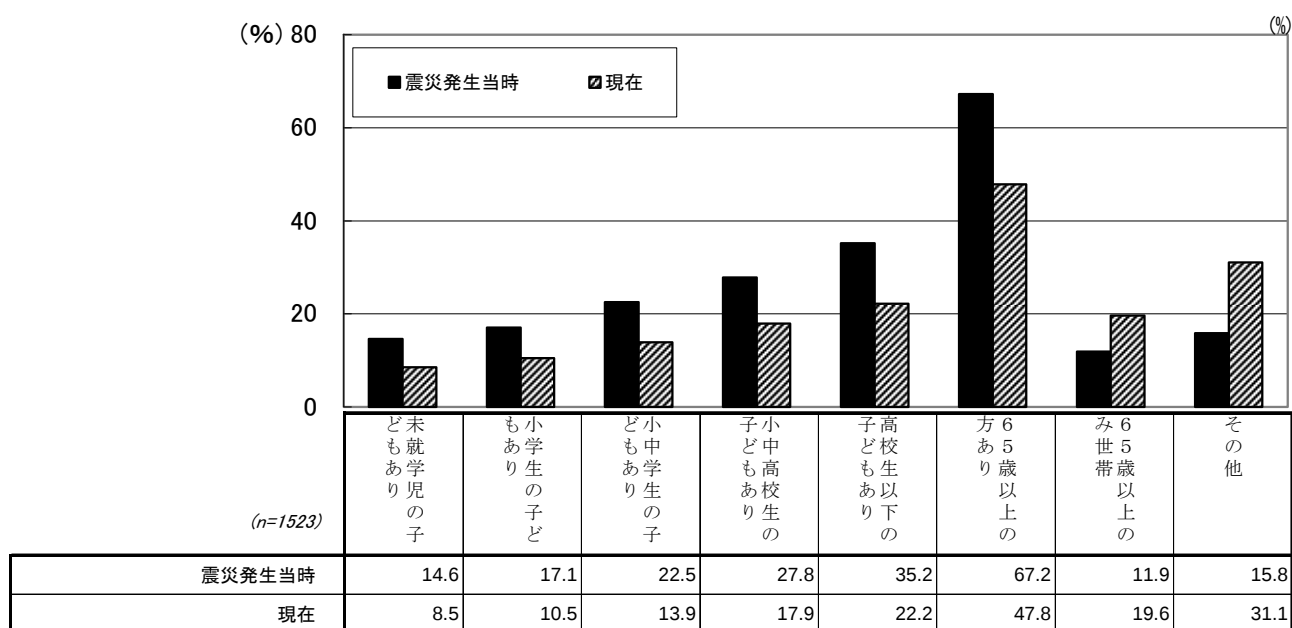
図表 1-3-4 現在の家族人数(分散避難単位別)

		(%)							
		1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	無回答	標準偏差
震災発生当時の世帯合計人数 (n=1523)		7.9	16.0	16.9	15.0	12.1	30.2	2.0	4.3
現在	現在の同居人数 計 (n=1523)	27.1	27.2	18.3	11.8	6.2	4.6	4.8	2.6
	2か所目同居人数 計 (n=957)	34.6	28.7	12.9	8.3	6.2	3.7	5.7	2.3
	3か所目同居人数 計 (n=375)	55.5	16.3	4.8	2.4	2.4	1.3	17.3	1.6
	4か所目同居人数 計 (n=111)	52.3	18.9	1.8	1.8	1.8	2.7	20.7	1.5

2) 現在の同居家族構成

現在同居家族の構成は、「高校生以下の子どもあり」は 22.2%、「65 歳以上の方あり」は 47.8%、「65 歳以上のみの世帯」は 19.6%となっている。震災当時の同居家族構成と比較すると、分散避難して居住している世帯が増えたことにより、「65 歳以上の方あり」(震災発生当時 67.2%、現在 47.8% 19 ポイント減)、「高校生以下の子どもあり」(同 35.2%、22.2% 13 ポイント減)はともに減少し、「65 歳以上のみ世帯」(同 11.9%、19.6% 8ポイント増)は増加している。(図表 1-3-5)

図表 1-3-5 現在の同居家族構成



(4) 現在避難している自治体

問3 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(○は1つ)

現在避難している自治体は、「福島市」が 56.2%と最も多く、次いで「伊達市」9.9%、「福島県外」7.0%、「相馬市」6.9%、「川俣町」6.7%、「南相馬市」6.1%の順が続いている。(図表 1-4-1)

世帯主(または代表者)の年代別に見ると、いずれの層でも「福島市」が 5 割を超えて多い状況は同じであるが、30代以下の層では「福島県外」が 1 割を超えている(20代 17.1%、30代 12.8%)。(図表 1-4-1)

図表 1-4-1 現在避難している自治体(年代別)

		(%)										
		福島市	伊達市	相馬市	川俣町	南相馬市	二本松市	国見町	郡山市	福島県内のその他の市町村	福島県外	無回答
全体	(n=1523)	56.2	9.9	6.9	6.7	6.1	1.4	1.1	0.4	2.6	7.0	1.8
20代以下	(n=82)	52.4	6.1	7.3	1.2	8.5	-	-	2.4	2.4	17.1	2.4
30代	(n=133)	52.6	7.5	3.0	8.3	4.5	4.5	-	0.8	5.3	12.8	0.8
40代	(n=175)	61.1	8.6	2.9	7.4	7.4	1.1	1.1	0.6	2.3	6.3	1.1
50代	(n=369)	55.3	9.5	8.4	8.9	8.4	1.4	0.8	-	1.6	4.3	1.4
60代	(n=352)	59.7	11.6	7.7	5.7	3.7	1.4	0.9	0.3	3.1	5.7	0.3
70代以上	(n=353)	53.0	10.8	7.9	5.4	6.2	1.1	2.0	0.3	2.3	7.1	4.0

震災当時の居住地区別に見ると、関沢地区、草野地区では「福島県外」への避難が1割を超えてやや多い。前田地区では「伊達市」への避難が最も多い(44.2%)。(図表 1-4-2)

図表 1-4-2 現在避難している自治体(震災当時の居住地区別)

(%)

		福島市	伊達市	相馬市	川俣町	南相馬市	二本松市	国見町	郡山市	福島県内のその他の市町村	福島県外	無回答
全体	(n=1523)	56.2	9.9	6.9	6.7	6.1	1.4	1.1	0.4	2.6	7.0	1.8
草野	(n=181)	54.1	11.0	7.2	2.2	7.7	1.1	2.2	1.1	2.2	10.5	0.6
深谷	(n=71)	62.0	12.7	4.2	4.2	2.8	1.4	-	1.4	7.0	2.8	1.4
伊丹沢	(n=84)	66.7	4.8	6.0	6.0	4.8	-	1.2	1.2	2.4	7.1	-
関沢	(n=78)	43.6	5.1	12.8	7.7	7.7	1.3	-	-	2.6	17.9	1.3
小宮	(n=111)	44.1	9.0	11.7	3.6	15.3	0.9	1.8	-	5.4	8.1	-
八木沢・芦原	(n=31)	54.8	3.2	3.2	3.2	32.3	-	-	-	3.2	-	-
大倉	(n=34)	8.8	-	70.6	2.9	2.9	-	-	-	-	14.7	-
佐須	(n=49)	46.9	34.7	4.1	-	2.0	-	8.2	-	-	4.1	-
宮内	(n=62)	59.7	8.1	4.8	4.8	8.1	3.2	-	-	1.6	8.1	1.6
飯樋町	(n=98)	57.1	9.2	3.1	8.2	5.1	4.1	1.0	-	4.1	8.2	-
前田・八和木	(n=81)	65.4	3.7	8.6	8.6	6.2	1.2	-	1.2	-	4.9	-
大久保・外内	(n=62)	64.5	6.5	3.2	6.5	9.7	3.2	-	-	3.2	3.2	-
上飯樋	(n=121)	71.1	4.1	1.7	12.4	1.7	0.8	1.7	-	0.8	5.0	0.8
比曽	(n=76)	73.7	5.3	1.3	10.5	-	2.6	-	-	1.3	3.9	1.3
長泥	(n=71)	59.2	7.0	7.0	8.5	4.2	4.2	-	-	1.4	7.0	1.4
蕨平	(n=43)	58.1	14.0	9.3	2.3	11.6	-	-	-	2.3	2.3	-
関根・松塚	(n=46)	58.7	15.2	2.2	6.5	6.5	-	-	2.2	4.3	4.3	-
臼石	(n=68)	61.8	17.6	1.5	7.4	2.9	-	-	-	2.9	4.4	1.5
前田	(n=52)	28.8	44.2	1.9	13.5	-	-	-	-	5.8	5.8	-
二枚橋・須萱	(n=55)	63.6	5.5	1.8	16.4	-	3.6	3.6	-	-	5.5	-
その他	(n=8)	37.5	-	12.5	-	12.5	-	-	-	12.5	25.0	-

(5) 現在住んでいる住宅の所有形態

問4 現在お住まいになっている住宅はどのような所有形態ですか。(〇は1つ)

避難先自治体で現在住んでいる住宅の所有形態としては、「借上げ住宅(借上げ型の仮設住宅。無償)」が 55.5%と最も多く、「プレハブ型の仮設住宅(無償)」が 16.5%、「民間賃貸(有償)」が 14.1%の順となっている。(図表 1-5-1)

世帯の避難状況別に見ると、いずれも「借上げ住宅(借上げ型の仮設住宅。無償)」が5割を超えて最も多いのは同様であるが、まとまって避難している世帯では「プレハブ型の仮設住宅(無償)」が2割を超えている(21.3%)のに対し、複数か所に分かれて避難している世帯では、「民間賃貸(有償)」と「プレハブ型の仮設住宅(無償)」はともに1割台で並んでいる。(図表 1-5-1)

図表 1-5-1 現在住んでいる住宅の所有形態(世帯の避難状況別)

		(%)								
		借上げ住宅 (借上げ型の仮設住宅。 無償)	プレハブ 型の仮設 住宅(無 償)	民間賃貸 (有償)	社宅、公 務員宿舎	親戚・知 人宅	持ち家 (ご本人 またはご 家族所 有)	家族ど なたか のお住 まい・ 実家	その他	無回答
全体	(n=1523)	55.5	16.5	14.1	6.0	1.6	1.6	1.3	1.5	1.8
世帯でまとまって 避難している	(n=506)	52.8	21.3	12.3	4.2	2.6	2.6	2.0	1.2	1.2
複数か所に分か れて避難	(n=957)	58.5	13.7	14.9	7.3	1.0	1.0	0.9	1.8	0.7

年代別に見ると、50代以下の層では「借上げ住宅(借上げ型の仮設住宅。無償)」が6割を超えるのに対して、60代以上の層では6割を下回っている(60代 55.1%、70代以上 40.5%)。一方、「プレハブ型の仮設住宅(無償)」は、40代以下の層では1割に満たないが、50代以降高齢になるほど構成比が高くなっている(50代 16.0%、60代 19.6%、70代以上 26.6%)。(図表 1-5-2)

図表 1-5-2 現在住んでいる住宅の所有形態(年代別)

		(%)								
		借上げ住宅 (借上げ型の仮設住宅。 無償)	プレハブ 型の仮設 住宅(無 償)	民間賃貸 (有償)	社宅、公 務員宿舎	親戚・知 人宅	持ち家 (ご本人 またはご 家族所 有)	家族ど なたか のお住 まい・ 実家	その他	無回答
全体	(n=1523)	55.5	16.5	14.1	6.0	1.6	1.6	1.3	1.5	1.8
20代以下	(n=82)	64.6	4.9	17.1	7.3	-	3.7	1.2	-	1.2
30代	(n=133)	62.4	5.3	16.5	10.5	-	0.8	0.8	3.8	-
40代	(n=175)	68.0	5.7	14.9	6.9	1.7	1.7	-	-	1.1
50代	(n=369)	60.7	16.0	13.3	6.0	0.5	0.5	0.5	0.5	1.9
60代	(n=352)	55.1	19.6	15.6	4.8	1.7	0.6	1.4	0.6	0.6
70代以上	(n=353)	40.5	26.6	10.5	4.5	3.7	3.4	3.1	4.0	3.7

現在の避難先別に見ると、福島市、伊達市、川俣町、南相馬市避難世帯では「借上げ住宅(借上げ型の仮設住宅。無償)」居住が最も多く、5 割を超えているのに対して、相馬市避難の世帯では「プレハブ型の仮設住宅(無償)」が 68.6%で最も多い。川俣町避難世帯では、「民間賃貸(有償)」が 26.5%で、他自治体への避難世帯に比べて多くなっている。(図表 1-5-3)

図表 1-5-3 現在住んでいる住宅の所有形態(現在の避難先別)

		(%)								
		借上げ住宅 (借上げ型の仮設住宅。 無償)	プレハブ 型の仮設 住宅(無 償)	民間賃貸 (有償)	社宅、公 務員宿舎	親戚・知 人宅	持ち家 (ご本人 またはご 家族所有)	家族どなたかのお 住まい・実家	その他	無回答
全体	(n=1523)	55.5	16.5	14.1	6.0	1.6	1.6	1.3	1.5	1.8
福島市	(n=856)	58.5	14.7	12.5	9.5	0.6	0.9	1.2	1.3	0.8
伊達市	(n=151)	59.6	22.5	13.9	1.3	0.7	0.7	0.7	-	0.7
相馬市	(n=105)	22.9	68.6	4.8	1.0	-	-	1.9	-	1.0
川俣町	(n=102)	68.6	-	26.5	-	2.0	2.9	-	-	-
南相馬市	(n=93)	77.4	3.2	7.5	-	3.2	3.2	4.3	-	1.1
二本松市	(n=22)	68.2	-	18.2	4.5	4.5	-	4.5	-	-
国見町	(n=16)	25.0	75.0	-	-	-	-	-	-	-
郡山市	(n=6)	50.0	-	16.7	16.7	-	-	16.7	-	-
福島県内のその他の市町村	(n=39)	71.8	10.3	15.4	-	-	-	2.6	-	-
福島県外	(n=106)	30.2	-	34.9	3.8	6.6	8.5	3.8	11.3	0.9

2. 避難生活における困りごと

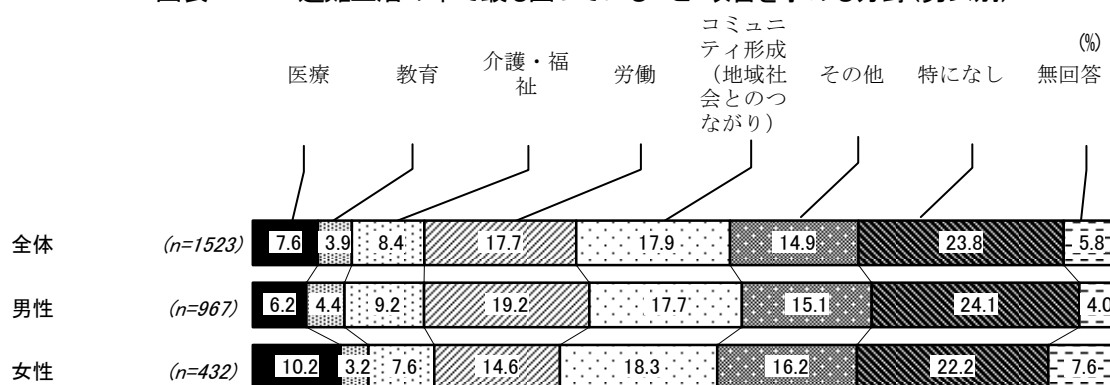
(1) 避難生活の中で最も困っていること・改善を求める分野

問5 ご自身またはご家族が、現在の避難生活においてもっとも困っていること、改善を求める分野を1つ教えてください。
(○は1つ)

世帯主(または代表者)自身または家族が現在の避難生活において最も困っていること・改善を求める分野としては、「コミュニティ形成(地域社会とのつながり)」(17.9%)、および「労働」(17.7%)がともに17%台で並び、多くなっている。「特になし」との回答も2割以上(23.8%)ある。「その他」の自由回答では、住宅関係のこと、生活費のこと、将来の生活不安などが挙げられている。(図表2-1-1)

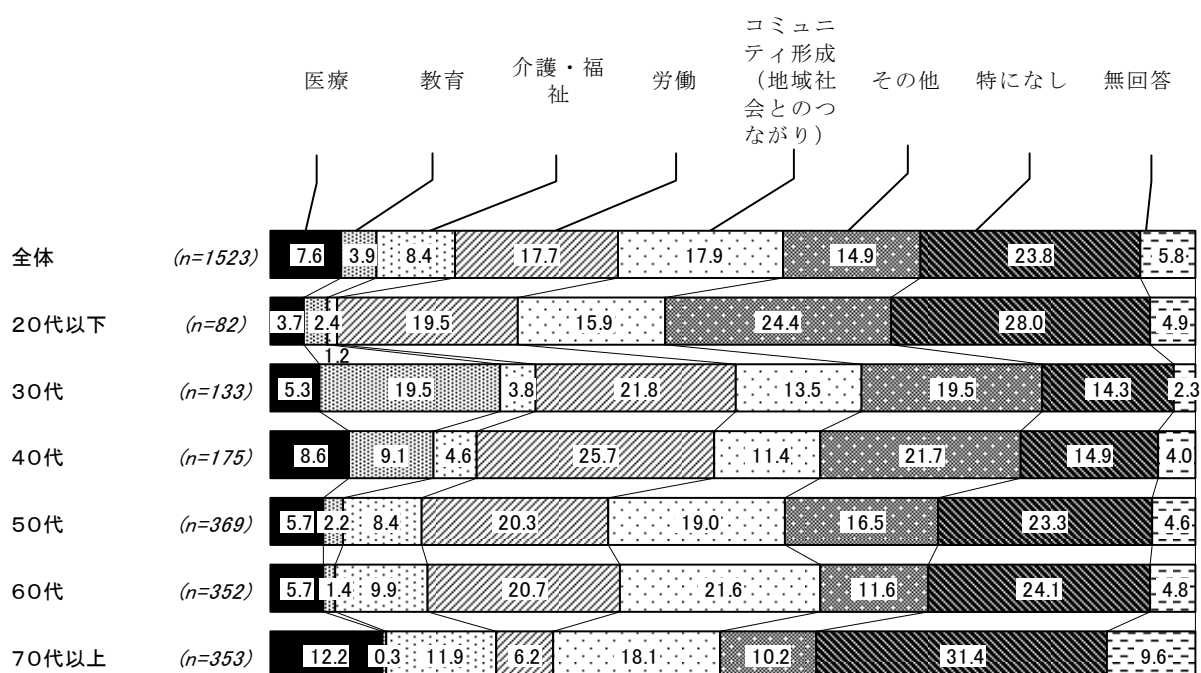
男女別に見ると、女性に比べて男性で「労働」という回答がやや多くなっている(男性19.2%、女性14.6%)。(図表2-1-1)

図表2-1-1 避難生活の中で最も困っていること・改善を求める分野(男女別)



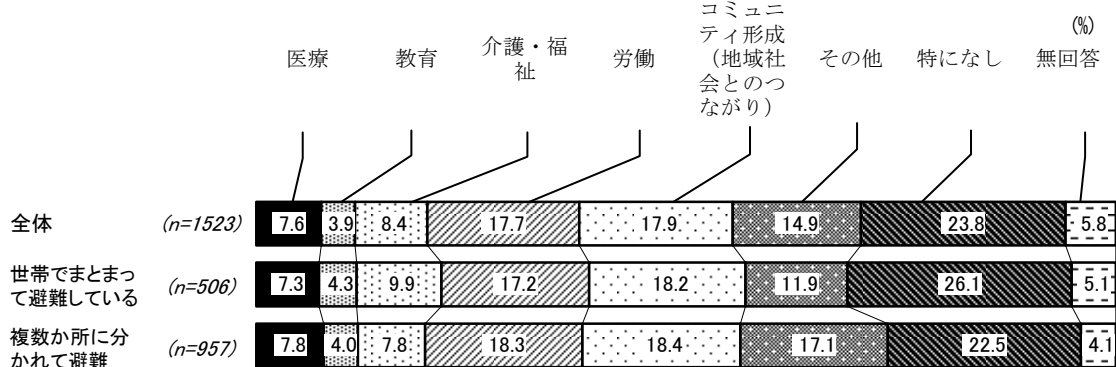
年代別に見ると、「労働」という回答が多いのは30代から60代の層で、いずれも2割を超えている。「コミュニティ形成」という回答が多いのは、60代(21.6%)のほか、50代・70代以上の層でもほぼ2割前後となっており、高齢年齢層における困りごとの上位内容となっている。「教育」は30代(19.5%)、40代(9.1%)で多くなっている。「医療」は70代以上の層では12.2%で、他の年齢層に比べて多い。(図表2-1-2)

図表2-1-2 避難生活の中で最も困っていること・改善を求める分野(年代別)



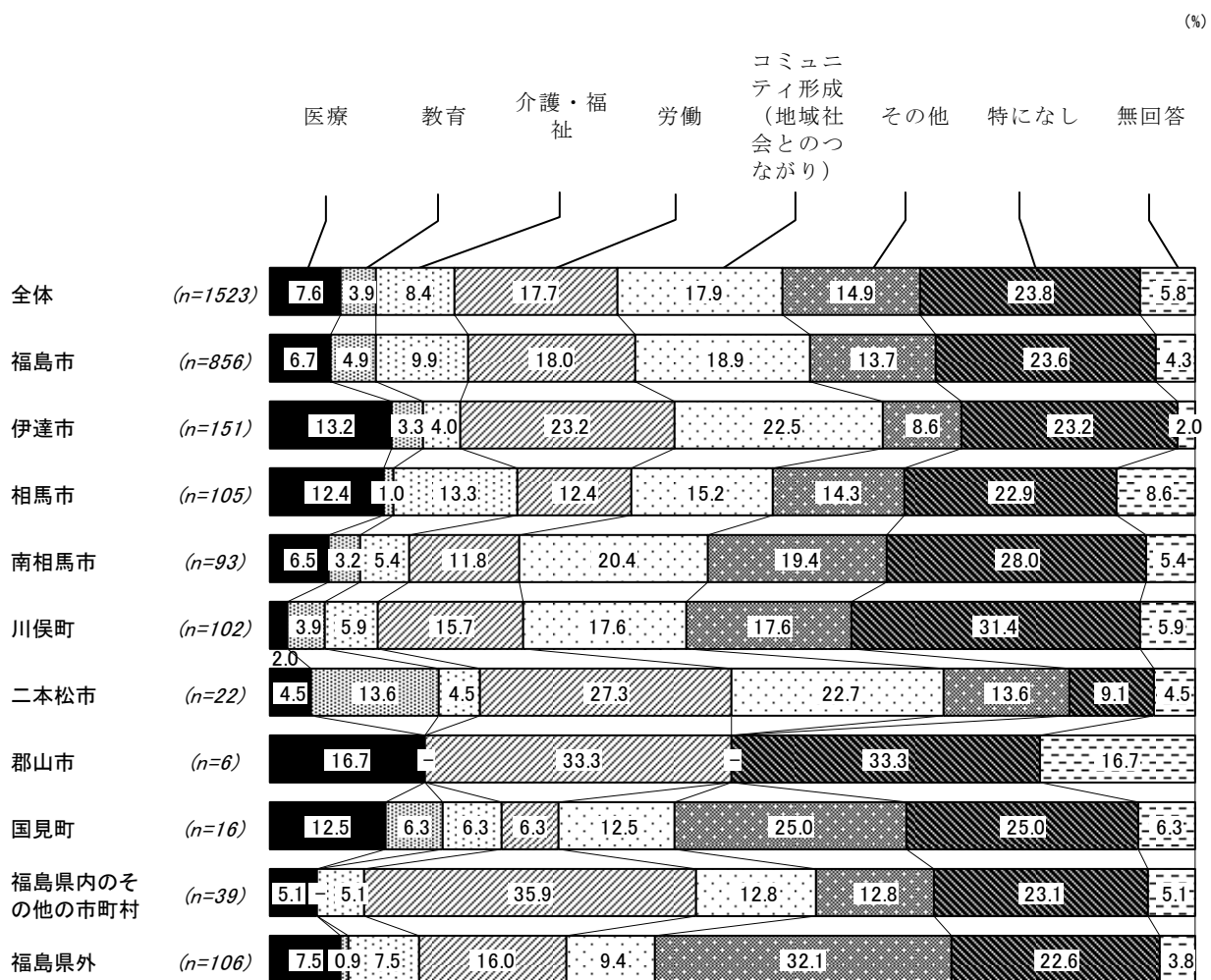
避難状況別では、大きな差異は見られない。(図表 2-1-3)

図表 2-1-3 避難生活の中で最も困っていること・改善を求める分野(避難状況別)



現在の避難先別に見ると、伊達市の避難世帯では「労働」(23.2%)、「コミュニティ形成(地域社会とのつながり)」(22.5%)がともに 2 割を超えて多いほか、「医療」が 13.2%と、他の自治体避難世帯に比べて多い。相馬市では、「コミュニティ形成(地域社会とのつながり)」(15.2%)、「介護・福祉」(13.3%)、「医療」「労働」(ともに 12.4%)が 1 割台のほぼ同程度で並んでいる。(図表 2-1-4)

図表 2-1-4 避難生活の中で最も困っていること・改善を求める分野(現在の避難先別)



(2) 医療サービスについて困っていること

問6 ご自身またはご家族が、医療サービスについて困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

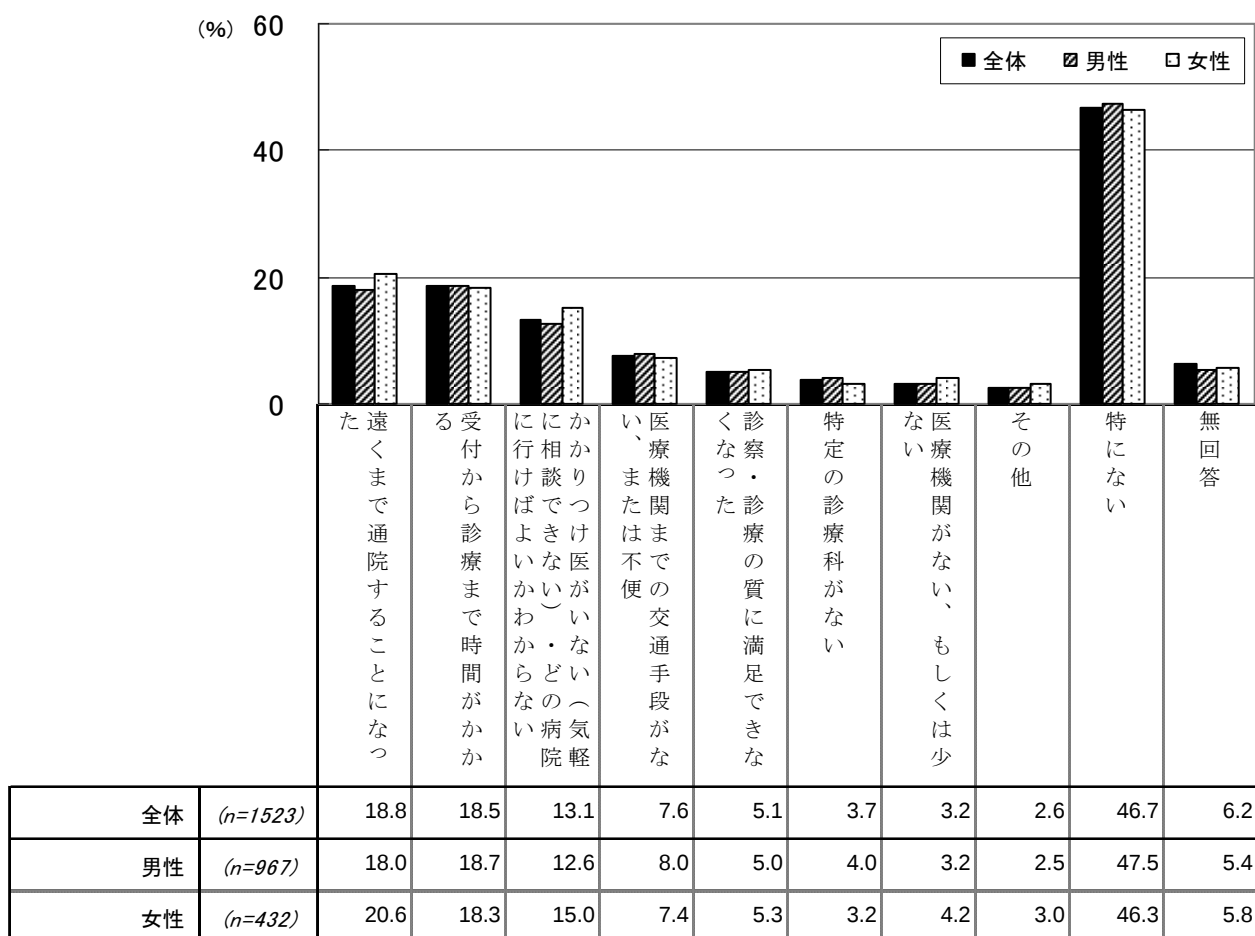
世帯主(または代表者)自身または家族が医療サービスについて困っていることを複数回答で聞いたところ、「遠くまで通院することになった」(18.8%)、「受付から診療まで時間がかかる」(18.5%)がともに2割弱で並び、「かかりつけ医がない(気軽に相談できない)・どの病院に行けばよいかわからない」(13.1%)がそれに続き、上位を占めている。なお、「特にない」という回答も半数近く(46.7%)ある。(図表 2-2-1)

男女別には、大きな差は見られない。(図表 2-2-1)

年代別に見ると、30代・20代以下の層で「かかりつけ医がない(気軽に相談できない)・どの病院に行けばよいかわからない」との回答が2割を超え、他の年齢層に比べて高くなっている。(図表 2-2-2)

現在の避難生活において最も困っていること・改善を求める分野(P23 図表 2-1-4 参照)で、「医療」が1割を超えて多かった伊達市、相馬市の避難者において、困っている内容として多いのは「遠くまで通院することになった」(伊達市 23.8%、相馬市 32.4%)や、「受付から診療まで時間がかかる」(同 19.2%、23.8%)のほか、相馬市では、「かかりつけ医がない(気軽に相談できない)・どの病院に行けばよいかわからない」(19.0%)や、「医療機関がない、もしくは少ない」(8.6%)といった内容について、他の自治体避難者に比べて多くあげられている。(図表 2-2-3)

図表 2-2-1 医療サービスについて困っていること(男女別)



図表 2-2-2 医療サービスについて困っていること(年代別)

(%)

		遠くまで 通院する ことにな った	受付から 診療まで 時間がか かる	かかりつ け医がい ない(気 軽に相談 できな い)・ど の病院に 行けばよ いかわか らない	医療機関 までの交 通手段が ない、ま たは不便	診察・診 療の質に 満足でき なくなっ た	特定の診 療科がな い	医療機関 がない、 もしくは 少ない	その他	特にな い	無回答
全体	(n=1523)	18.8	18.5	13.1	7.6	5.1	3.7	3.2	2.6	46.7	6.2
20代以下	(n=82)	13.4	13.4	20.7	—	1.2	4.9	4.9	4.9	48.8	3.7
30代	(n=133)	10.5	22.6	27.1	3.0	5.3	2.3	3.8	4.5	45.1	2.3
40代	(n=175)	17.1	20.0	16.0	9.1	4.0	3.4	4.0	1.7	48.0	5.1
50代	(n=369)	22.0	19.2	12.5	8.9	5.1	3.3	3.5	2.7	43.4	5.7
60代	(n=352)	17.6	18.5	11.1	5.1	4.8	4.5	2.3	2.3	53.1	5.4
70代以上	(n=353)	22.7	17.6	7.9	11.9	7.1	4.0	3.4	2.3	43.9	7.9

図表 2-2-3 医療サービスについて困っていること(現在の避難先別)

(%)

		遠くまで 通院する ことにな った	受付から 診療まで 時間がか かる	かかりつ け医がい ない(気 軽に相談 できな い)・ど の病院に 行けばよ いかわか らない	医療機関 までの交 通手段が ない、ま たは不便	診察・診 療の質に 満足でき なくなっ た	特定の診 療科がな い	医療機関 がない、 もしくは 少ない	その他	特にな い	無回答
全体	(n=1523)	18.8	18.5	13.1	7.6	5.1	3.7	3.2	2.6	46.7	6.2
福島市	(n=856)	17.4	17.2	12.4	6.5	5.1	2.9	1.8	2.8	49.2	5.8
伊達市	(n=151)	23.8	19.2	12.6	9.9	4.6	4.0	0.7	4.0	41.7	7.3
相馬市	(n=105)	32.4	23.8	19.0	9.5	2.9	5.7	8.6	1.9	29.5	7.6
南相馬市	(n=93)	15.1	28.0	10.8	8.6	7.5	4.3	7.5	2.2	46.2	6.5
川俣町	(n=102)	16.7	20.6	9.8	8.8	3.9	6.9	4.9	1.0	49.0	4.9
二本松市	(n=22)	36.4	27.3	9.1	9.1	9.1	4.5	4.5	—	31.8	4.5
郡山市	(n=6)	33.3	—	—	—	—	—	—	—	66.7	—
国見町	(n=16)	25.0	18.8	6.3	18.8	6.3	6.3	6.3	—	68.8	—
福島県内のそ 他の市町村	(n=39)	15.4	12.8	20.5	—	5.1	—	10.3	—	46.2	7.7
福島県外	(n=106)	12.3	15.1	20.8	9.4	5.7	2.8	3.8	4.7	50.9	2.8

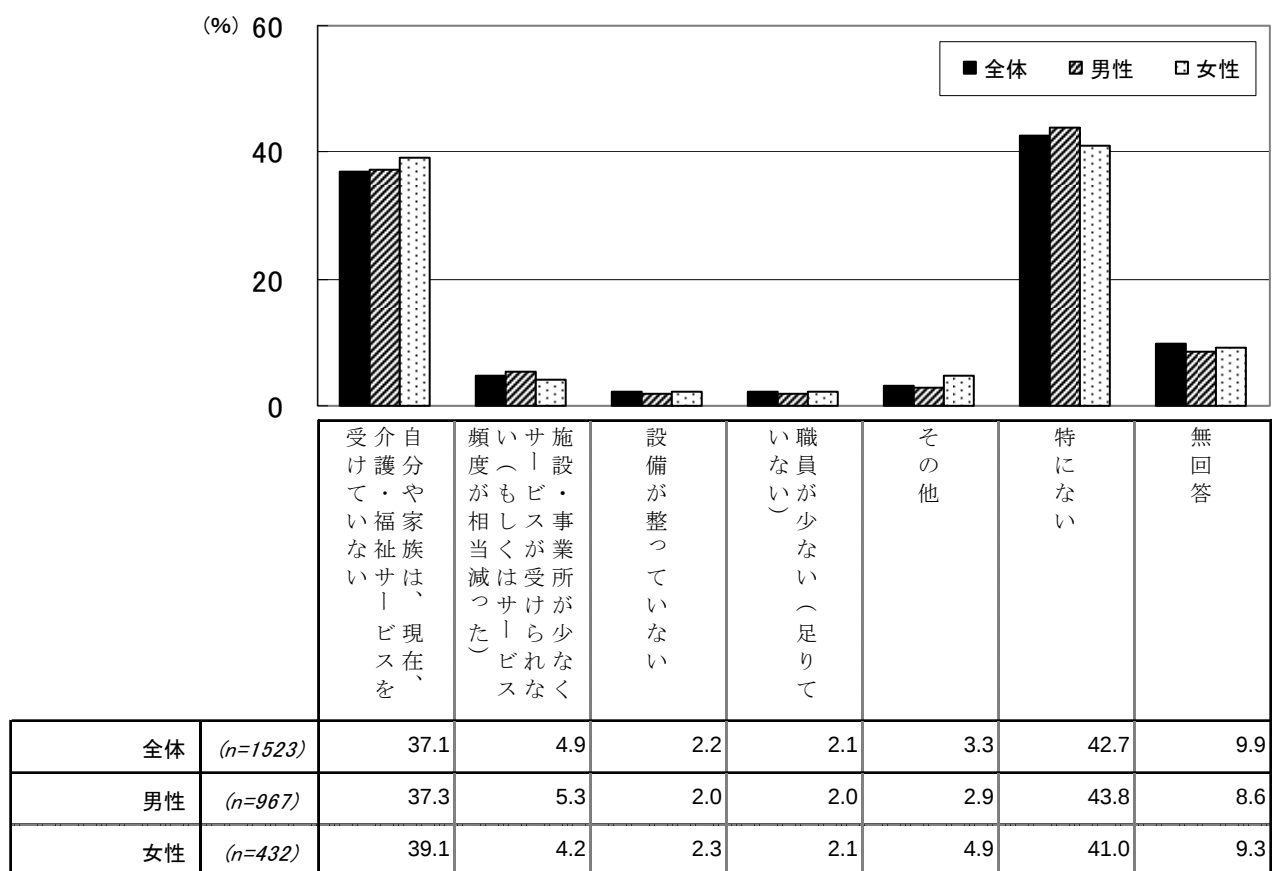
(3) 介護・福祉サービスについて困っていること

問7 ご自身またはご家族が受けている介護・福祉サービスについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

世帯主(または代表者)自身または家族が受けている介護・福祉サービスについて困っていることとしては、「施設・事業所が少なくサービスが受けられない(もしくはサービス頻度が相当減った)」が 4.9%、「設備が整っていない」が 2.2%、「職員が少ない(足りていない)」が 2.1%の順となっている。なお、介護・福祉サービスで困っていることが「特にない」は 42.7%、「自分や家族は、介護・福祉サービスを受けていない」は 37.1%を占める。(図表 2-3-1)

男女別、年代別、現在の避難先別に見ても、大きな差はみられない。(図表 2-3-1) (図表 2-3-2) (図表 2-3-3)

図表 2-3-1 介護・福祉サービスについて困っていること(男女別)



図表 2-3-2 介護・福祉サービスについて困っていること(年代別)

(%)

		自分や家族は、現在、介護・福祉サービスを受けていない	施設・事業所が少なくサービスが受けられない（もしくはサービス頻度が相当減った）	設備が整っていない	職員が少ない（足りていない）	その他	特にない	無回答
全体	(n=1523)	37.1	4.9	2.2	2.1	3.3	42.7	9.9
20代以下	(n=82)	34.1	—	—	—	3.7	57.3	4.9
30代	(n=133)	38.3	2.3	0.8	2.3	3.0	47.4	6.8
40代	(n=175)	41.1	5.7	1.1	0.6	2.9	46.9	4.0
50代	(n=369)	37.9	6.0	2.2	2.2	2.4	43.1	8.7
60代	(n=352)	37.8	6.0	2.8	2.8	6.3	38.9	8.5
70代以上	(n=353)	35.7	4.8	3.1	2.5	1.7	39.7	14.7

図表 2-3-3 介護・福祉サービスについて困っていること(現在の避難先別)

(%)

		自分や家族は、現在、介護・福祉サービスを受けていない	施設・事業所が少なくサービスが受けられない（もしくはサービス頻度が相当減った）	設備が整っていない	職員が少ない（足りていない）	その他	特にない	無回答
全体	(n=1523)	37.1	4.9	2.2	2.1	3.3	42.7	9.9
福島市	(n=856)	36.2	4.6	2.7	2.2	4.6	42.5	9.8
伊達市	(n=151)	45.0	4.0	0.7	2.0	0.7	39.1	10.6
相馬市	(n=105)	39.0	7.6	2.9	3.8	1.0	41.0	7.6
南相馬市	(n=93)	37.6	4.3	—	2.2	3.2	43.0	10.8
川俣町	(n=102)	33.3	5.9	—	2.0	1.0	48.0	9.8
二本松市	(n=22)	54.5	4.5	9.1	4.5	9.1	27.3	4.5
郡山市	(n=6)	16.7	—	—	—	—	83.3	—
国見町	(n=16)	37.5	—	—	6.3	—	56.3	—
福島県内のその他の市町村	(n=39)	35.9	10.3	2.6	—	—	38.5	12.8
福島県外	(n=106)	34.0	4.7	1.9	—	2.8	49.1	8.5

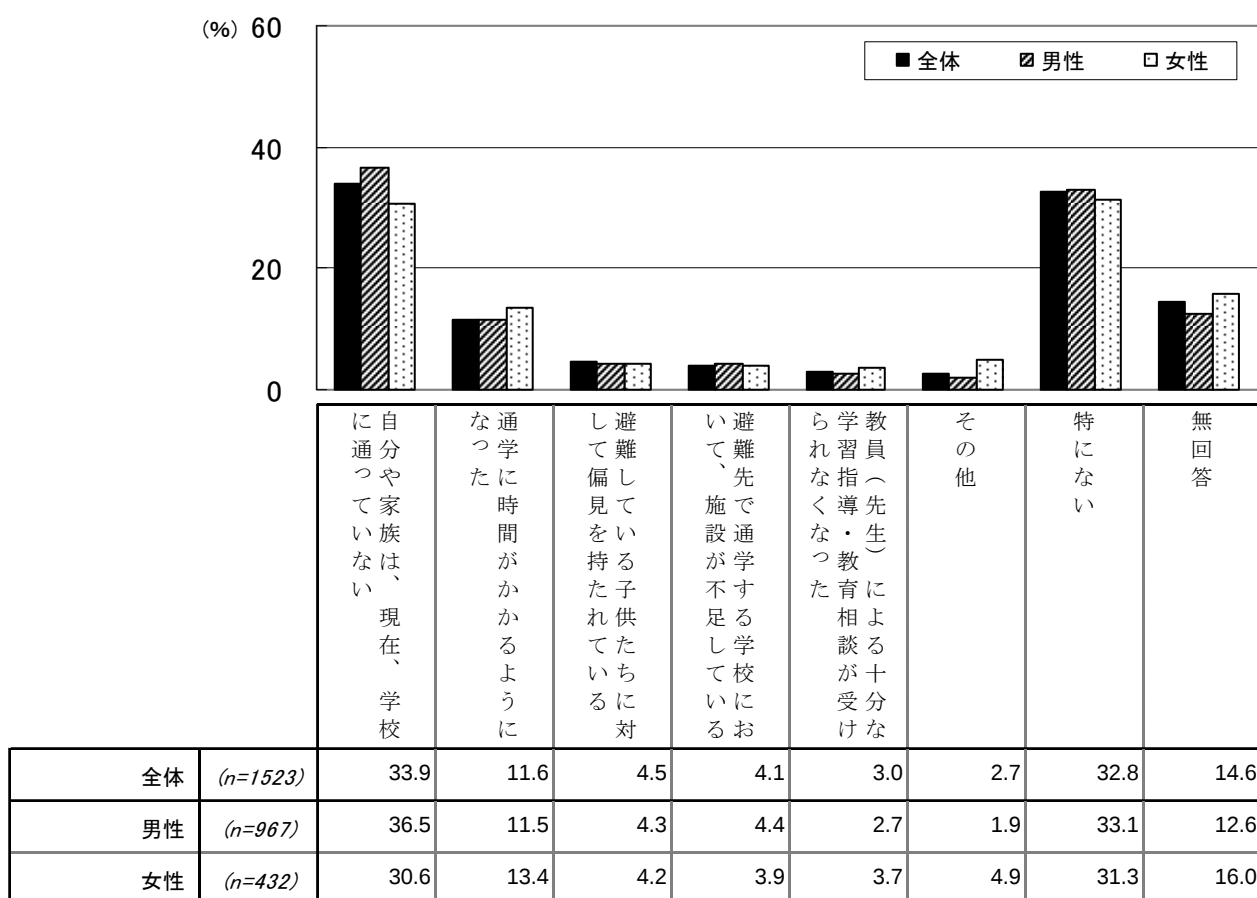
(4) 教育(学校)について困っていること

問8 ご自身またはご家族が受けている教育(学校)について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいくつでも)

世帯主(または代表者)自身または家族が受けている教育(学校)について困っていることを聞いたところ、「通学に時間がかかるようになった」(11.6%)が最も多く、以下、「避難している子供たちに対して偏見を持たれている」(4.5%)、「避難先で通学する学校において、施設が不足している」(4.1%)、「教員(先生)による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなった」(3.0%)の順である。また、「特にない」という回答者は、32.8%、「自分や家族は、現在、学校に通って教育を受けていない」は33.9%である。(図表 2-4-1)

男女別に見ても、大きな差はみられない。(図表 2-4-2)

図表 2-4-1 教育(学校)について困っていること(男女別)



年代別に見ると、20代では「特にない」が4割を超えている。また、30代・40代で「通学に時間がかかるようになった」という回答が2割を超えており、他の年齢層に比べて多い。(図表2-4-2)

図表2-4-2 教育(学校)について困っていること(年代別)

(%)

		自分や家族は、現在、学校に通っていない	通学に時間がかかるようになった	避難している子供たちに対して偏見を持たれている	避難先で通学する学校において、施設が不足している	教員(先生)による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなった	その他	特にない	無回答
全体	(n=1523)	33.9	11.6	4.5	4.1	3.0	2.7	32.8	14.6
20代以下	(n=82)	28.0	14.6	3.7	2.4	2.4	7.3	43.9	4.9
30代	(n=133)	24.1	23.3	4.5	7.5	7.5	6.8	32.3	5.3
40代	(n=175)	17.7	27.4	8.6	10.9	6.9	6.3	33.7	6.9
50代	(n=369)	35.2	11.1	4.1	3.8	2.4	2.4	36.9	11.1
60代	(n=352)	44.9	6.3	3.4	3.4	1.4	0.9	31.3	12.2
70代以上	(n=353)	36.3	4.2	3.4	1.1	1.7	0.3	27.5	28.6

現在の避難先別に見ると、福島市の避難世帯では、「通学に時間がかかるようになった」という回答が15.0%で、他の市町村への避難世帯に比べてやや多い。(図表2-4-3)

図表2-4-3 教育(学校)について困っていること(現在の避難先別)

(%)

		自分や家族は、現在、学校に通っていない	通学に時間がかかるようになった	避難先で通学する学校において、施設が不足している	教員(先生)による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなった	避難している子供たちに対して偏見を持たれている	その他	特にない	無回答
全体	(n=1523)	33.9	11.6	4.1	3.0	4.5	2.7	32.8	14.6
福島市	(n=856)	33.9	15.0	4.6	3.5	5.3	2.6	29.8	14.1
伊達市	(n=151)	41.1	6.0	4.6	0.7	2.6	2.6	32.5	15.2
相馬市	(n=105)	33.3	9.5	1.0	2.9	3.8	4.8	32.4	19.0
南相馬市	(n=93)	33.3	9.7	5.4	2.2	—	1.1	37.6	15.1
川俣町	(n=102)	29.4	7.8	6.9	2.0	3.9	2.0	36.3	15.7
二本松市	(n=22)	40.9	13.6	4.5	—	4.5	—	31.8	9.1
郡山市	(n=6)	33.3	16.7	—	16.7	—	—	33.3	—
国見町	(n=16)	37.5	6.3	—	6.3	6.3	—	43.8	12.5
福島県内のその他の市町村	(n=39)	35.9	—	—	5.1	5.1	—	41.0	15.4
福島県外	(n=106)	29.2	4.7	1.9	2.8	5.7	6.6	45.3	8.5

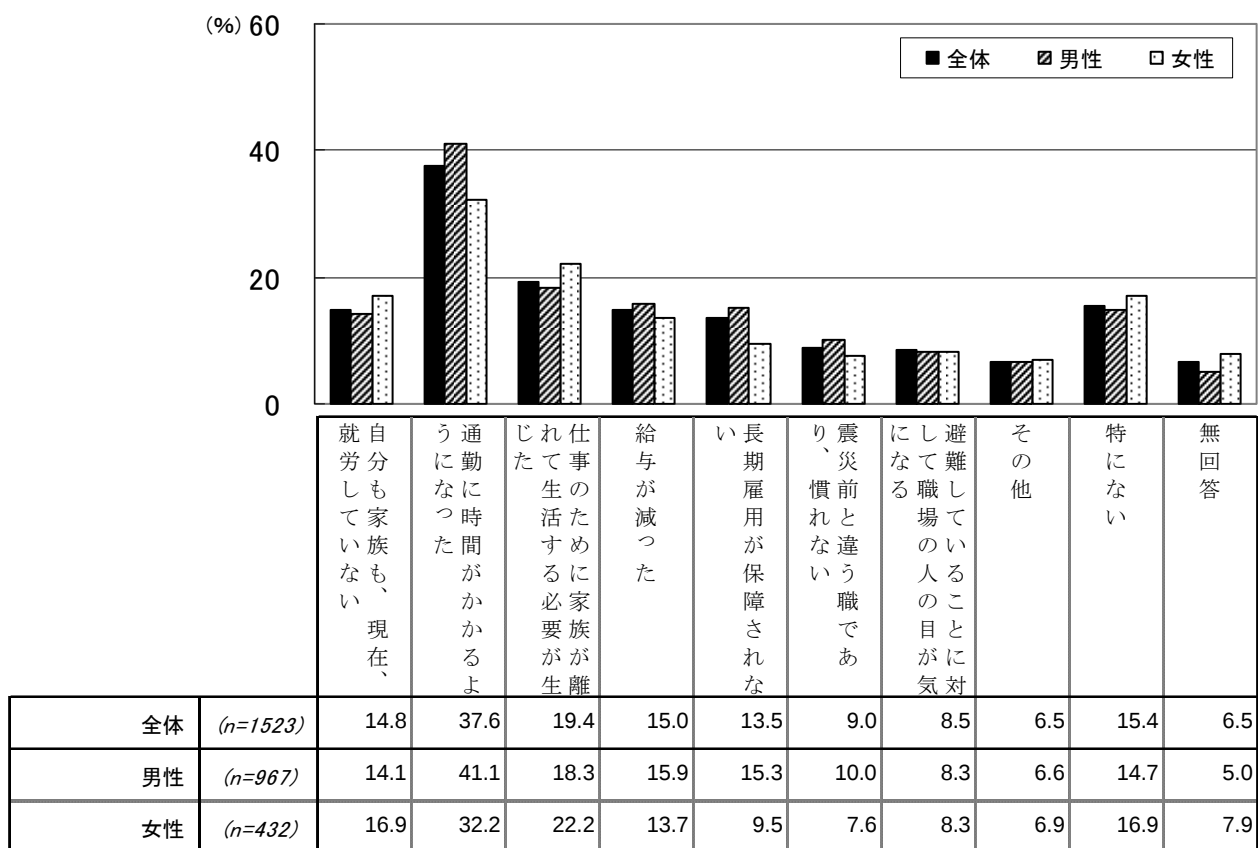
(5) 就労について困っていること

問9 ご自身またはご家族の労働について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。
(○はいくつでも)

世帯主(または代表者)自身または家族の労働について困っていることを聞いたところ、「通勤に時間がかかるようになった」が 37.6%で最も多くあげられ、以下「仕事のために家族が離れて生活する必要が生じた」(19.4%)、「給与が減った」(15.0%)、「長期雇用が保障されない」(13.5%)という順となっている。また、「自分も家族も、現在、就労していない」という回答は 14.8%、「特にない」という回答は 15.4%である。(図表 2-5-1)

男女別に見ると、「通勤に時間がかかるようになった」(男性 41.1%、女性 32.2%)、「長期雇用が保障されない」(男性 15.3%、女性 9.5%)は、女性に比べて男性で回答が多くなっている。(図表 2-5-1)

図表 2-5-1 労働について困っていること(男女別)



年代別に見ると、60代以下の各年代層で「通勤に時間がかかるようになった」との回答が4割を超えて最も多いという点は共通しているが、そのほかの困りごとについては年代によって差異が見られる。「仕事のために家族が離れて生活する必要が生じた」という回答は、20代以下の層では26.8%、50代の層では26.6%と多くなっている。「給与が減った」との回答は、20代以下の層で23.2%、30代で22.6%であり、若年齢層にやや多くなっている。「長期雇用が保障されない」という回答は、50代で19.2%、60代で17.9%であり、この両層でやや多くなっている。「震災前と違う職であり、慣れない」という回答は、20代以下の層で17.1%であるなど、若年層でやや多くなっている。「避難していることに対して職場の人の目が気になる」という回答は、30代では20.3%で唯一2割を超えており、他の年代よりも多くなっている。(図表2-5-2)

図表 2-5-2 労働について困っていること(年代別)

(%)

		自分も家族も、現在、就労していない	通勤に時間がかかるようになった	仕事のために家族が離れて生活する必要が生じた	給与が減った	長期雇用が保障されない	震災前と違う職であり、慣れない	避難していることに対して職場の人の目が気になる	その他	特にない	無回答
全体	(n=1523)	14.8	37.6	19.4	15.0	13.5	9.0	8.5	6.5	15.4	6.5
20代以下	(n=82)	7.3	41.5	26.8	23.2	8.5	17.1	17.1	7.3	13.4	3.7
30代	(n=133)	6.0	45.1	16.5	22.6	12.0	13.5	20.3	7.5	16.5	2.3
40代	(n=175)	10.9	48.6	18.9	16.0	10.3	11.4	12.0	8.6	14.9	1.7
50代	(n=369)	7.9	46.1	26.6	19.2	19.2	10.8	9.2	6.8	11.1	3.5
60代	(n=352)	17.3	41.8	17.0	16.2	17.9	9.1	5.1	5.7	14.5	4.0
70代以上	(n=353)	27.2	17.0	15.3	4.2	4.8	2.3	2.5	5.4	21.8	15.3

(6) 地域のコミュニティについて困っていること

問 10 地域のコミュニティについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

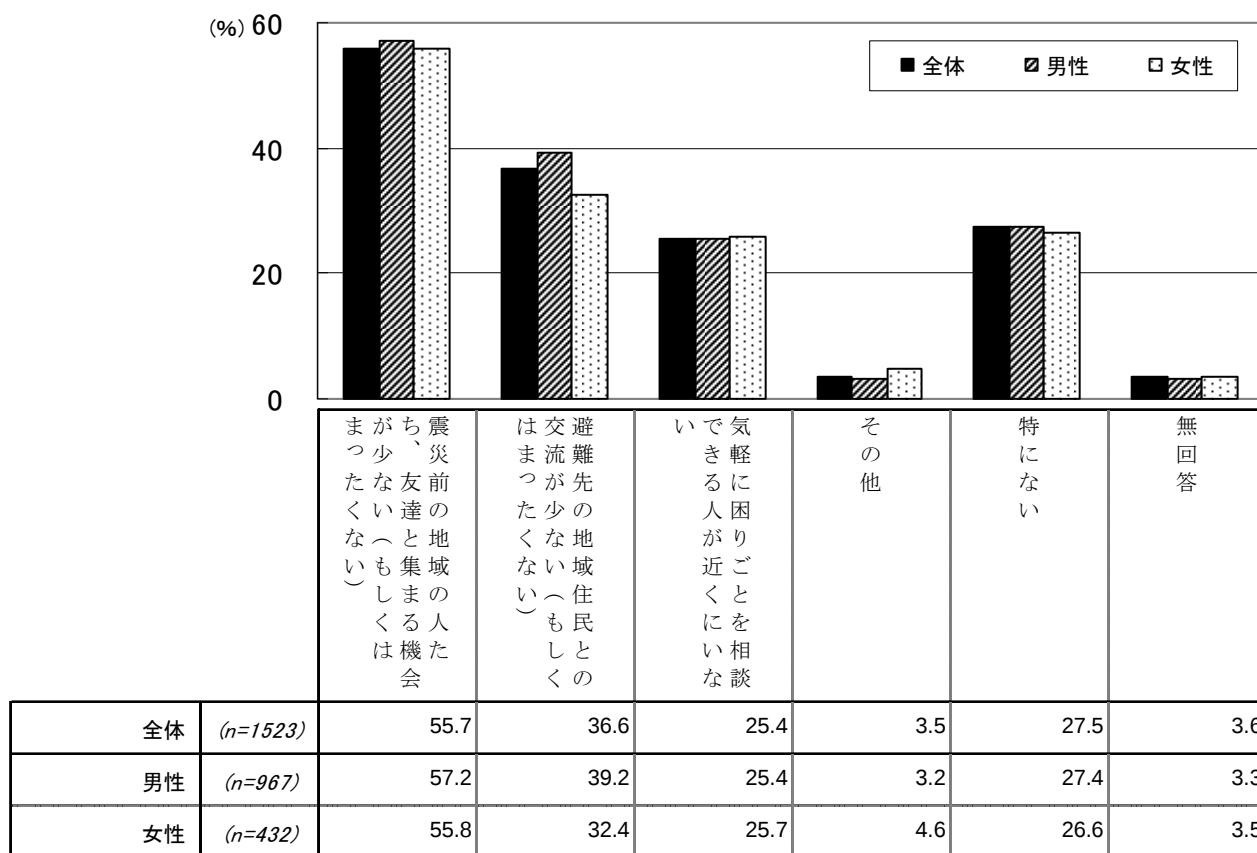
地域のコミュニティについて困っていることとしては、「震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない(もしくはまったくない)」が 55.7%、「避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)」が 36.6%、「気軽に困りごとを相談できる人(民生委員、行政職員)が近くにいない」(25.4%)の順にあげられている。「特にない」という回答者は 27.5%である。(図表 2-6-1)

男女別に見ると、「避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)」という回答は、女性に比べて男性に多くなっている(男性 39.2%、女性 32.4%)。(図表 2-6-1)

年代別に見ると、「避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)」という回答は、50 代および 20 代以下の層で 4 割を超えており、他の年代に比べてやや多い。40 代は、「震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない(もしくはまったくない)」という回答は、他の年齢層では 5 割を超える中、49.1%とやや少ないほか、他の年代に比べて困りごとが少なく、「特にない」人は 36.6%となっている。(図表 2-6-2)

現在の避難先別に見ると、「震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない(もしくはまったくない)」という回答は、南相馬市の避難世帯で多く、唯一 6 割を超えている(65.6%)。また、南相馬市避難世帯では、「気軽に困りごとを相談できる人が近くにいない」という回答も 3 割を超えて(31.2%)多い。福島県外避難世帯では「避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)」という回答が 4 割を超え(40.6%)、県内避難世帯に比べてやや多い。(図表 2-6-3)

図表 2-6-1 地域のコミュニティについて困っていること(男女別)



図表 2-6-2 地域のコミュニティについて困っていること(年代別)

(%)

		震災前の地域の 人たち、友達と集まる機 会が少ない（もしくは まったくない）	避難先の地域 住民との交流 が少ない（もしくは まったくない）	気軽に困りごとを相談で きる人が近くに いない	その他	特にない	無回答
全体	(n=1523)	55.7	36.6	25.4	3.5	27.5	3.6
20代以下	(n=82)	59.8	41.5	25.6	4.9	26.8	2.4
30代	(n=133)	53.4	36.1	27.8	4.5	31.6	3.8
40代	(n=175)	49.1	33.7	23.4	4.6	36.6	1.7
50代	(n=369)	58.8	42.0	28.5	3.3	24.7	2.7
60代	(n=352)	59.9	39.2	25.0	3.4	24.1	2.8
70代以上	(n=353)	53.8	31.2	24.6	2.5	27.2	5.1

図表 2-6-3 地域のコミュニティについて困っていること(現在の避難先別)

(%)

		震災前の地域の 人たち、友達と集まる機 会が少ない（もしくは まったくない）	避難先の地域 住民との交流 が少ない（もしくは まったくない）	気軽に困りごとを相談で きる人が近くに いない	その他	特にない	無回答
全体	(n=1523)	55.7	36.6	25.4	3.5	27.5	3.6
福島市	(n=856)	56.0	37.1	25.1	3.5	27.2	3.9
伊達市	(n=151)	55.0	35.1	28.5	4.0	26.5	2.6
相馬市	(n=105)	51.4	27.6	23.8	3.8	31.4	1.9
南相馬市	(n=93)	65.6	37.6	31.2	-	23.7	3.2
川俣町	(n=102)	52.0	38.2	19.6	4.9	26.5	4.9
二本松市	(n=22)	54.5	50.0	31.8	4.5	27.3	-
郡山市	(n=6)	50.0	33.3	16.7	-	50.0	-
国見町	(n=16)	43.8	37.5	12.5	6.3	43.8	-
福島県内のその 他の市町村	(n=39)	56.4	30.8	25.6	-	28.2	2.6
福島県外	(n=106)	59.4	40.6	28.3	5.7	28.3	1.9

3. 避難期間中の生活に関する意向

(1)避難期間中過ごしたい場所

問 11 震災発生当時にお住まいだった地区によっては、避難が続くことが考えられますが、あなたは、今後の避難期間中の生活をどこで過ごしたいですか。 (○は1つ)

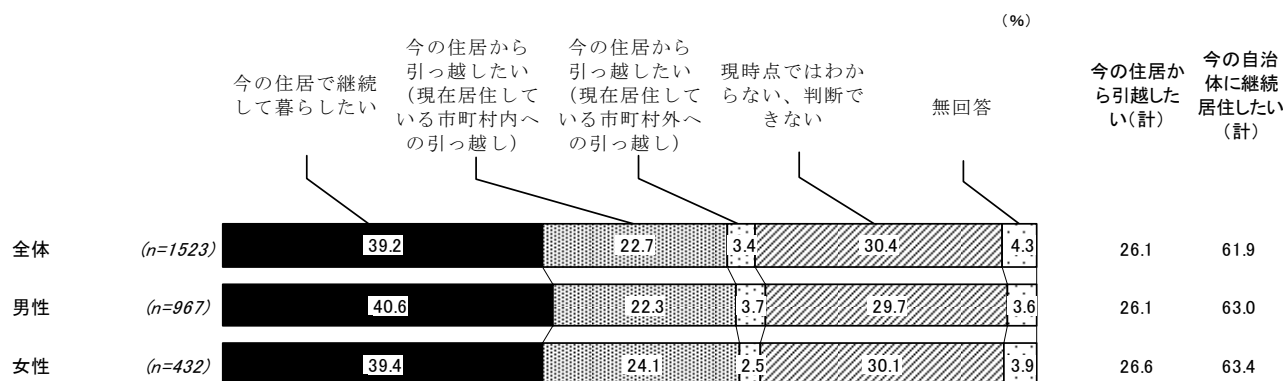
今後の避難期間中に過ごしたい場所を聞いたところ、「今の住居で継続して暮らしたい」という回答者は 39.2%で最も多く、「現時点ではわからない、判断できない」という回答が 30.4%、「今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村内への引っ越し)」が22.7%、「今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」が3.4%という順となっている。今の避難先自治体に継続居住したい回答者は合計 61.9%と半数を超え、現在居住自治体から転居したい回答者(3.4%)に比べて多くなっている。(図表 3-1-1)

男女別に見て、大きな差は見られない。(図表 3-1-1)

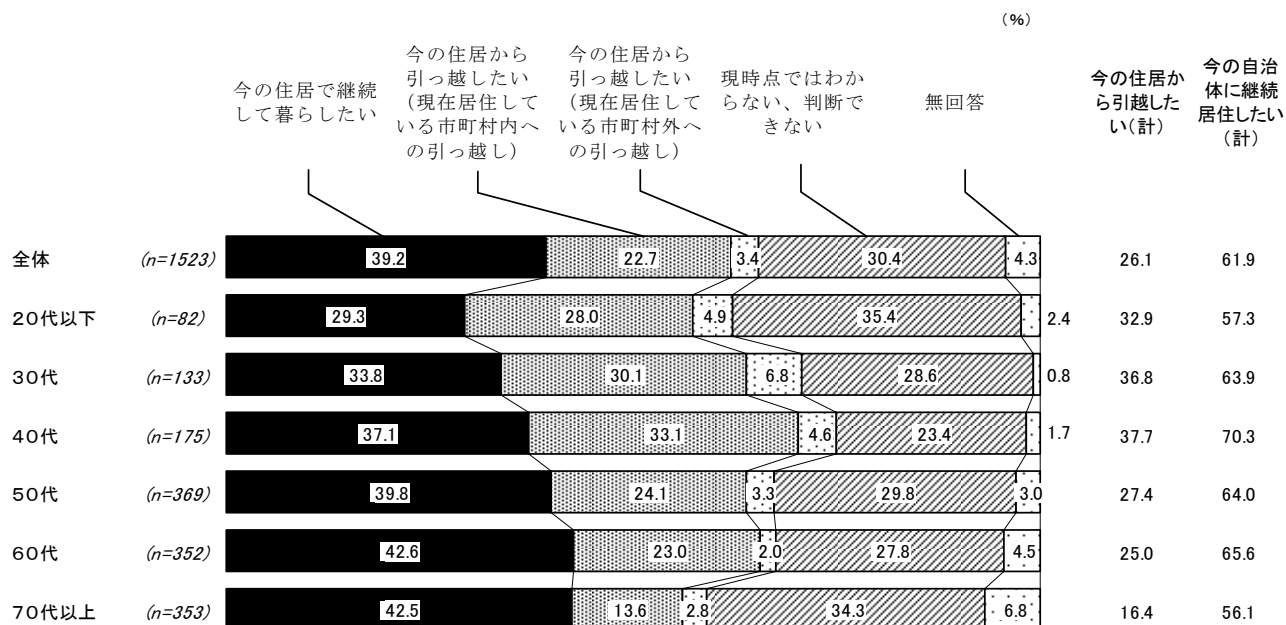
年代別に見ると、今の自治体に継続居住したい回答者は、40代(70.3%)を筆頭に30-60代の層では6割を超えて多い一方、70代以上の層、20代以下の層では6割を下回っている。そのうち、「今の住居で継続して暮らしたい」という回答は、高年代層ほど多い傾向が見られる。今の住居から引っ越したい回答者は、40代以下の層では3割を超えているのに対して(20代以下32.9%、30代36.8%、40代37.7%)、70代以上の層では16.4%にとどまっている。また、「現時点ではわからない、判断できない」という回答者は、20代以下の層および70代以上の層で3割を超えて多くなっている。(図表 3-1-2)

現在の避難先別に見ると、福島市、南相馬市、川俣町避難世帯は、今の自治体に継続居住したいという回答が6割を超えて多く、さらに「今の住居で継続して暮らしたい」という回答がいずれも4割を超えており、現在の避難自治体での居住の継続希望が高い。伊達市および相馬市の避難世帯は、「現時点ではわからない、判断できない」という回答が3割を超えており、他の避難自治体居住者に比べて高めである。(図表 3-1-3)

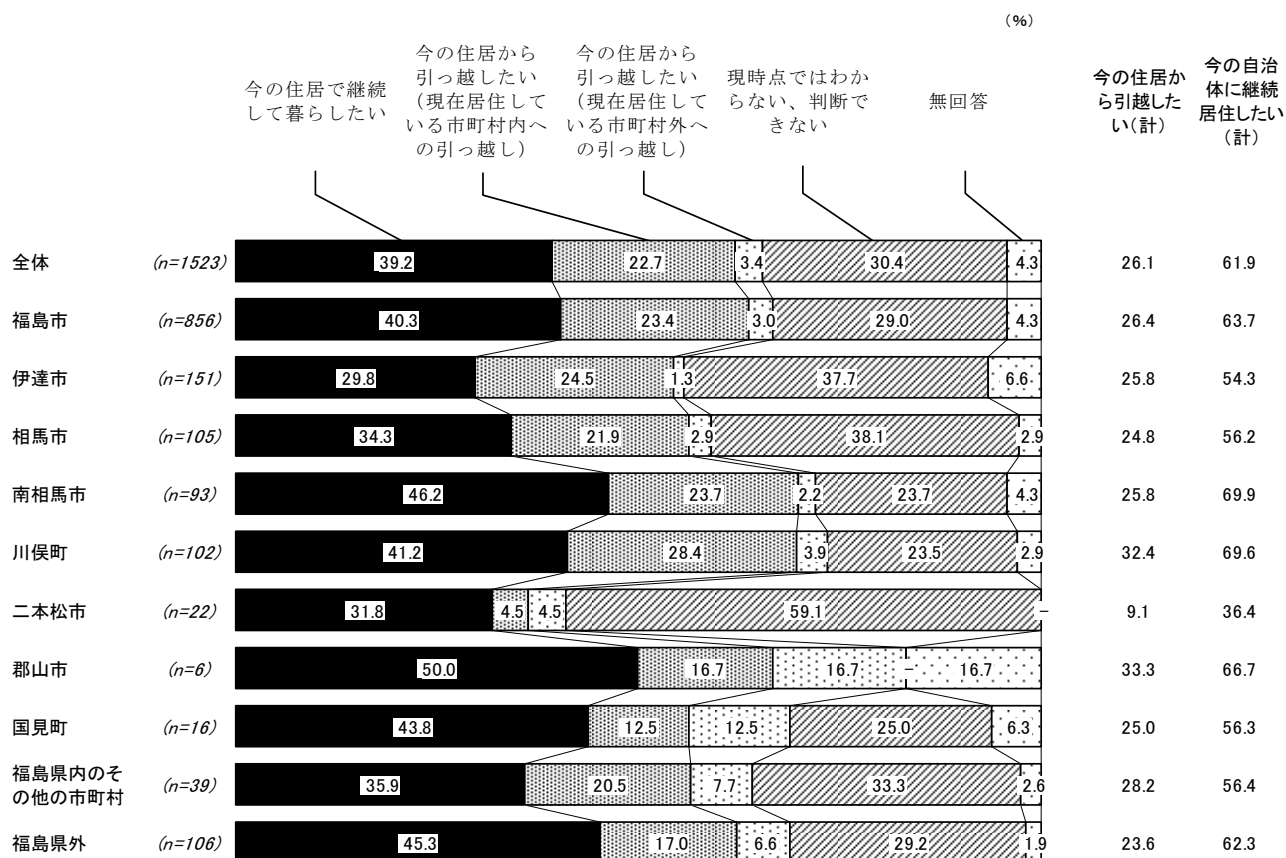
図表 3-1-1 希望する避難居住地(男女別)



図表 3-1-2 希望する避難居住地(年代別)



図表 3-1-3 希望する避難居住地(現在の避難先別)



(2)避難期間中に居住を希望する住居形態

問 12 【問 11 で「2」「3」「4」と回答した方にうかがいます。】
 避難期間中の住居には、どのような所有形態、住宅の建て方を望みますか。
 (1) 所有形態(○は1つ)
 (2) 住宅の建て方(○は1つ)

今後の避難期間中の生活を過ごしたい場所として、「今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村内への引っ越し)」、「今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」、「現時点ではわからない、判断できない」と回答した世帯主(または代表者、861人)に、避難期間中の生活において居住を希望する住居の所有形態を聞いたところ、「持ち家(ご家族またはご本人所有)」を希望する回答者は46.8%と最も多く、以下、「民間賃貸」(24.7%)、「公営住宅(災害公営住宅を含む)」(16.5%)という順になっている。(図表 3-2-1①)

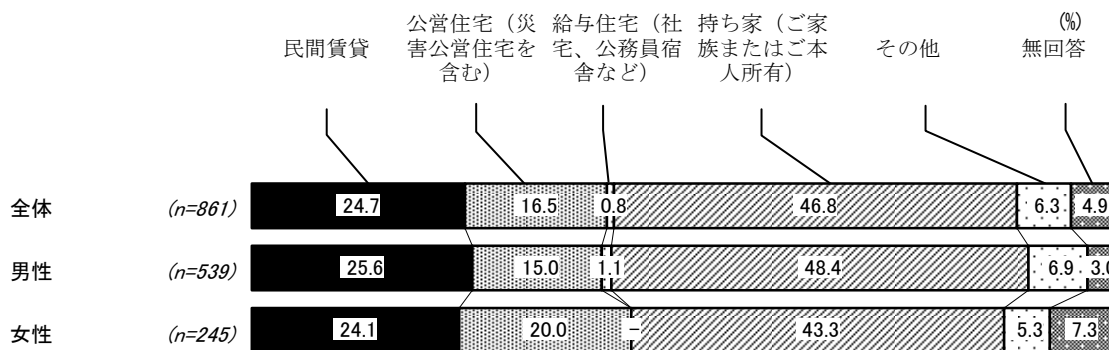
建て方としては、「一戸建て」という希望が73.1%と最も多く、次いで「集合住宅(一戸建に近い低層なもの)」が12.7%、「集合住宅(一般的な中高層のもの)」3.8%という順となっている。(図表 3-2-1②)

所有形態の希望について、男女別に見ると、女性に比べて男性に「持ち家(ご家族またはご本人所有)」希望者がやや多く(男性 48.4%、女性 43.3%)、男性に比べて女性に「公営住宅(災害公営住宅を含む)」希望者がやや多い(男性 15.0%、女性 20.0%)。(図表 3-2-1①)

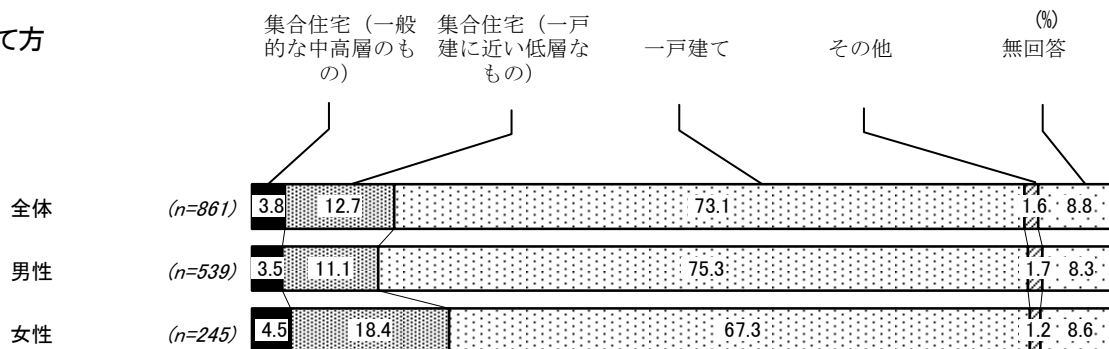
建て方の希望を男女別で見ると、女性に比べて男性に「一戸建て」希望者がやや多く(男性 75.3%、女性 67.3%)、男性に比べて女性に「集合住宅(一戸建に近い低層なもの)」希望者がやや多い(男性 11.1%、女性 18.4%)。(図表 3-2-1②)

図表 3-2-1 希望する避難住居形態(男女別)

①所有形態



②建て方

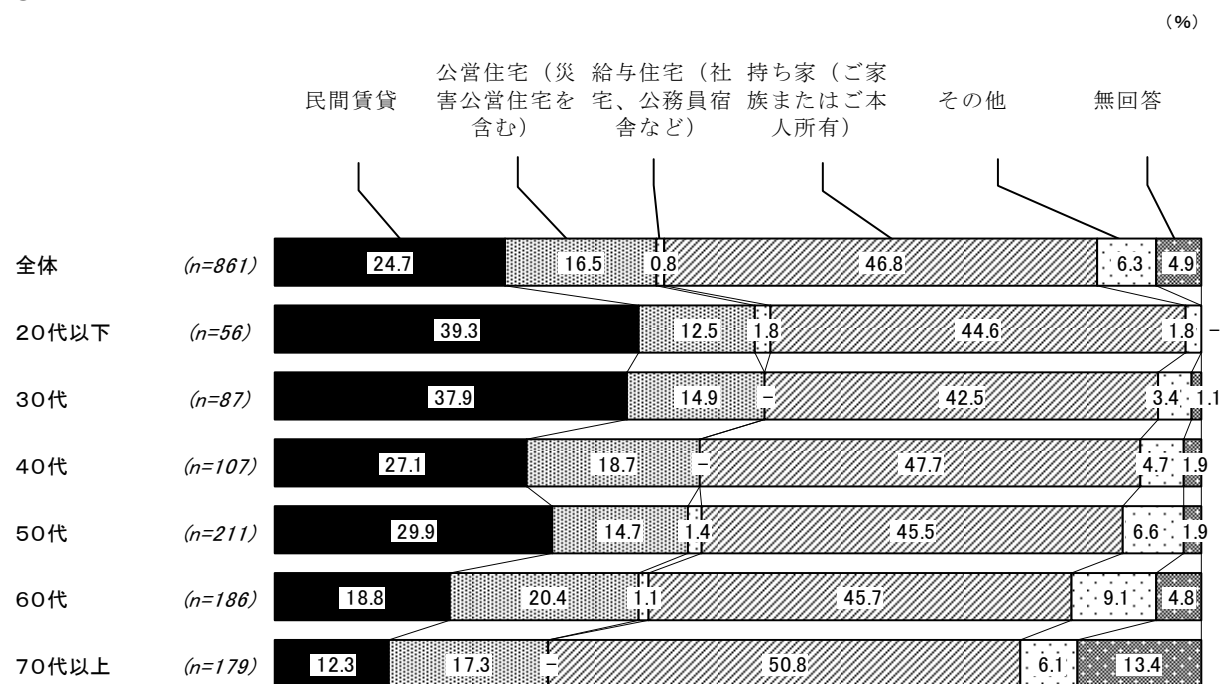


所有形態の希望について、年代別に見ると、いずれの年代層においても「持ち家(ご家族またはご本人所有)」の希望が4割を超えて最も多いが、「民間賃貸」の希望は20代以下および30代の層では4割弱、40代および50代の層では3割弱、60代で2割弱、70代以上の層では12.3%と、ほぼ年代が低い層ほど希望が多くなっている。「公営住宅(災害公営住宅を含む)」は60代で2割を超えてやや多い。(図表3-2-2①)

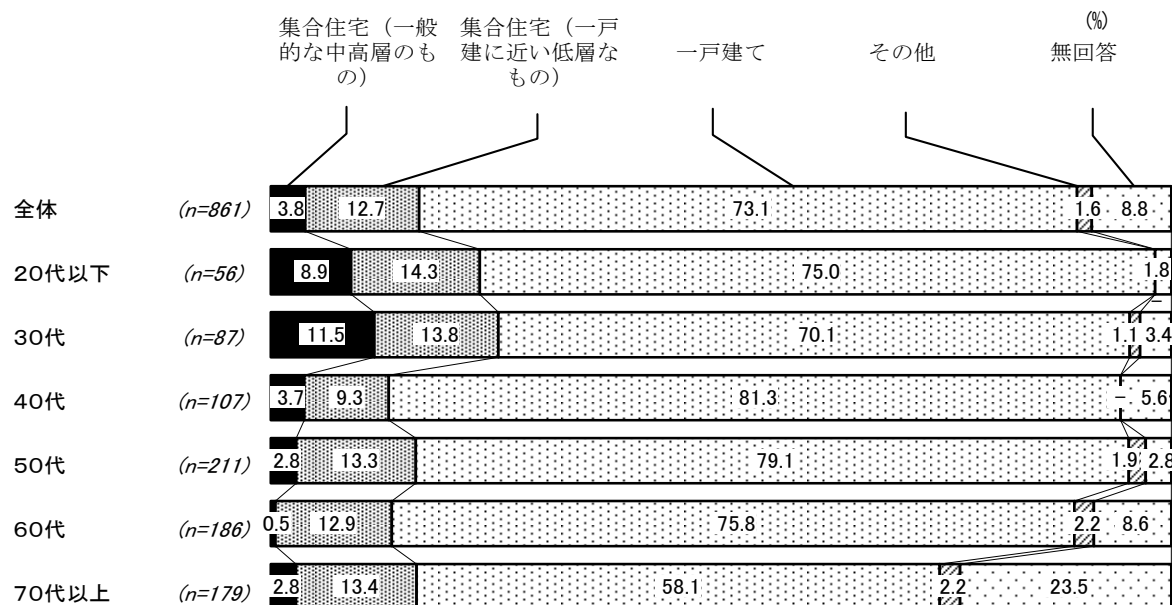
建て方の希望について、年代別に見ると、いずれの年代層でも「一戸建て」の希望者が最も多いが、40代では8割を超える(81.3%)のに対して、70代以上では58.1%と、他の層に比べて少ない。集合住宅の希望は、20代以下の層、30代の層で多く、中高層、低層を合わせた希望はいずれも2割を超えている(20代以下23.2%、30代25.3%)。(図表3-2-2②)

図表3-2-2 希望する避難住居形態(年代別)

①所有形態



②建て方

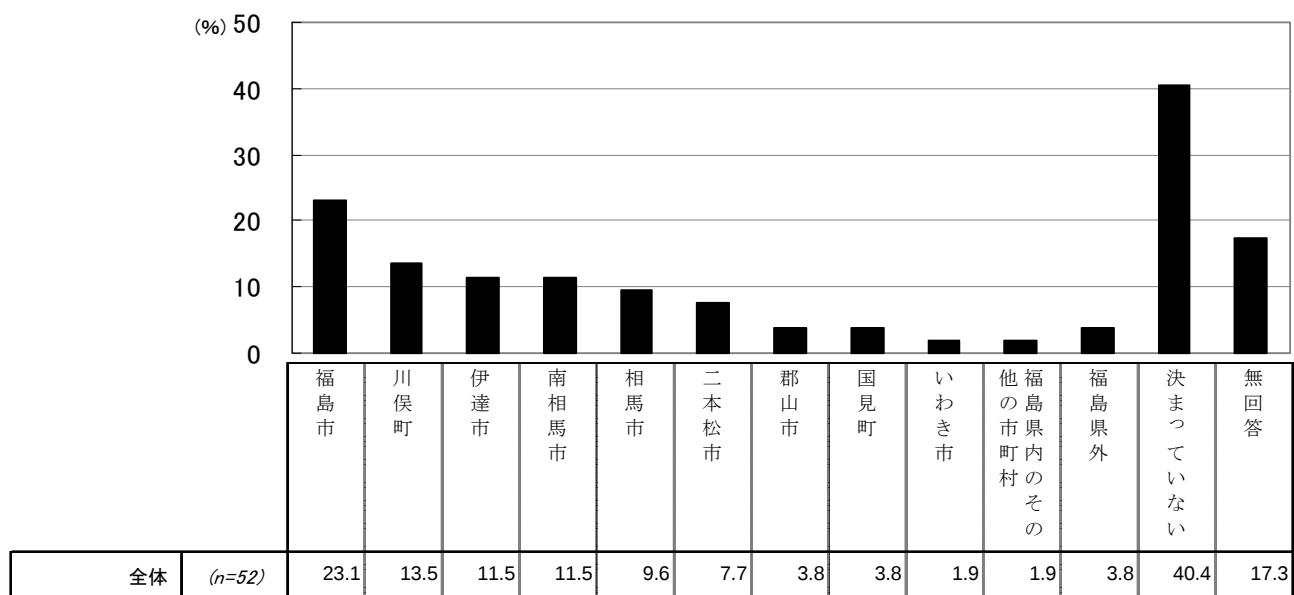


(3)避難期間中に居住を希望する地域

問 13 【問 11 で「3 今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」と回答した方にうかがいます。それ以外の方は問 14 へお進みください。】
 どちらに移動することを望みますか。(○はいくつでも)

今後の避難期間中の生活を過ごしたい地域として、「今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」と回答した世帯(52 人)に、居住を希望する地域を複数回答で聞いたところ、「福島市」が 23.1%、「川俣町」が 13.5%、「伊達市」および「南相馬市」が 11.5%の順で上位を占めている。また、「決まっていない」という回答者は 40.4%となっている。(図表 3-3-1)

図表 3-3-1 希望する居住地域



4. 村外子育て拠点・帰村のための村内拠点に対する意向

(1)「村外子育て拠点」に対する意向

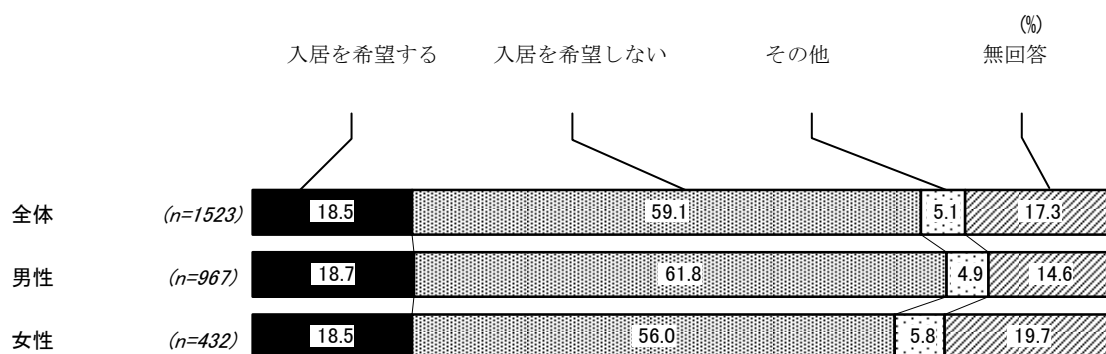
1) 福島市飯野地区の「村外子育て拠点」を建設した場合の災害公営住宅入居意向

問 14 飯舘村では「村外子育て拠点」として、子育て世帯を中心に避難期間中の生活を送るための災害公営住宅を、仮設小中学校等が立地する地域に建設することを検討しています。候補地のひとつである福島市飯野地区に建設される場合、あなたの世帯は入居を希望しますか。
(子育て世帯以外の方もご回答ください。○は1つ)

飯舘村で検討中の福島市飯野地区の「村外子育て拠点」に災害公営住宅を建設した場合の入居意向を尋ねたところ、「入居を希望する」という回答は18.5%、「入居を希望しない」という回答は59.1%となっている。(図表 4-1-1)

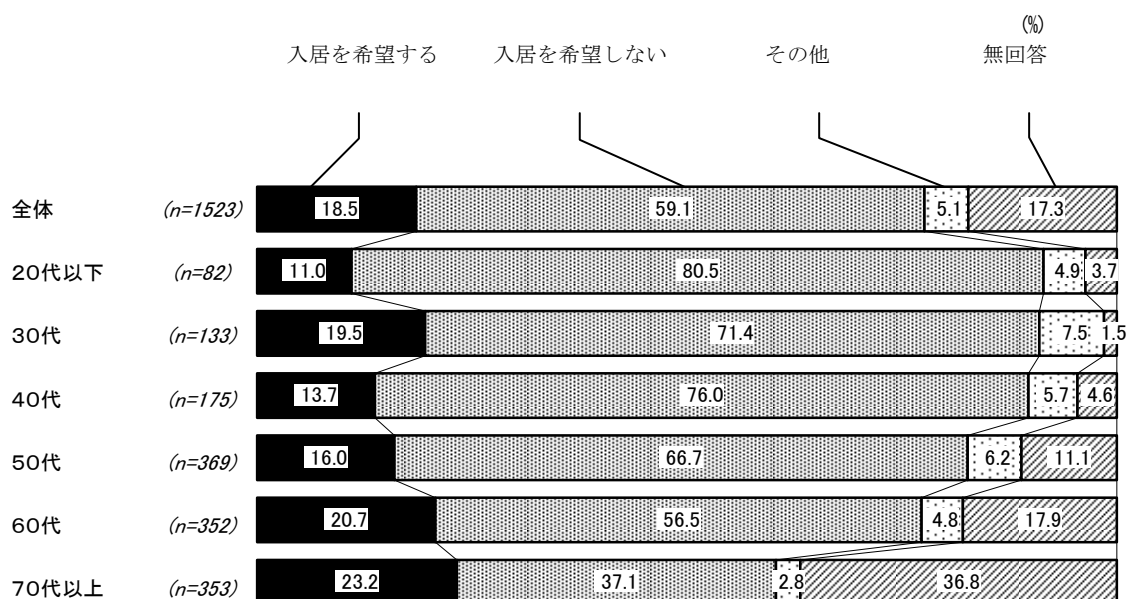
男女別に見ると、「入居を希望する」という回答に差は見られないが、「入居を希望しない」という回答は男性に比べて女性のほうがやや少ない(男性61.8%、女性56.0%)。(図表 4-1-1)

図表 4-1-1 福島市飯野地区に「村外子育て拠点」を建設した場合の災害公営住宅入居意向(男女別)



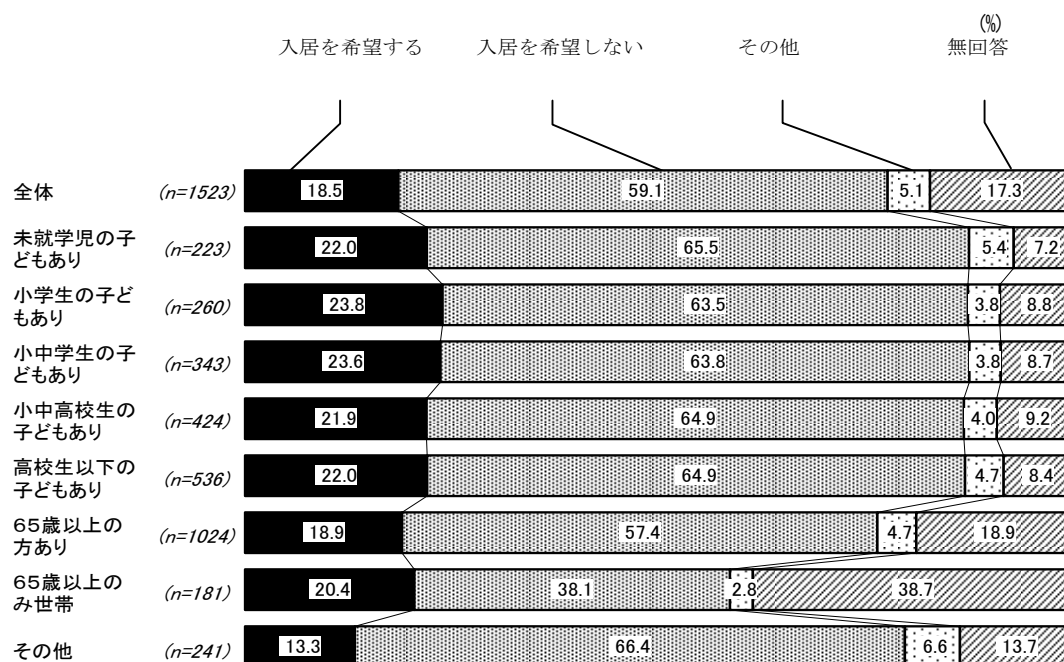
年代別に見ると、70代以上の層、60代以上の層、および30代で、「入居を希望する」という回答がほぼ2割を超えて多くなっている(30代19.5%、60代20.7%、70代以上23.2%)。「入居を希望しない」という回答は40代以下の層では7割を超えている。(図表 4-1-2)

図表 4-1-2 福島市飯野地区に「村外子育て拠点」を建設した場合の災害公営住宅入居意向(年代別)



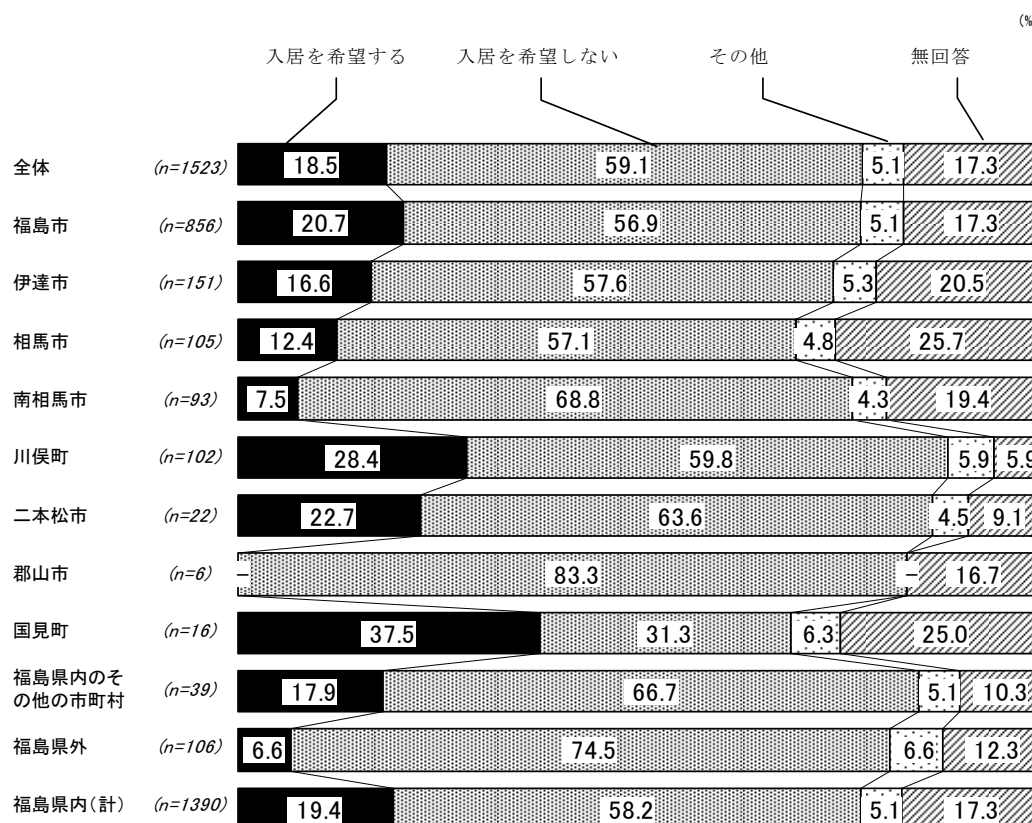
家族類型別に見ると、子どもがある世帯では「入居を希望する」との回答は2割台となっている。65 歳以上のみ世帯においても入居希望は 2 割を超えている(20.4%)。(図表 4-1-3)

図表 4-1-3 福島市飯野地区に「村外子育て拠点」を建設した場合の災害公営住宅入居意向(家族類型別)



現在の避難先別に見ると、川俣町避難世帯の「入居を希望する」との回答は 28.4%で、他の自治体に避難している世帯に比べて高めであるほか、福島市避難世帯においても 2 割を超えている(20.7%)。(図表 4-1-4)

図表 4-1-4 福島市飯野地区に「村外子育て拠点」を建設した場合の災害公営住宅入居意向(現在の避難先別)



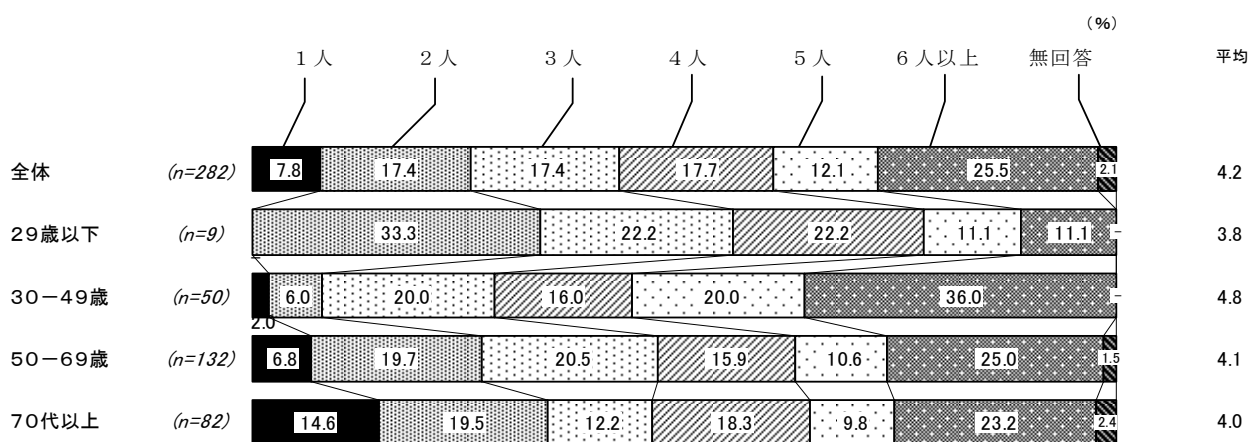
2) 福島市飯野地区に「村外子育て拠点」を建設した場合と一緒に住む予定の世帯家族人数

問 15 【問 14 で「1 入居を希望する」と回答した方にうかがいます。】
あなたが、今後一緒に住む予定の世帯家族人数は何人ですか。(具体的に)

福島市飯野地区の「村外子育て拠点」に災害公営住宅を建設した場合に「入居を希望する」と回答した世帯主(または代表者、282 人)に、今後一緒に住む予定の世帯家族人数を尋ねたところ、「6 人以上」という回答が 25.5%で最も多く、以下「4 人」(17.7%)、「2 人」「3 人」(ともに 17.4%)の順となっており、居住予定人数の平均は 4.2 人である。(図表 4-1-5)

年代別に見ると、30-49 歳の層では「6 人以上」との回答が 36.0%と多く、平均 4.8 人となっている。50-69 歳の層では平均 4.1 人、70 代以上の層では平均 4.0 人で、30-49 歳の層に比べて 2 人以下の少人数の希望が多くなっている。(図表 4-1-5)

図表 4-1-5 福島市飯野地区に「村外子育て拠点」を建設した場合と一緒に住む予定の世帯家族人数(年代別)



(2)「帰村のための村内拠点」に対する意向

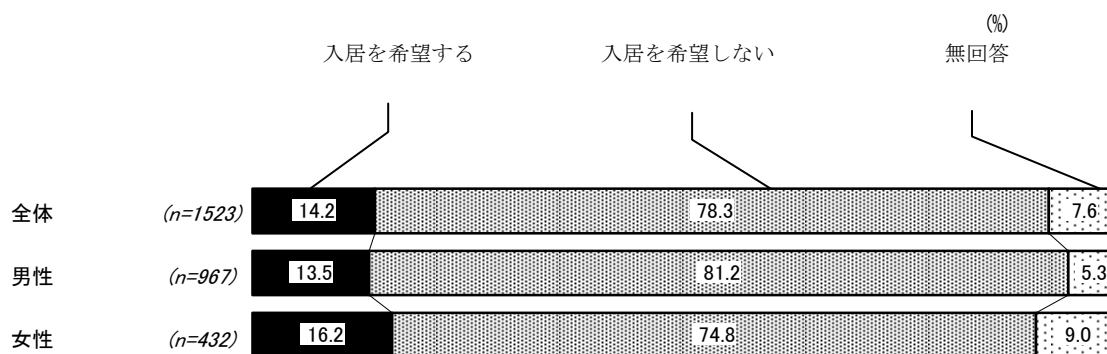
1) 村内拠点到災害公営住宅を建設した場合の入居意向

問 16 飯館村では、すぐに元にお住まいであった場所に帰還することが困難な村民を対象に、放射線影響の少ない白石地区周辺および除染が完了した区域に「帰村のための村内拠点(仮称)」を整備することを検討しています。
あなたの世帯は、村内拠点到災害公営住宅が整備される場合、入居を希望しますか。(○は1つ)

飯館村で検討中の「帰村のための村内拠点」に災害公営住宅を建設した場合の入居意向を尋ねたところ、「入居を希望する」という回答は 14.2%、「入居を希望しない」という回答は 78.3%である。(図表 4-2-1)

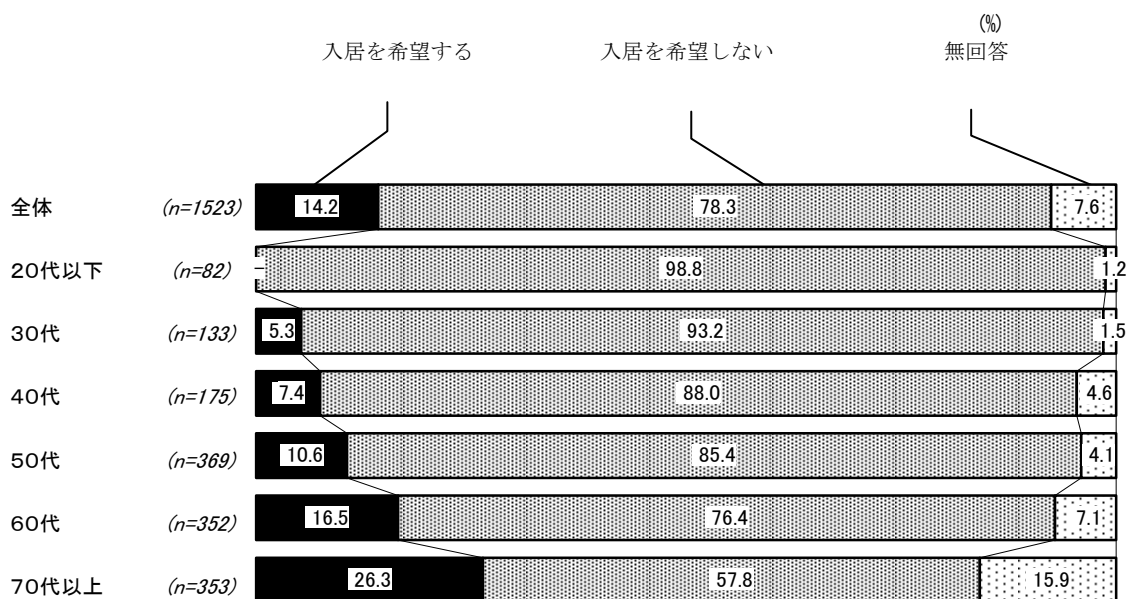
男女別に見ると、「入居を希望する」という回答に大きな差は見られないが、「入居を希望しない」という回答は男性に比べて女性のほうがやや少ない(男性 81.2%、女性 74.8%)。(図表 4-2-1)

図表 4-2-1 村内拠点到災害公営住宅を建設した場合の入居意向(男女別)



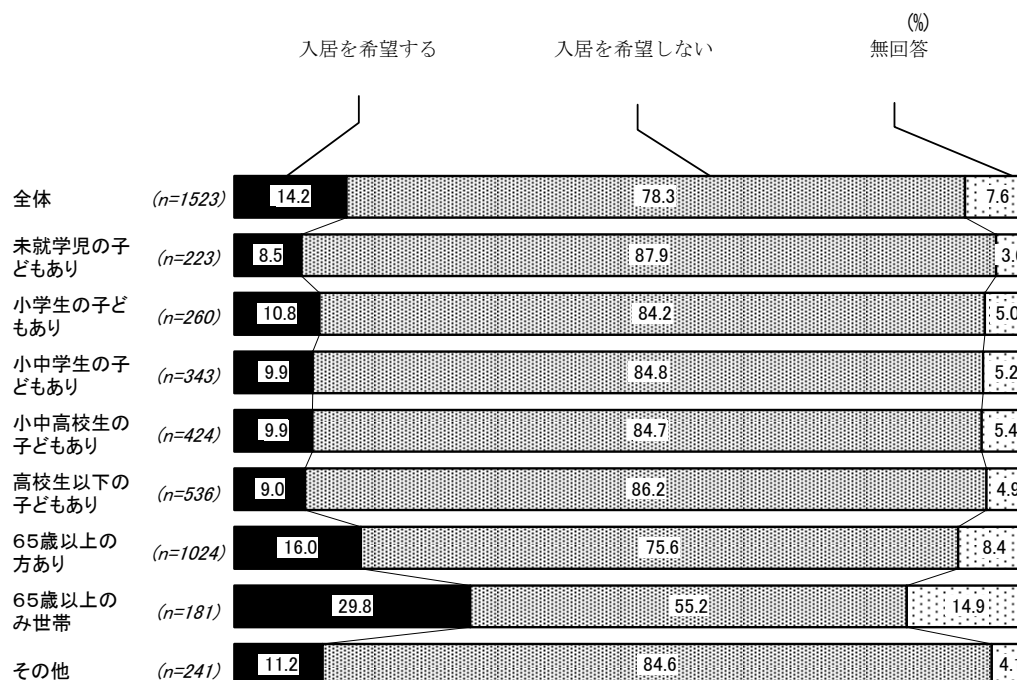
年代別に見ると、年代が高くなるほど「入居を希望する」という回答が多く、「入居を希望しない」という回答が少なくなる傾向が顕著で、40 代以下の層では入居希望は 1 割に満たないのに対して、50 代以上の層では 1 割を超え、70 代以上の層では 26.3%となっている。(図表 4-2-2)

図表 4-2-2 村内拠点到災害公営住宅を建設した場合の入居意向(年代別)



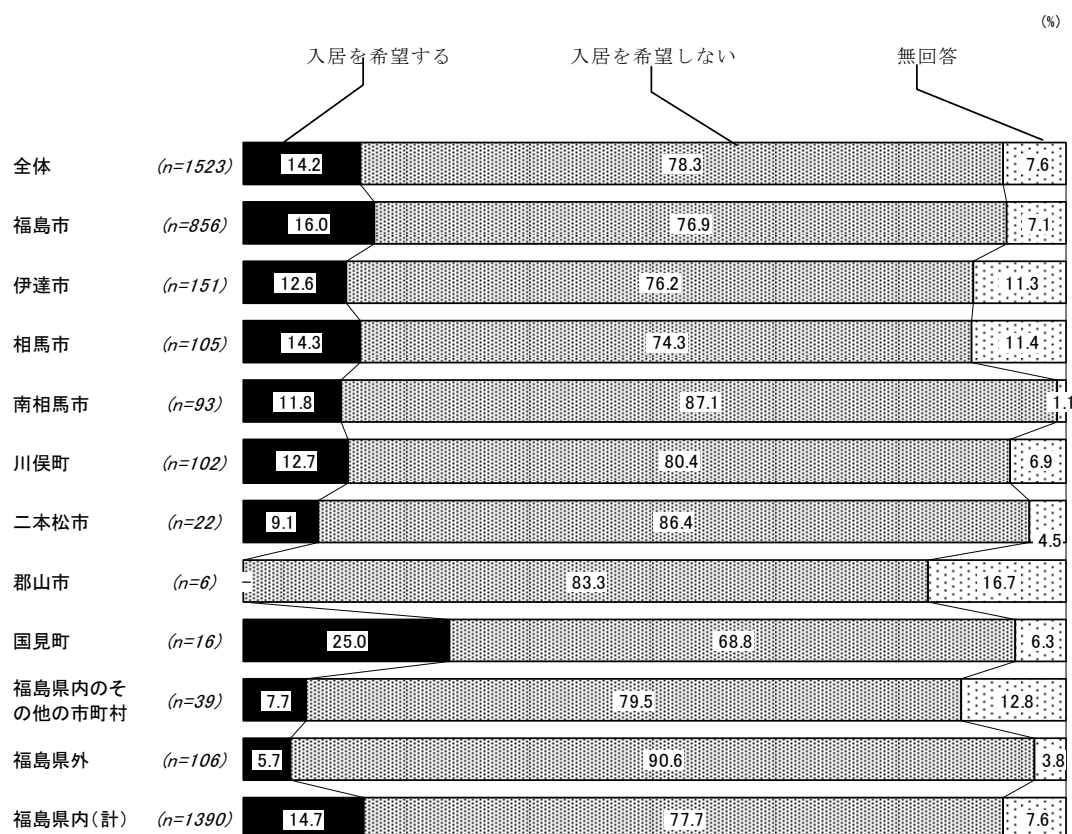
家族類型別に見ると、「入居を希望する」との回答は、子どものいる世帯では1割程度であるのに対して、65 歳以上の方がいる世帯では 16.0%、65 歳以上のみ世帯では 29.8%であり、高齢者を含む世帯での入居意向が高い。(図表 4-2-4)

図表 4-2-4 村内拠点に災害公営住宅を建設した場合の入居意向(家族類型別)



現在の避難先別に見ると、南相馬市の避難世帯では、福島県内の他の自治体への避難世帯に比べて「入居を希望しない」との回答が多く、入居希望意向が低めである。(図表 4-2-5)

図表 4-2-5 村内拠点に災害公営住宅を建設した場合の入居意向(現在の避難先別)



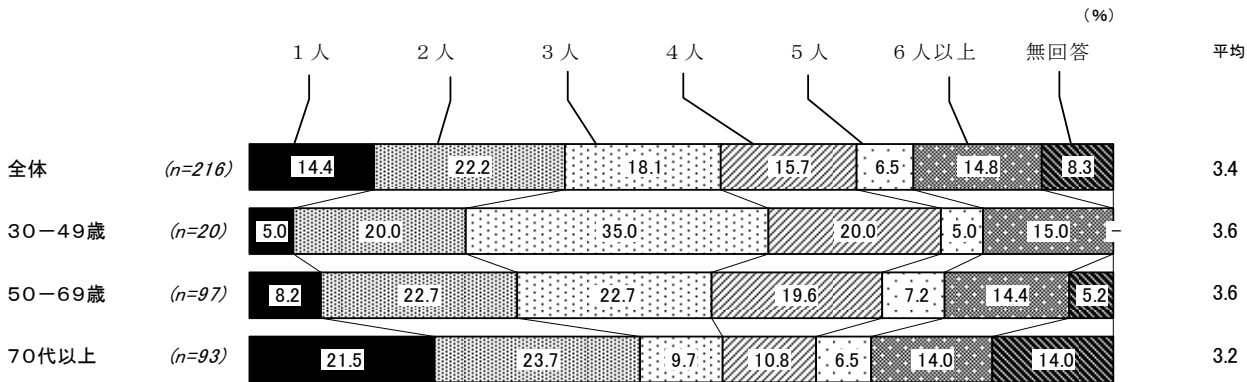
2) 村内拠点に災害公営住宅を建設した場合と一緒に住む予定の世帯家族人数

問 18 【問 16 で「1 入居を希望する」と回答した方にうかがいます。
あなたが、今後一緒に住む予定の世帯家族人数は何人ですか。(具体的に)

「帰村のための村内拠点」に災害公営住宅を建設した場合に「入居を希望する」と回答した世帯主(または代表者、216 人)に、今後一緒に住む予定の世帯家族人数を尋ねたところ、「2 人」という回答が 22.2%で最も多く、以下「3 人」(18.1%)、「4 人」(15.7%)、「6 人以上」(14.8%)、「1 人」(14.4%)の順となっており、居住予定人数の平均は3.4 人である。(図表 4-2-6)

年代別に見ると、70 代以上の層では「2 人」および「1 人」との回答が 2 割を超えて少人数の希望が多く、居住予定人数平均は 3.2 人であるのに対して、50-69 歳の層では平均 3.6 人となっている。(図表 4-2-6)

図表 4-2-6 村内拠点に災害公営住宅を建設した場合と一緒に住む予定の世帯家族人数(年代別)



3) 村内拠点建設を希望する地域

問 17 【問 16 で「1 入居を希望する」と回答した方にうかがいます。
どちらの地域での入居を希望しますか。希望する地域をすべて教えてください。(〇はいくつでも)

「帰村のための村内拠点」に災害公営住宅を建設した場合に「入居を希望する」と回答した世帯主(または代表者、216 人)に、村内で入居を希望する地域を複数回答で尋ねたところ、「草野地区」が 35.2%で最も多く、「二枚橋・臼石地区」は 29.6%、「飯樋地区」は 29.2%となっている。(図表 4-2-7)

年代別に見ると、50-69 歳の層で最も希望が多いのは「二枚橋・臼石地区」(39.2%)で、70 代以上の層で最も希望が多いのは「草野地区」であり、年代によって最も回答の多い地区が異なっている。(図表 4-2-7)

図表 4-2-7 村内拠点建設を希望する地域(年代別)

		草野地区					二枚橋・臼石地区		飯樋地区		村内のその他の地区		無回答	
年代別	人数	草野地区	二枚橋・臼石地区	飯樋地区	村内のその他の地区	無回答	草野地区	二枚橋・臼石地区	飯樋地区	村内のその他の地区	無回答	草野地区	二枚橋・臼石地区	飯樋地区
全体	(n=216)	35.2	29.6	29.2	7.4	9.7	35.2	29.6	29.2	7.4	9.7	35.2	29.6	29.2
30-49歳	(n=20)	45.0	45.0	20.0	10.0	-	45.0	45.0	20.0	10.0	-	45.0	45.0	20.0
50-69歳	(n=97)	29.9	39.2	28.9	7.2	8.2	29.9	39.2	28.9	7.2	8.2	29.9	39.2	28.9
70代以上	(n=93)	38.7	18.3	29.0	7.5	14.0	38.7	18.3	29.0	7.5	14.0	38.7	18.3	29.0

5. 飯舘村への帰還意向

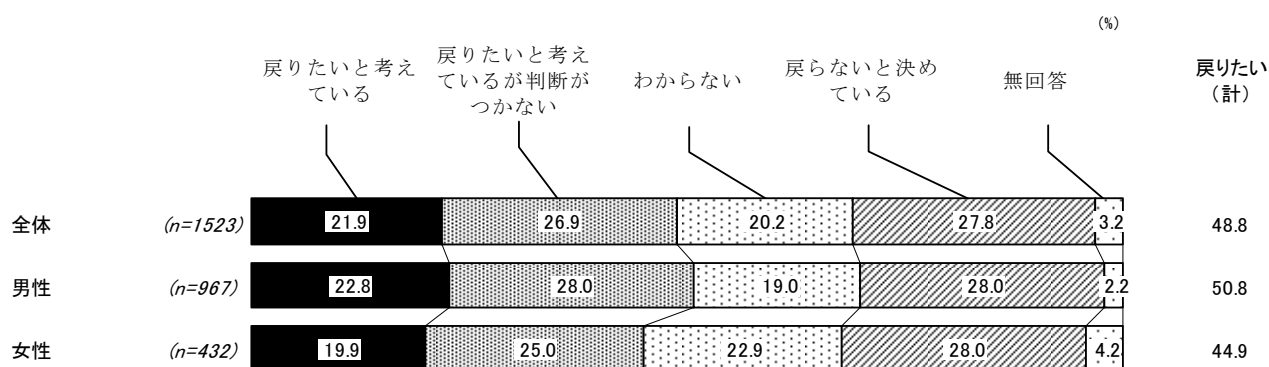
(1) 飯舘村への帰還についての現時点での考え

問 19 飯舘村への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。(〇は1つ)

飯舘村への帰還についての現時点での考えを尋ねたところ、「戻りたいと考えている」との回答は 21.9%、「戻りたいと考えているが判断がつかない」が 26.9%、この2つを合算した『戻りたい(計)』は 48.8%で、ほぼ半数の人が帰還したいと考えている。それに対して「戻らないと決めている」という回答は 27.8%、「わからない」が 20.2%となっている。(図表 5-1-1)

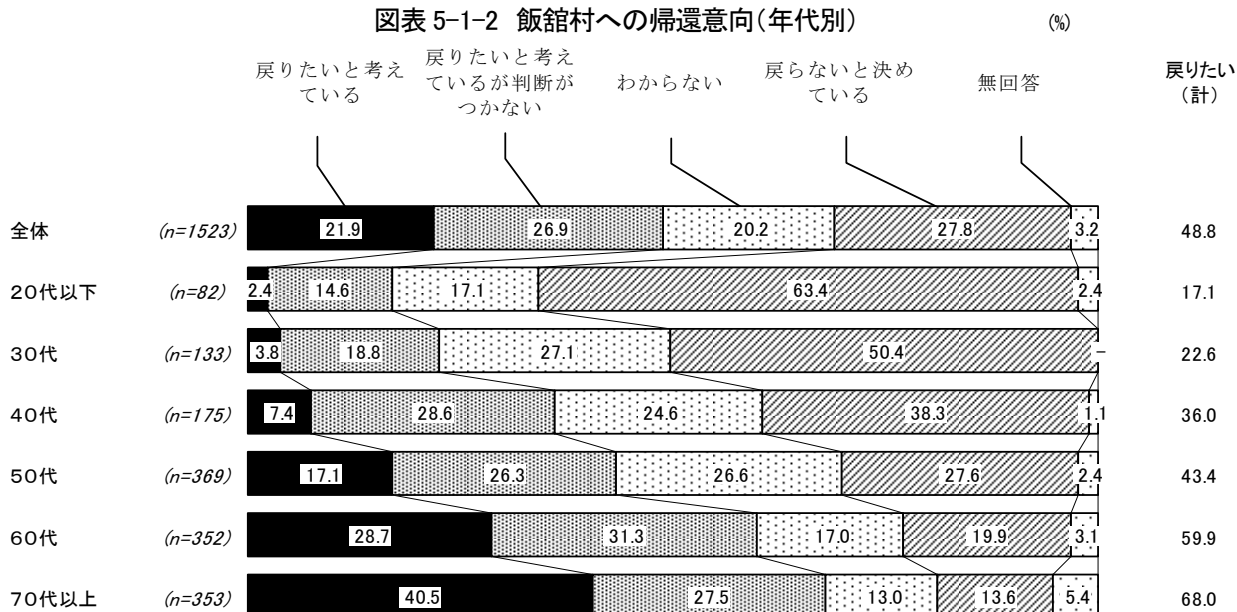
男女別に見ると、「戻りたいと考えている」、「戻りたいと考えているが判断がつかない」ともに、男性よりも女性の回答がやや多く、『戻りたい(計)』は男性で 50.8%であるのに対して、女性では 44.9%である。(図表 5-1-1)

図表 5-1-1 飯舘村への帰還意向(男女別)



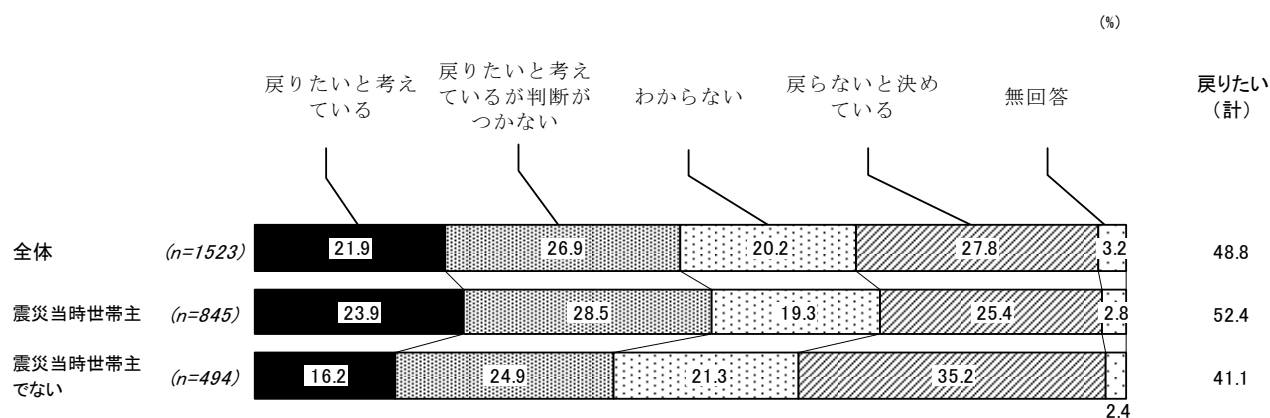
年代別に見ると、「戻りたいと考えている」という回答は年代が高くなるほど回答が多くなる傾向が、また「戻らないと決めている」との回答は年代が低くなるほど回答が多くなる傾向が顕著に見られ、「戻りたいと考えている」は 40 代以下の層では 1 割を下回るのに対して、50 代で 17.1%、60 代で 28.7%、70 代以上では 40.5%となっている。60 代以上の層で『戻りたい(計)』が半数を超える。一方、「戻らないと決めている」という回答は、20 代以下の層では 63.4%、30 代では 50.4%で、30 代以下の層では半数を超える。40 代および 50 代の層では、「戻りたいと考えているが判断がつかない」と「わからない」の合計が 5 割を超え、帰還判断ができていない人が多くなっている。(図表 5-1-2)

図表 5-1-2 飯舘村への帰還意向(年代別)



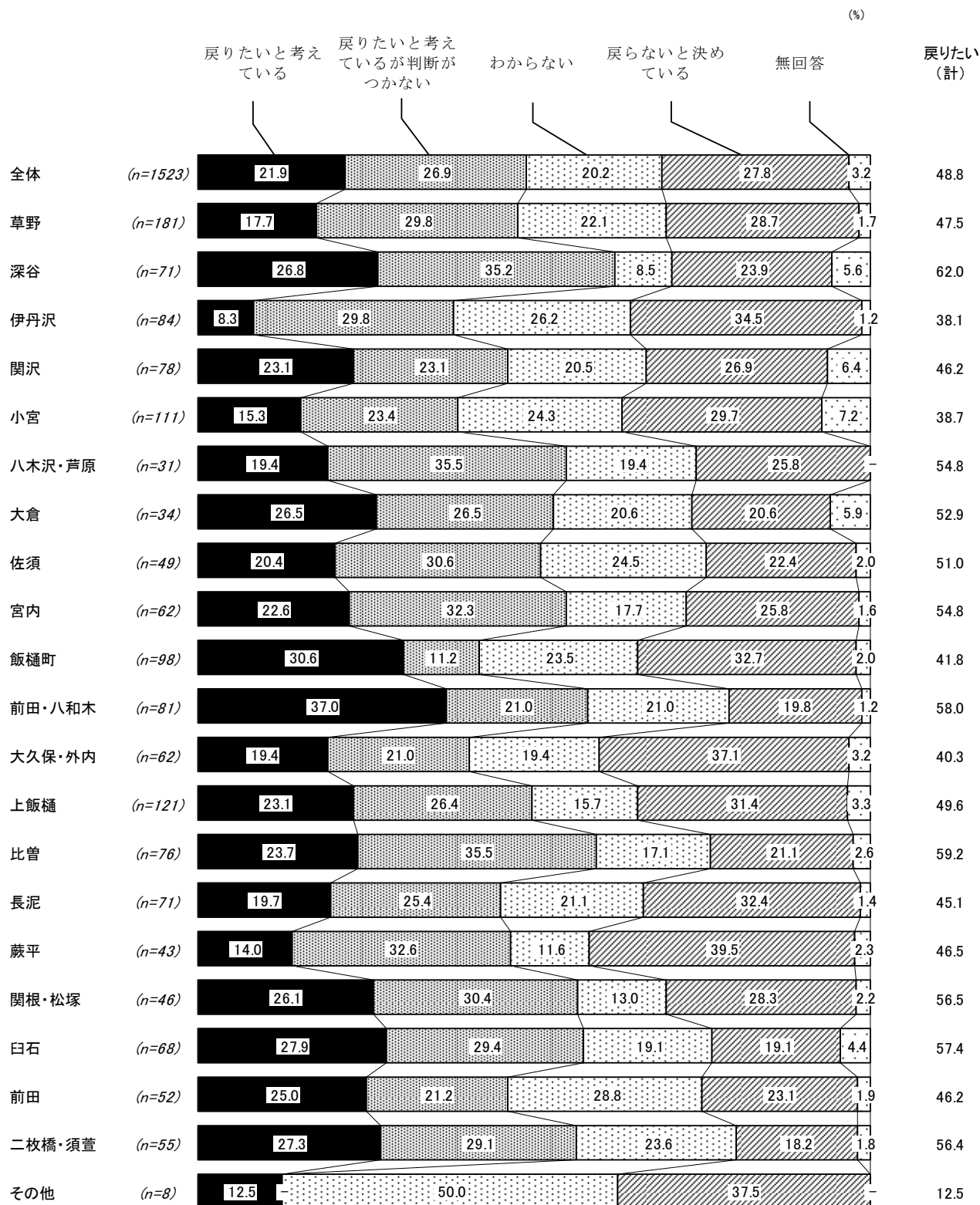
震災当時世帯主の回答を見ると、「戻りたいと考えている」が 23.9%、「戻りたいと考えているが判断がつかない」(28.5%)も合わせると、52.4%の世帯が帰還意向を持っている。震災当時世帯主では、震災当時世帯主ではない世帯(世帯主または代表者)に比べて帰還意向が高い。(図表 5-1-3)

図表 5-1-3 飯舘村への帰還意向(震災当時世帯主別)



震災当時居住地区別に見ると、「戻りたいと考えている」という回答が3割を超えて特に高いのは、飯樋町、前田・八和木である。「戻らないと決めている」という回答が3割を超えて特に高いのは、伊丹沢、飯樋町、大久保・外内、上飯樋、長泥である。(図表 5-1-4)

図表 5-1-4 飯館村への帰還意向(震災当時の居住地区別)



(2) 飯舘村へ帰還したとき村内に必要なもの

問 20 【問 19 で「1 戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。
飯舘村に戻った時に、村内に必要なものは何ですか。最も必要と思うものから、2 番目、3 番目に必要と思うものまでを、それぞれ1つずつ、アからケの記号で記入してください。(1つずつ)

飯舘村への帰還について「戻りたいと考えている」と回答した世帯主(または代表者、334 人)に、飯舘村へ帰還したとき村内に必要なと思うものを 1 番目から 3 番目までそれぞれ尋ねたところ、最も必要と思うものとしては、「医療機関」という回答が 49.1%で最も多く、それに続く「雇用・就労の場、通勤できる範囲で雇用が確保されること」(13.8%)を引き離している。2 番目に必要なもの・3 番目に必要なものの回答においても、「医療機関」が最も多い回答となっている。1 番目～3 番目の合計で見ると、「医療機関」が 73.4%、次いで「雇用・就労の場、通勤できる範囲で雇用が確保されること」(56.0%)、「商業施設」(35.6%)、「介護・福祉施設」(33.5%)の順で上位に挙げられている。(図表 5-2-1)

図表 5-2-1 飯舘村へ帰還したとき村内に必要なもの

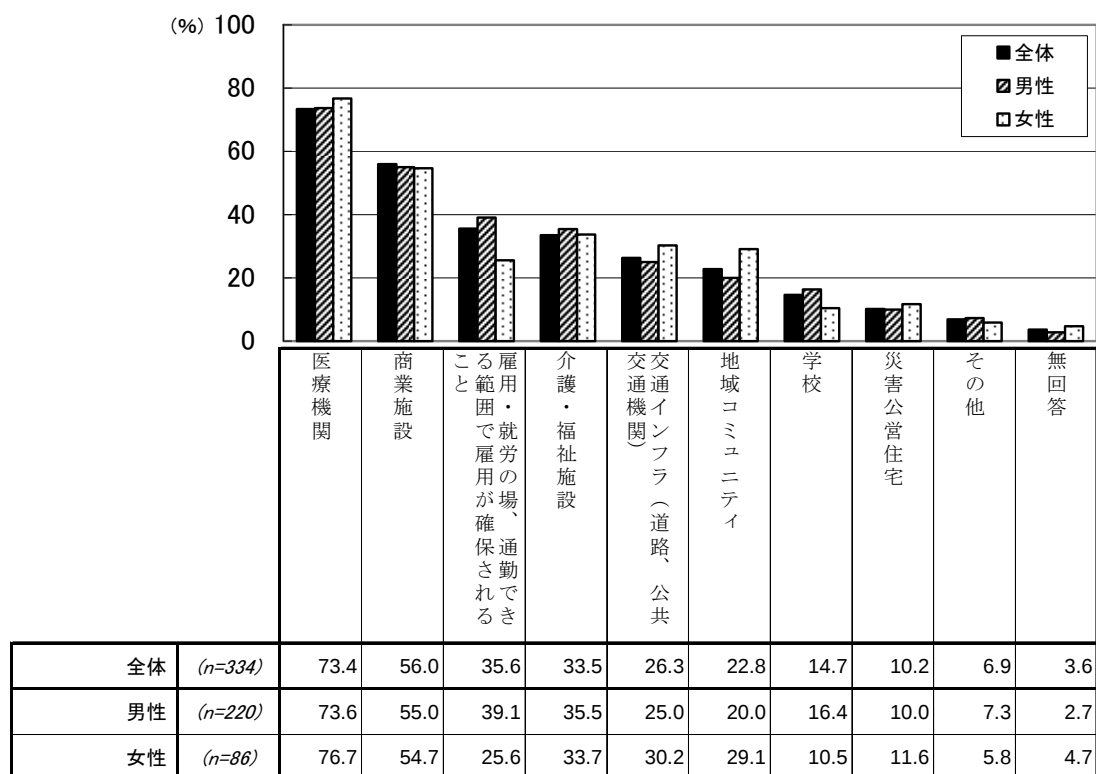
(%)

		医療機関	雇用・就労の場、 通勤できる範囲で 雇用が確保される こと	商業施設	介護・福祉施設	災害公営住宅	学校	交通インフラ（道路、公共交通機関）	地域コミュニティ	その他	無回答
1 番目	(n=334)	49.1	13.8	11.4	6.9	4.2	3.0	3.0	0.9	4.2	3.6
2 番目	(n=334)	23.7	19.8	16.8	11.4	7.2	5.1	4.5	3.0	0.9	7.8
3 番目	(n=334)	21.0	18.3	17.4	10.5	7.5	6.9	4.5	3.0	1.8	9.3
1 番目～3 番目 (計)	(n=334)	73.4	56.0	35.6	33.5	26.3	22.8	14.7	10.2	6.9	3.6

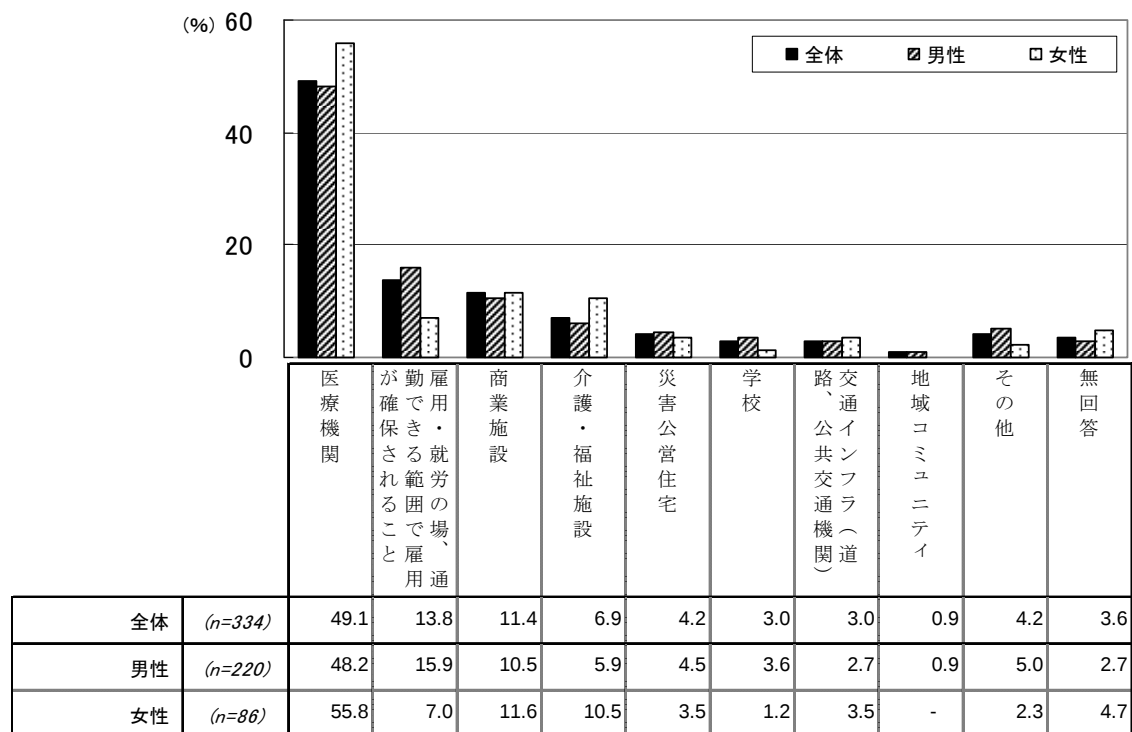
1 番目～3 番目計を男女別に見ると、「雇用・就労の場、通勤できる範囲で雇用が確保されること」(男性 39.1%、女性 25.6%)や、「学校」(男性 16.4%、女性 10.5%)という回答は女性より男性のほうが多く、「地域コミュニティ」(男性 20.0%、女性 29.1%)や「交通インフラ(道路、公共交通機関)」(男性 25.0%、女性 30.2%)という回答は男性より女性のほうが多い。(図表 5-2-2)

最も必要なものを男女別に見ると、「医療機関」(男性 48.2%、女性 55.8%)や「介護・福祉施設」(男性 5.9%、女性 10.5%)という回答は男性より女性のほうが多く、「雇用・就労の場、通勤できる範囲で雇用が確保されること」(男性 15.9%、女性 7.0%)は女性より男性の回答が多い。(図表 5-2-3)

図表 5-2-2 飯舘村へ帰還したとき村内に必要なもの(1番目～3番目計)(男女別)



図表 5-2-3 飯舘村へ帰還したとき村内に必要なもの(最も必要と思うもの)(男女別)



1番目～3番目計を年代別に見ると、70代以上の層で「医療機関」や「介護・福祉施設」という回答が他層に比べて多く、50代で「商業施設」、50代・60代で「雇用・就労の場」といった回答が多くなっている。(図表 5-2-4)

最も必要なものを年代別に見ると、70代以上の層、60代では「医療機関」に回答が集中しているのに対して、50代では「医療機関」、「商業施設」、「雇用・就労の場、通勤できる範囲で雇用が確保されること」がともに2割台で分散している。(図表 5-2-5)

図表 5-2-4 飯舘村へ帰還したとき村内に必要なもの(1番目～3番目計)(年代別)

(%)

		医療機関	商業施設	雇用・就労の場、通勤できる範囲で雇用が確保されること	介護・福祉施設	交通インフラ（道路、公共交通機関）	地域コミュニティ	学校	災害公営住宅	その他	無回答
全体	(n=334)	73.4	56.0	35.6	33.5	26.3	22.8	14.7	10.2	6.9	3.6
20代以下	(n=2)	100.0	-	-	-	50.0	50.0	50.0	-	50.0	-
30代	(n=5)	60.0	40.0	40.0	20.0	60.0	60.0	-	20.0	-	-
40代	(n=13)	61.5	46.2	61.5	15.4	15.4	7.7	38.5	30.8	7.7	-
50代	(n=63)	69.8	68.3	54.0	23.8	30.2	23.8	11.1	11.1	4.8	-
60代	(n=101)	69.3	56.4	49.5	26.7	21.8	25.7	17.8	10.9	6.9	3.0
70代以上	(n=143)	78.3	51.0	14.7	46.2	28.7	19.6	11.9	7.0	7.7	6.3

図表 5-2-5 飯舘村へ帰還したとき村内に必要なもの(最も必要と思うもの)(年代別)

(%)

		医療機関	雇用・就労の場、通勤できる範囲で雇用が確保されること	商業施設	介護・福祉施設	災害公営住宅	学校	交通インフラ（道路、公共交通機関）	地域コミュニティ	その他	無回答
全体	(n=334)	49.1	13.8	11.4	6.9	4.2	3.0	3.0	0.9	4.2	3.6
20代以下	(n=2)	-	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-
30代	(n=5)	20.0	40.0	20.0	-	20.0	-	-	-	-	-
40代	(n=13)	7.7	30.8	7.7	-	15.4	23.1	15.4	-	-	-
50代	(n=63)	28.6	20.6	27.0	6.3	3.2	3.2	7.9	-	3.2	-
60代	(n=101)	46.5	18.8	9.9	5.9	5.0	4.0	1.0	1.0	5.0	3.0
70代以上	(n=143)	66.4	4.2	5.6	9.1	2.8	-	0.7	0.7	4.2	6.3

(3)飯舘村に帰還する際に行政に望む支援内容

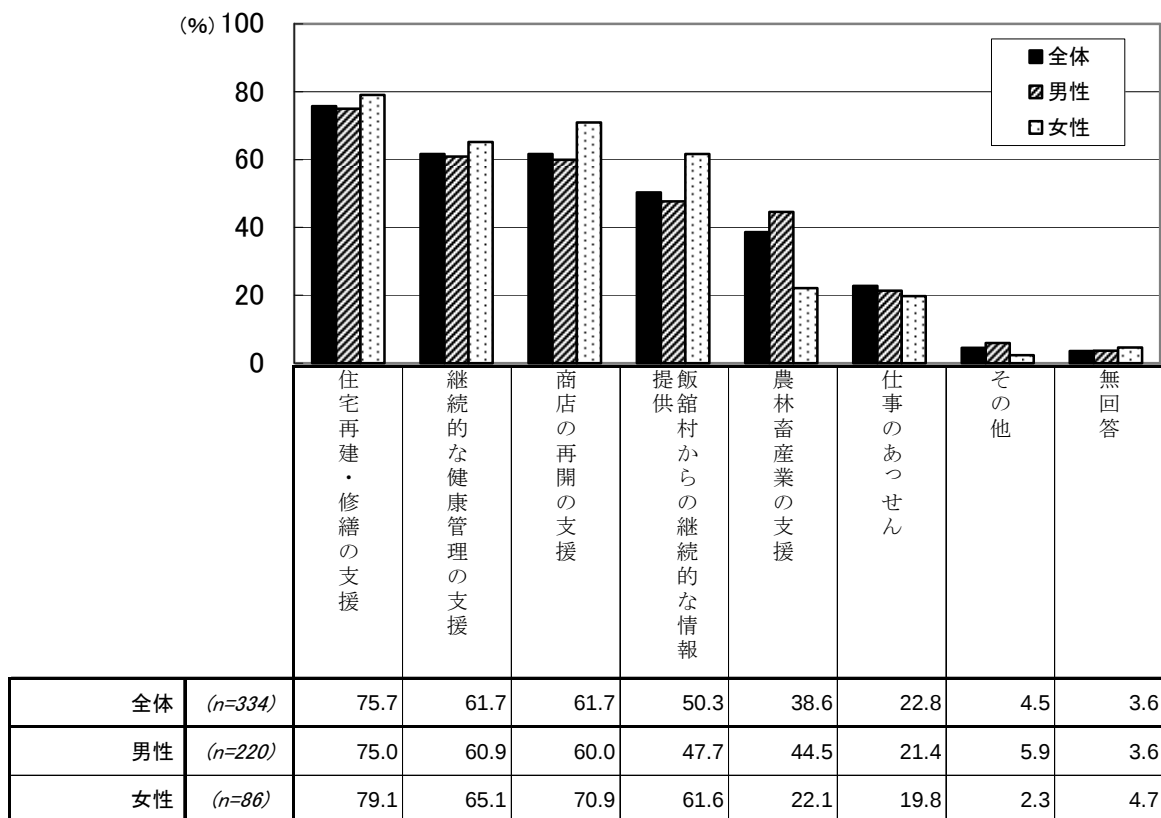
問 21 【問 19 で「1 戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

避難指示が解除され飯舘村に戻る時に、行政にどのような支援を望みますか。あてはまるものをすべて教えてください。(〇はいつでも)

飯舘村への帰還について「戻りたいと考えている」と回答した世帯主(または代表者、334 人)に、飯舘村に帰還する際に行政に望む支援内容を複数回答で尋ねたところ、「住宅再建・修繕の支援」が 75.7%で最も多く、次いで「継続的な健康管理の支援」、「商店の再開の支援」がともに 61.7%、「飯舘村からの継続的な情報提供」が 50.3%と続き、上位を占めている。(図表 5-3-1)

男女別に見ると、男女ともに最も回答が多いのは「住宅再建・修繕の支援」であるが、女性ではそれに次ぐ「商店の再開の支援」との回答も 7 割以上で多い。また、「飯舘村からの継続的な情報提供」についても女性では 6 割を超えており、いずれも男性に比べて女性の要望が強い。「農林畜産業の支援」(男性 44.5%、女性 22.1%)については女性に比べて男性に回答が多い。(図表 5-3-1)

図表 5-3-1 飯舘村に帰還する際に行政に望む支援内容(男女別)



年代別に見ると、他の年齢層に比べて、60代の層で「住宅再建・修繕の支援」や「農林畜産業の支援」を、また50代の層で「仕事のあっせん」を望む意見が、他の層に比べて多い。(図表 5-3-2)

図表 5-3-2 飯館村に帰還する際に行政に望む支援内容(年代別)

(%)

		住宅再 建・修繕 の支援	継続的な 健康管理 の支援	商店の再 開の支援	飯館村か らの継続 的な情報 提供	農林畜産 業の支援	仕事の あっせん	その他	無回答
全体	(n=334)	75.7	61.7	61.7	50.3	38.6	22.8	4.5	3.6
20代以下	(n=2)	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-
30代	(n=5)	80.0	20.0	60.0	20.0	60.0	20.0	-	-
40代	(n=13)	76.9	30.8	69.2	23.1	38.5	23.1	7.7	-
50代	(n=63)	71.4	61.9	60.3	49.2	31.7	34.9	1.6	6.3
60代	(n=101)	81.2	59.4	63.4	50.5	53.5	27.7	5.0	1.0
70代以上	(n=143)	75.5	67.8	62.9	55.2	28.7	13.3	4.9	4.9

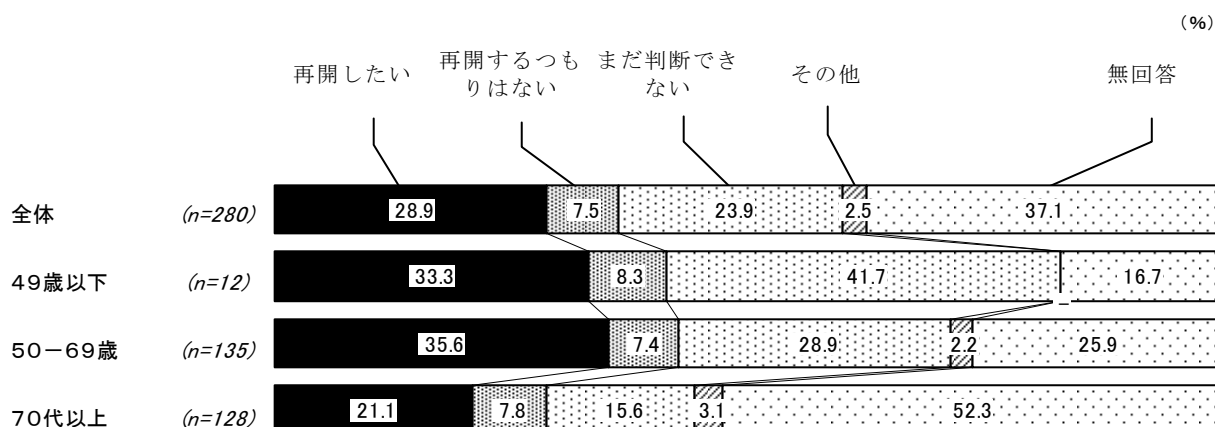
(4)避難指示解除後の村内での事業再開について

1)避難指示解除後の村内での事業再開意向

問 22 【問 19 で「1 戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】
 自営業の再開意向についてうかがいます。
 避難指示が解除になって戻った場合、村内で事業を再開したいと思いますか。(〇は1つ)

飯舘村への帰還について「戻りたいと考えている」と回答した世帯主(または代表者、334 人)のうち、「避難前に自営業(農林畜産業、商業等)をしていない」との回答者を除いた 280 人の避難指示解除後の村内での自営業再開意向としては、「再開をしたい」が 28.9%であるのに対して、「再開するつもりはない」が 7.5%、「まだ判断できない」が 23.9%となっている。(図表 5-4-1)

図表 5-4-1 避難指示解除後の村内での事業再開意向(年代別)

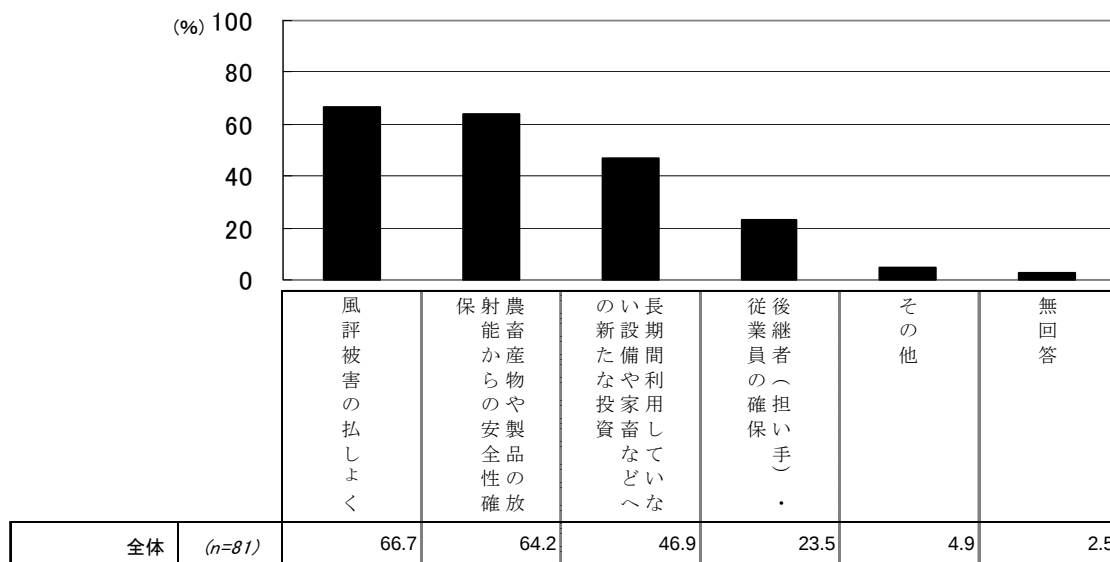


2)村内で事業を再開する際の課題

問 23 【問 22 で「2 再開したい」と回答した方にうかがいます。】
 村内で事業を再開する際の課題があれば教えてください。(〇はいくつでも)

避難指示解除後村内で自営業を再開したいと考えている世帯主(または代表者、81 人)に、村内で事業を再開する際の課題を複数回答で尋ねたところ、「風評被害の払しょく」(66.7%)および「農畜産物や製品の放射能からの安全性確保」(64.2%)がともに 6 割台で多く、次いで「長期間利用していない設備や家畜などへの新たな投資」(46.9%)、「後継者(担い手)・従業員の確保」(23.5%)の順となっている。(図表 5-4-2)

図表 5-4-2 村内で事業を再開する際の課題



3)村内で事業を再開しない理由・判断できない理由

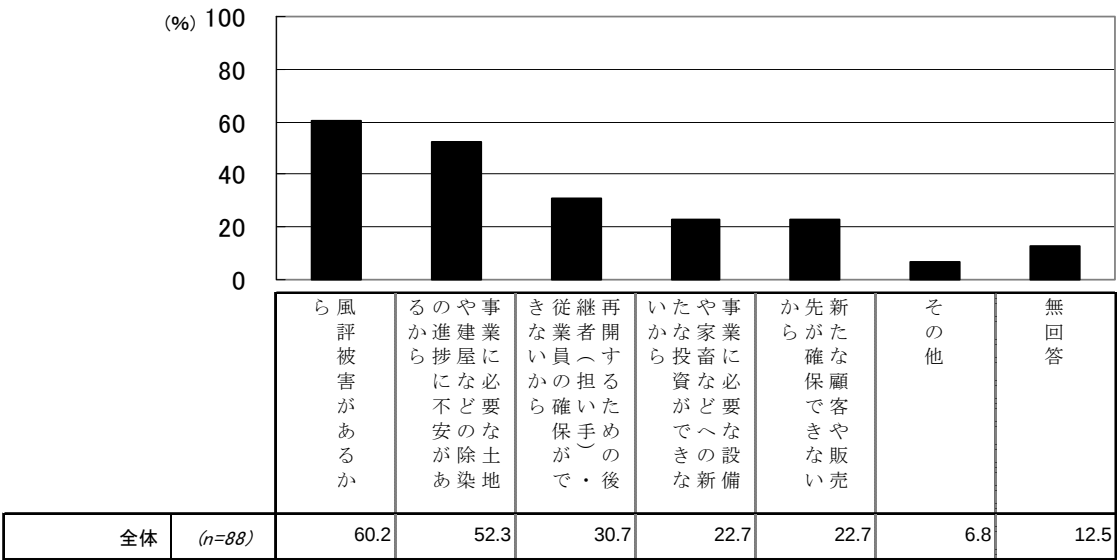
問 24

【問 22 で「3 再開するつもりはない」「4 まだ判断できない」と回答した方にうかがいます。】

事業を再開しない理由、判断できない理由を教えてください。（〇はいくつでも）

避難指示解除後村内で自営業を再開するつもりはない、または再開について判断できないと回答した世帯主（または代表者、88 人）に、村内で事業を再開しない理由・判断できない理由を複数回答で尋ねたところ、「風評被害があるから」との回答が 60.2%で最も多く、次いで「事業に必要な土地や建屋などの除染の進捗に不安があるから」が 52.3%で、いずれも半数を超えて上位の理由に挙げられている。（図表 5-4-3）

図表 5-4-3 村内で事業を再開しない理由・判断できない理由（男女別）



(5)帰還を判断するのに必要な情報

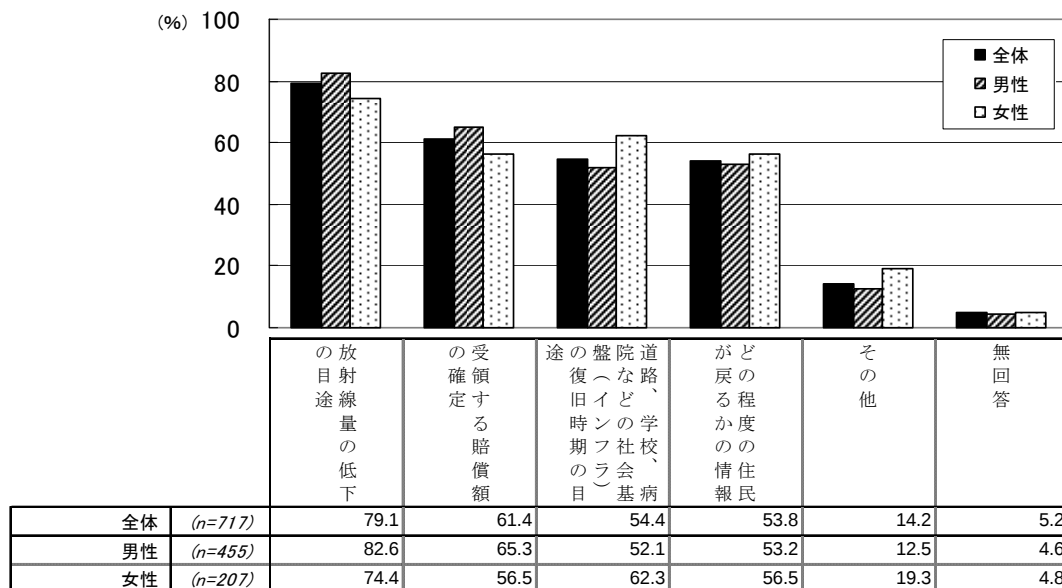
問 25 【問 19 で「2 戻りたいと考えているが判断がつかない」、「3 わからない」と回答した方にうかがいます。
飯舘村に戻るかどうかを判断する上で必要と思う情報について、あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

飯舘村への帰還について「戻りたいと考えているが判断がつかない」、または「わからない」と回答した世帯主(または代表者、717 人)に、飯舘村に戻るかどうかを判断する上で必要と思う情報について複数回答で聞いたところ、「放射線量の低下の目途」が 79.1%で最も多く、以下、「受領する賠償額の確定」(61.4%)、「道路、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途」(54.4%)、「どの程度の住民が戻るかの情報」(53.8%)の順である。(図表 5-5-1)

男女別に見ると、「放射線量の低下の目途」(男性 82.6%、女性 74.4%)および「受領する賠償額の確定」(同 65.3%、56.5%)は女性より男性の回答が多く、「道路、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途」(同 52.1%、62.3%)は男性より女性の回答が多い。(図表 5-5-1)

年代別に見ると、「放射線量の低下の目途」との回答はいずれの年代層においても回答が最も多いが、50 代以下の層では 8 割を超えて他の内容よりも多いのに対して、60 代以上の層では 8 割未満で、年代による開きがある。50 代では「受領する賠償額の確定」(71.8%)、30 代では「道路、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途」(78.7%)がいずれも 7 割を超えており、他層に比べて多い。(図表 5-5-2)

図表 5-5-1 帰還を判断するのに必要な情報(男女別)



図表 5-5-2 帰還を判断するのに必要な情報(年代別)

		放射線量の低下の目途	受領する賠償額の確定	道路、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途	どの程度の住民が戻るかの情報	その他	無回答
全体	(n=717)	79.1	61.4	54.4	53.8	14.2	5.2
20代以下	(n=26)	92.3	57.7	80.8	53.8	7.7	3.8
30代	(n=61)	85.2	49.2	78.7	57.4	21.3	1.6
40代	(n=93)	83.9	58.1	61.3	51.6	18.3	-
50代	(n=195)	87.2	71.8	52.8	59.0	15.9	2.6
60代	(n=170)	77.6	61.2	48.8	52.4	12.4	4.1
70代以上	(n=143)	62.9	57.3	47.6	50.3	9.8	13.3

(6) 飯舘村へ帰還しない理由

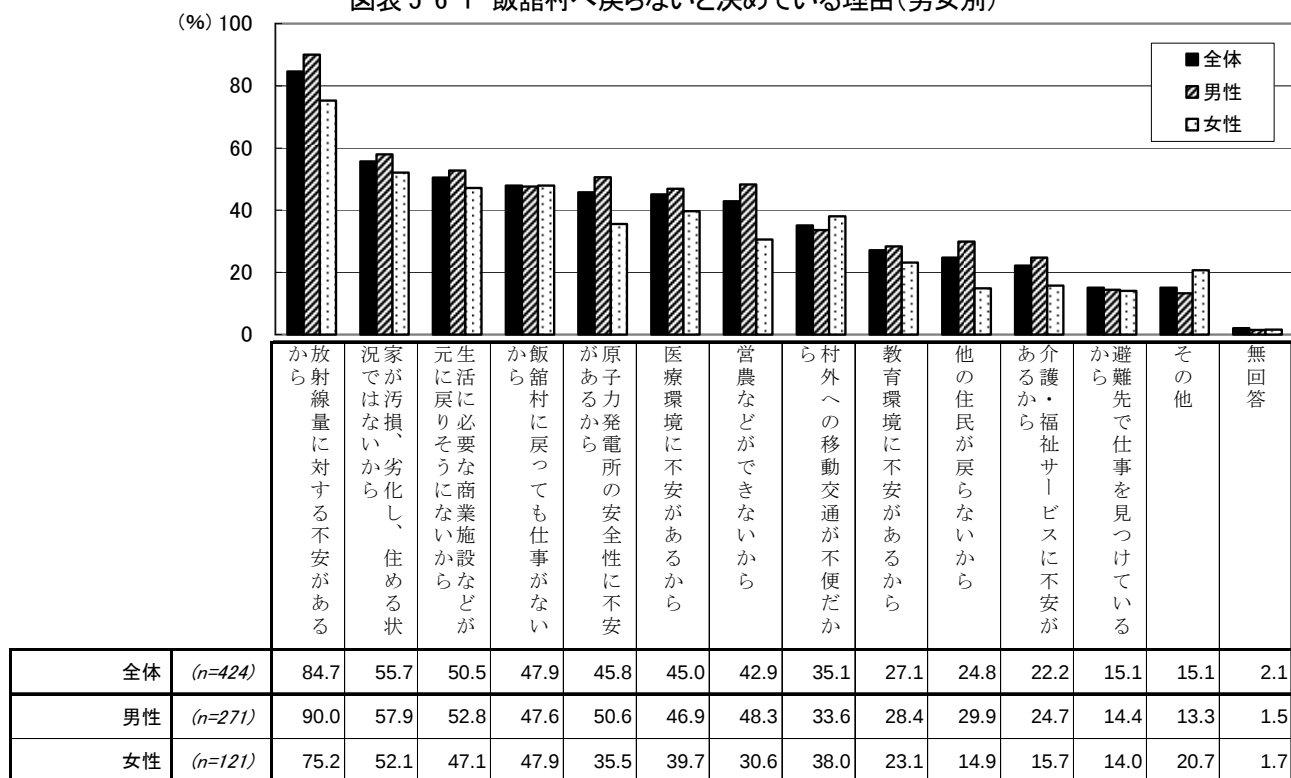
問 26 【問 19 で「4 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

「戻らないと決めている」とお答えになった理由はなぜですか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも)

飯舘村への帰還について「戻らないと決めている」と回答した世帯主(または代表者、424 人)に戻らない理由を複数回答で聞いたところ、「放射線量に対する不安があるから」が 84.7%で最も多くあげられ、以下、「家が汚損、劣化し、住める状況ではないから」(55.7%)、「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」(50.5%)、「飯舘村に戻っても仕事がないから」(47.9%)、「原子力発電所の安全性に不安があるから」(45.8%)などの順となっている。(図表 5-6-1)

男女別に見ると、概して男性のほうが女性に比べてそれぞれ回答率が高く、特に、「放射線量に対する不安があるから」、「原子力発電所の安全性に不安があるから」、「営農などができないから」、「他の住民が戻らないから」は、男性が女性の回答を 10 ポイント以上上回っている。(図表 5-6-1)

図表 5-6-1 飯舘村へ戻らないと決めている理由(男女別)



年代別に見ると、「放射線量に対する不安があるから」との理由がいずれの年代層においても最上位に挙げられている点は同じであるが、50代で「家が汚損、劣化し、住める状況ではないから」および「飯舘村に戻っても仕事がないから」、60代の「営農などができないから」といった回答はいずれも6割を超えており、多くなっている。(図表 5-6-2)

図表 5-6-2 飯舘村へ戻らないと決めている理由(年代別)

(%)

		放射線量に対する不安があるから	家が汚損、劣化し、住める状況ではないから	生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから	飯舘村に戻っても仕事がないから	原子力発電所の安全性に不安があるから	医療環境に不安があるから	営農などができないから	村外への移動交通が不便だから	教育環境に不安があるから	他の住民が戻らないから	介護・福祉サービスに不安があるから	避難先で仕事を見つけているから	その他	無回答
全体	(n=424)	84.7	55.7	50.5	47.9	45.8	45.0	42.9	35.1	27.1	24.8	22.2	15.1	15.1	2.1
20代以下	(n=52)	86.5	59.6	51.9	42.3	36.5	32.7	30.8	38.5	30.8	21.2	7.7	21.2	19.2	1.9
30代	(n=67)	86.6	52.2	44.8	49.3	55.2	50.7	23.9	28.4	49.3	26.9	17.9	22.4	9.0	-
40代	(n=67)	92.5	59.7	55.2	38.8	49.3	50.7	29.9	52.2	34.3	26.9	20.9	16.4	11.9	1.5
50代	(n=102)	86.3	64.7	54.9	61.8	49.0	48.0	59.8	42.2	19.6	28.4	27.5	15.7	22.5	2.0
60代	(n=70)	88.6	48.6	57.1	52.9	50.0	48.6	62.9	27.1	17.1	27.1	24.3	5.7	12.9	2.9
70代以上	(n=48)	58.3	45.8	29.2	27.1	22.9	31.3	31.3	18.8	2.1	16.7	25.0	2.1	16.7	4.2

(7) 今後の生活拠点への転居の時期と判断のタイミング

1) 今後の生活拠点への転居時期

問 27 【問 19 で「4 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

戻らない場合に、今後の生活拠点に転居する時期は決まっていますか。(〇は1つ)

「2 転居時期が決まっている」を選択された方は、の中に具体的な時期もご記入ください。

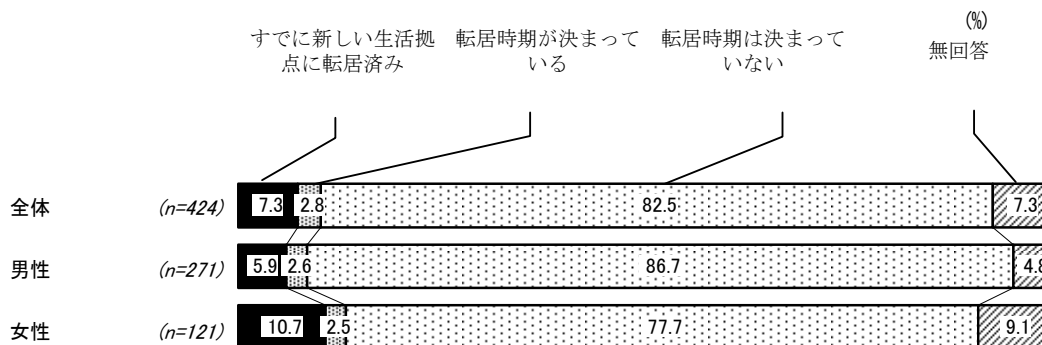
飯舘村への帰還について「戻らないと決めている」と回答した世帯主(または代表者、424 人)に、今後の生活拠点への転居の時期を聞いたところ、「転居時期は決まっていない」(82.5%)が多数を占め、「すでに新しい生活拠点に転居済み」という回答は 7.3%、「転居時期が決まっている」は 2.8%に留まっている。(図表 5-7-1)

「転居時期が決まっている」と回答した世帯主(または代表者、12 人)の転居時期としては、「半年以内」が 41.7%、「1 年以内」および「1 年半以内」がともに 25.0%となっている。(図表 5-7-2)

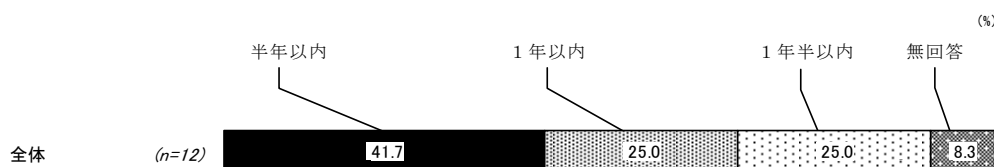
男女別に見ると、「転居時期は決まっていない」(男性 86.7%、女性 77.7%)という回答は男性に多く、「すでに新しい生活拠点に転居済み」という回答はやや女性に多くなっている。(図表 5-7-1)

年代別に見ると、20 代以下の層では「すでに新しい生活拠点に転居済み」という回答が 21.2%で、他の年代層に比べて特に多い。40 代では「転居時期は決まっていない」という回答が 95.5%で、時期未定者が多い。(図表 5-7-3)

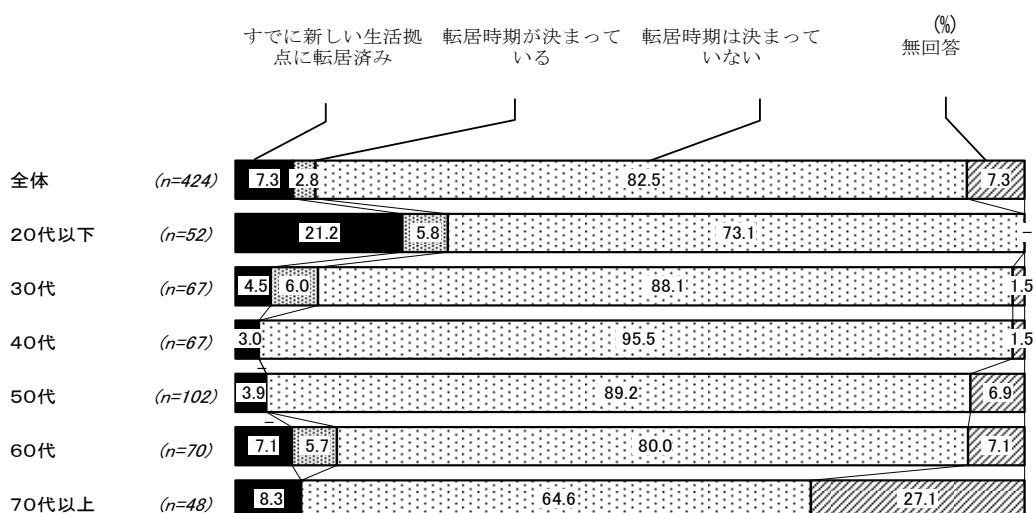
図表 5-7-1 今後の生活拠点への転居時期(男女別)



図表 5-7-2 今後の生活拠点への転居時期



図表 5-7-3 今後の生活拠点への転居時期(年代別)



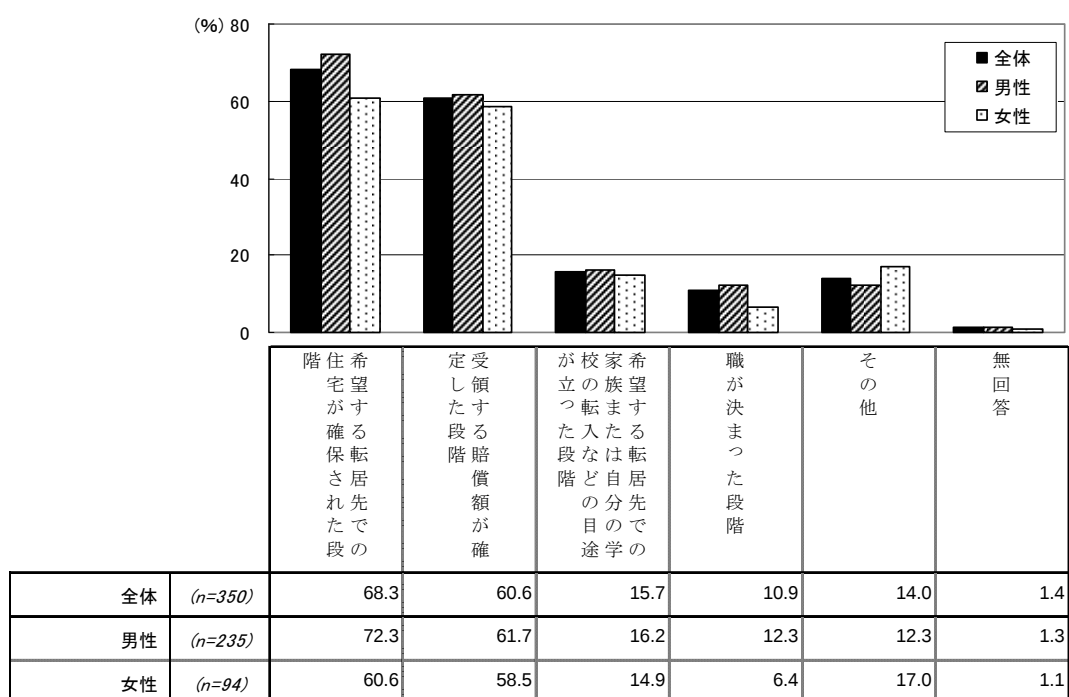
2) 今後の生活拠点への転居を判断したい段階

問 28 【問 27 で「3 転居時期は決まっていない」と回答した方にうかがいます。
転居時期は、どの段階で判断したいとお考えですか。(○はいくつでも)

飯舘村に帰還する意向がなく、かつ今後の生活拠点へ「転居時期は決まっていない」と回答した世帯主(または代表者、350 世帯)に、転居時期をどの段階で判断したいか複数回答で聞いたところ、「希望する転居先での住宅が確保された段階」が 68.3%で最も多く、次いで、「受領する賠償額が確定した段階」が 60.6%であり、「希望する転居先での家族または自分の学校の転入などの目途が立った段階」(15.7%)、「職が決まった段階」(10.9%)はいずれも 1 割台となっている。(図表 5-7-4)

男女別に見ると、「希望する転居先での住宅が確保された段階」(男性 72.3%、女性 60.6%)との回答は、女性に比べて男性に多くあげられている。(図表 5-7-4)

図表 5-7-4 今後の生活拠点への転居の判断のタイミング(男女別)



年代別に見ると、60 代以外の層では「希望する転居先での住宅が確保された段階」が最も多くあげられている。60 代および 70 代以上の層では、「希望する転居先での住宅が確保された段階」と、「受領する賠償額が確定した段階」との回答がほぼ同程度で上位に並んでいる。(図表 5-7-5)

図表 5-7-5 今後の生活拠点への転居の判断のタイミング(年代別)

(%)

		希望する転居 先での住宅が 確保された段 階	受領する賠償 額が確定した 段階	希望する転居 先での家族ま たは自分の学 校の転入など の目途が立っ た段階	職が決まった 段階	その他	無回答
全体	(n=350)	68.3	60.6	15.7	10.9	14.0	1.4
20代以下	(n=38)	60.5	44.7	18.4	13.2	15.8	-
30代	(n=59)	62.7	47.5	25.4	8.5	10.2	3.4
40代	(n=64)	71.9	65.6	18.8	14.1	15.6	-
50代	(n=91)	71.4	62.6	14.3	13.2	16.5	1.1
60代	(n=56)	71.4	73.2	10.7	5.4	14.3	1.8
70代以上	(n=31)	64.5	64.5	-	6.5	6.5	3.2

(8) 今後の生活において行政に望む支援

問 29 【問 19 で「4 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

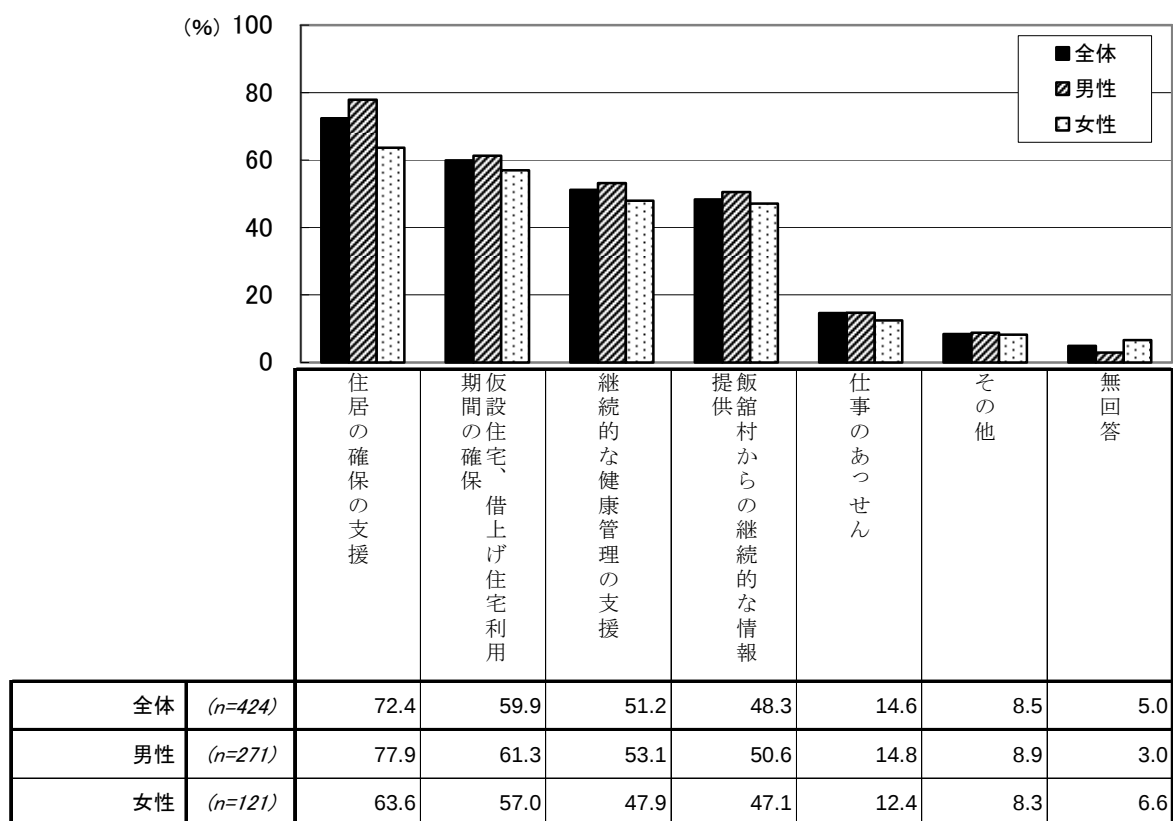
飯舘村に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

飯舘村への帰還について「戻らないと決めている」と回答した世帯主(または代表者、424 人)に、今後の生活においてどのような支援を求めるか聞いたところ、「住居の確保の支援」が 72.4%で最も多くあげられ、以下、「仮設住宅、借上げ住宅利用期間の確保」(59.9%)、「継続的な健康管理の支援」(51.2%)、「飯舘村からの継続的な情報提供」(48.3%)の順で続き、「仕事のあっせん」(14.6%)は 1 割台となっている。(図表 5-8-1)

男女別に見ると、「住居の確保の支援」(男性 77.9%、女性 63.6%)は、女性よりも男性のほうが多い。(図表 5-8-1)

年代別に見ると、40 代の層では「住居の確保の支援」と「仮設住宅、借上げ住宅利用期間の確保」がともに 7 割を超えており、住宅確保に関する支援要望が強い。「継続的な健康管理の支援」は 30 代の層で 6 割を超えており、他の層に比べて要望が強い。(図表 5-8-2)

図表 5-8-1 今後の生活において行政に望む支援(男女別)



図表 5-8-2 今後の生活において行政に望む支援(年代別)

(%)

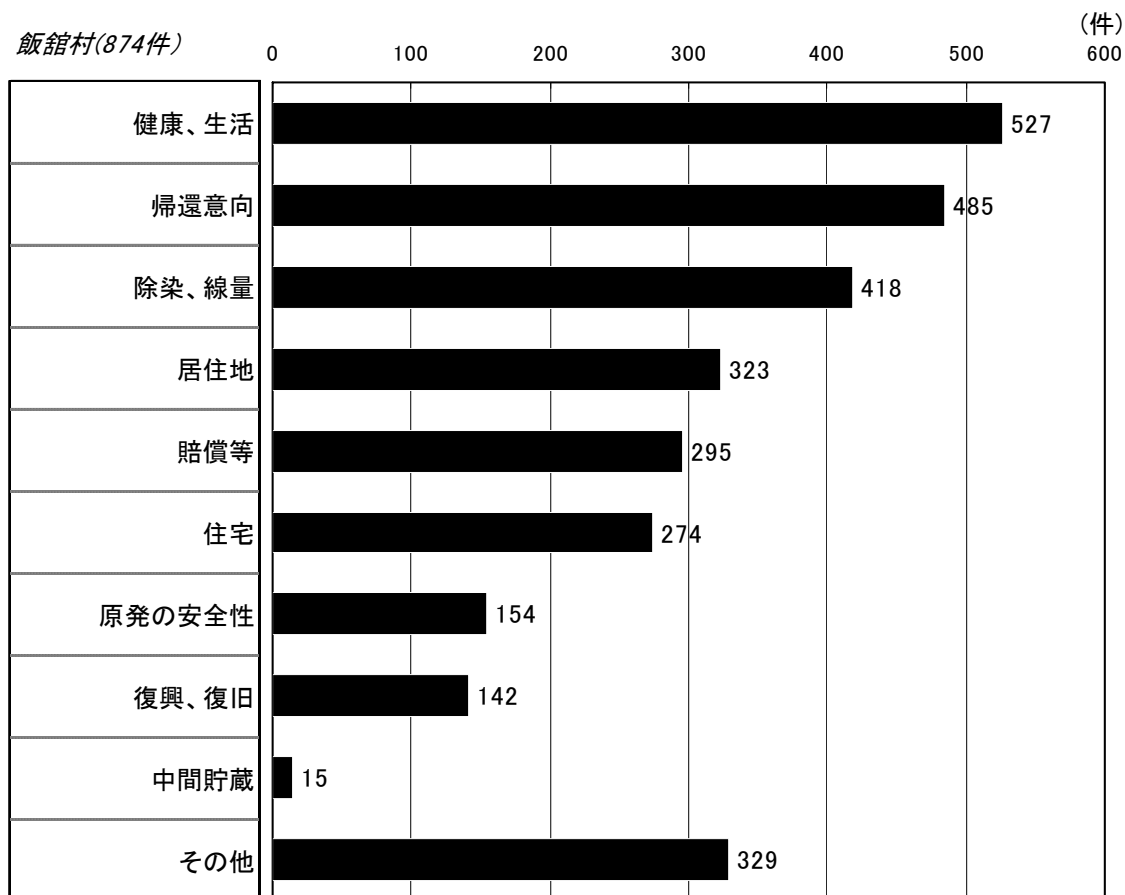
		住居の確保 の支援	仮設住宅、 借上げ住宅 利用期間の 確保	継続的な健 康管理の支 援	飯舘村から の継続的な 情報提供	仕事のあつ せん	その他	無回答
全体	(n=424)	72.4	59.9	51.2	48.3	14.6	8.5	5.0
20代以下	(n=52)	76.9	63.5	48.1	50.0	11.5	13.5	—
30代	(n=67)	74.6	62.7	62.7	53.7	14.9	7.5	3.0
40代	(n=67)	79.1	74.6	58.2	44.8	14.9	7.5	—
50代	(n=102)	77.5	63.7	51.0	45.1	18.6	7.8	3.9
60代	(n=70)	75.7	52.9	51.4	52.9	17.1	8.6	5.7
70代以上	(n=48)	47.9	37.5	27.1	50.0	6.3	8.3	14.6

6. 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ちについて

問 30 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどを自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望や気持ちについて尋ねたところ、874 件の自由回答を得た。最も発言の多いのは「健康、生活」に関する内容で(527 件)、以下、「帰還意向」に関する内容(485 件)、「除染、線量」(418 件)、「居住地」(323 件)、「賠償等」(295 件)、「住宅」(274 件)、「原発の安全性」(154 件)、「復興、復旧」(142 件)、「中間貯蔵」(15 件)という順となっている。(図表 6-1)

図表 6-1 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ち(自由回答)



(同一対象者の発言が複数内容にわたっている場合は、件数として内容ごとに件数カウントしている。)

図表 6-2 国・自治体への要望、復興に対する展望や気持ち(代表的意見抜粋)

●健康、生活

性別	年齢	記載内容
男性	20代	除染と保障を早めに提示して、将来の不安をなくしてほしい。
男性	30代	いずれ家を持たなければならず、そこが不安です。大きな買い物をしなければならないことに対して、国が支援してくれたら、気持ち的に楽になります。
男性	50代	高齢者が安全に安心して生活できる環境の整備を要望します。
男性	60代	震災で、私は1人になってしまいました。村が、もう少し住宅を回してほしいです。
男性	70代	国・県村が心配している事について、内容がまったく伝わっていない。
女性	30代	子どもが微妙な年頃になり、今後の進路の事を考えると、福島での進学を考えている。親としてどんな風にしてあげれば良いのか、わからない。
女性	30代	何もかもが良く分からない。これからどうしていけば一番良いのか。道に迷っているような感じで、心も、どうかしてくる。
女性	50代	家族一諸に持ち家で暮らしたい。
女性	70代	今後どうなるのか先が見えぬ不安で毎日をすごしています。
女性	80歳以上	先々身体的にも自信がなく、不安です。福祉の面でのバックアップを充分にしてほしいです。

●帰還意向

性別	年齢	記載内容
男性	20代	村に帰ることは不安ばかり、新しい場所で住める支援をしてほしい。
男性	50代	飯舘村に帰っても何も作れない売れないでは帰っても仕方ないです。帰れるようにするには山を除染してもらわなければなりません！
男性	50代	戻っていいと言われれば戻る。インフラも、放射線量も関係ない。避難しろと言われたから、避難したのだから。
男性	60代	災害公営住宅まで建設して、なぜ帰村させたいのか理解できない。(一部方の利害関係か？)
男性	70代	1日も早く飯舘村に戻りたい。
女性	30代	以前の村に戻れば村に帰村してもいいと思う。
女性	40代	飯舘に帰ったところで、子ども達が来ることはないでしょうし、そこに住んでも生活が不安です。
女性	50代	除染を早く進めてほしい。戻れたとしても生活の補償はしてほしい。
女性	60代	野菜も作れないんだから、戻っても楽しみがないから戻りたくない。
女性	60代	帰村しても先がみえてないのでは不安です。住民がどれだけの人が帰村するのか。そして、その中での生活が一番心配です。
女性	80歳以上	村全体同一の賠償、同一の帰村であるべき、と考える。

●除染、線量

性別	年齢	記載内容
男性	30代	住宅除染だけでも、営農できなければ意味がない
男性	30代	・県内の避難先での除染もちゃんとしてほしいです。 ・村内の除染が進んでいるようですが、子ども達が安心して暮らせるように、年間1mSv以下になるように、除染を継続してほしいです。
男性	40代	除染する金があったら、村民の復興に使ってほしい。
男性	50代	除染するのは先に山の方からしなくては、何も作れないのでは？住宅だけでは、生活出来ないと思う。
男性	60代	放射線量をしっかりと下げて、孫達と安心して暮らせる環境をつくってください。帰村して、孫達と暮らしたい！
男性	70代	田、畑、山林全体に除染をしなくては、住める状態になるのか一番の心配である。
女性	30代	飯舘村の山の除染もしてほしい。
女性	50代	本当の放射線量を公表してほしい。
女性	50代	除染しなくてはいけない事がわかっているのに、除染の遅れには腹立たしく思います。スピードある除染をお願いします。
女性	60代	除染は山からやらないと、ダメなような気がする。
女性	80歳以上	除染が終了しても、放射線が無くなるまで国の監視、対応が必要だと思います。

●居住地

性別	年齢	記載内容
男性	20代	村に帰ることは不安ばかり、新しい場所で住める支援をしてほしい。
男性	30代	いつまで続くこの生活。好きでここに住んでいるわけではないのに、子供のふるさと、飯館ではなく福島市です。
男性	30代	・中途半端な避難区域の編成をしないで、同じにするべき。(例えば、地域ごとに戻っても、なにもならないし、何も出来ない。)・小、中学校を同じ場所にするべき。
男性	40代	災害公営住宅を作るのであれば、福島市だけに作ってもあまり意味が無い。それぞれ色々な所に避難しているのだから、避難先で中古住宅等住宅のあっせん等をしてほしい。
男性	70代	水と空気がきれいので降雪が少なく、第2の飯館村を築く土地がほしい！それが不可能ならいち早く元の飯館村にしてください。
男性	80歳以上	家族達と一諸に住み、若い方達が帰るには除染です。だが、一度除染してもまた出てくる。それなら放射能のない所に、迷わず移った方が良くと思う。
女性	40代	除染しても戻る気持ちはないので、戻りたい人の家だけ除染して、戻らない人には、お金をくれた方が良く。他の場所に住むために。
女性	50代	家族(子どもと孫)が帰って来て一緒に住めるような環境が出来れば、1日でも早く帰村したいが、今の状況では絶望的です。
女性	60代	自分の生まれた所、自分の地区で今後は過ごしたい。そのため住宅はきちんと作ってほしい。一戸建て公営住宅希望する。
女性	60代	自分達は都会には住みたくないが、子供達は戻らないので賠償してもらって暮らした方がいいのではないかと思っている。ふるさとをなくしても淋しいし、墓のこともあるのでどうするか決まらない。
女性	70代	老後の事を考え働いてきましたが、避難生活は本当につらいです。やすらぐ家と、親しめる土地がほしいです。

●賠償等

性別	年齢	記載内容
男性	20代	借上げ住宅を提供する制度の家賃補助を、避難が続く限り継続してほしい
男性	30代	賠償をもっとスピーディーに進めてほしい。はっきりいって国の責任なんだから、東電任せじゃなく、国が賠償を進めてほしい。
男性	50代	村の除染をするよりも、生活支援にお金を出してほしい。除染よりも生活です。
男性	60代	不動産の賠償、スピードが遅いので新しいスタートが切れない。・復興予算の無ダ使いはやめる！！
男性	70代	・復興が遅れている事への失望。・東電の賠償(→誠意のある賠償、被害者に寄り添った金額を提示すべき！)の誠意の無さに失望。
女性	20代	自宅の補償を早く決めてほしい。
女性	50代	出来る事なら家へ戻りたいですが、住める家の状態では有りません。リフォーム代を全額補償してください。孫が遊びに来れるように、確実に除染してください。
女性	60代	一年でも早く自宅へ戻りたいが、生活にかかる経済的支援はどうなるのか？その点が心配であります。
女性	70代	出来る限りの保障、支援をお願いしたい。
女性	80歳以上	村全体同一の賠償、同一の帰村であるべき、と考える。

●住宅

性別	年齢	記載内容
男性	40代	仮設住宅には、色々と支援があるそうですが、借上げ住宅にあまりないのは、なぜなのか。同じ避難者なのに不公平だと思うのは、私だけでしょうか。
男性	50代	借上げ住宅制度の延長。
男性	50代	今まで自分の家にいたのに皆んなバラバラになっています。最終的には皆んないっしょにいたい。一戸建に住みたいです。災害公営住宅に入るとなったら、家賃を取らず入れてほしいです。
男性	60代	情報提供や健康管理の支援や、仮設住宅や、借上住宅の利用期間の確保を長期にわたり、支援してもらいたいです。
男性	70代	私としては仮設とか村内の住宅とか作る所には、入りたくありません。自分で家を立てる予定を考えて居りますが、国の方でお金を出してもらいたい。
女性	20代	家族、地域の人とバラバラにならなくていい一軒家に住みたい。災害公営住宅に入るとなったら、家賃を取らないでほしい。
女性	50代	住宅を建ててもらいたいですね。なるべくなら福島の方に住みたい。
女性	50代	出来る事なら家へ戻りたいですが、住める家の状態ではありません。リフォーム代を全額補償してください。孫が遊びに来れるように、確実に除染してください。
女性	60代	1人住まいのため、できれば1人用の住宅が出来るといいです。
女性	60代	放射線量が高いので、戻るのは無理かもしれない。仮設も狭くて、年寄り3人での生活は大変。1日も早く、復興住宅を建ててほしい。せめて、年寄りのベッドが置ける部屋がほしい。
女性	70代	除染より、住居(持ち家)確保に事業費用をかけてほしい。

●原発の安全性

性別	年齢	記載内容
男性	20代	今回の原発事故は東京電力だけの責任ではなく、国、県にも大きな責任がある。しかし現在は東京電力だけが賠償している状況である。国や県にも賠償してほしい。国や県、村からの支援に不公平が生じないようにしてほしい。国や県、村は60歳未満の世代の意見を積極的に受け入れてほしい。将来的に負担を受けるのは若い世代なので。
男性	30代	・しっかりと除染とインフラの整備を国にお願いしたい。二度とこのようなことがないよう国はしっかりと原発問題に取り組んでほしい。将来のある子供たちのために！！
男性	40代	本当に安全なのかと思います。事故がある以前のように、何も考えず生活する事は出来ません。国が、自治体が大丈夫といっても、疑心暗鬼になり精神的に不安定で、心から笑えて生活する事、本当に飯館村で出来ますか？目に見えない物と、どうして一緒に生活出来るか教えてください。
男性	50代	原発事故の原因・責任の所在を、明確にしてもらいたい。責任を持って、これからの生活、健康についての補償を継続してもらいたい。何年かかっても、飯館村が再建できるようにしてもらいたい。ここで生まれた人にとって、ふるさとを失うことは原点を失うことで、生きていく上でとてもつらいことなのですから、よろしくお願い致します。
男性	60代	口先だけの復興・原発の収束は、いまだしていないのではないかと。放射線被曝に会った子供達は20～30年後はどうなるだろう不安です。
男性	80歳以上	爆発した建屋の放射能が、どの程度飯館村に飛んでくるか計り知れない。計算出来ますか？
女性	20代	避難区域が解除されても、健康被害や生活環境への不安があります。今後、継続的な借り上げ住宅利用と健康管理の支援を補償していただけることが、必要です。また、今後原発によって生活の安全が脅かされないような、国や地域をつくる方策を具体的に実施してほしいです。
女性	30代	まずは、原発の現在の状況を一つ一つくさず説明し、放射能の人体への影響に関しても真実をきかせてほしい。子供の将来のために…
女性	60代	原子力発電所の安全性に不安。
女性	70代	放射能のない安心安全な村にしてほしい。家にはもどりたいです。

●復興、復旧

性別	年齢	記載内容
男性	20代	村の復興を唱えている時点で若者の将来を完全に無視している。先住民としての観点からではなく、いいかげん、先を読んでもらいたい。今後の動向に期待している。(村民の意見を尊重しろ)
男性	30代	やはり、病院や商業施設が、そろわないと、不便で帰村を考えられなくなります。
男性	30代	場所ではなく、人の復興に計画を練りなおしてほしい。・県外にも復興庁の予算が通るようにしてほしい。
男性	40代	飯舘村での生活のように、農地(畑、田)に隣接する住居を再建するために、農地の取得、住居建築のための農地転用を行いやすくするための制度を設けたり、情報提供などを支援してほしい。
男性	50代	村に戻る人が困まらないようインフラ、ライフラインの整備をしてほしい。(勤務、仕事、店、等)戻らない人にも今後も支援してほしい。(住居等 労働等)
男性	60代	除染の進行、安心して暮らせるインフラ整備、子供達も戻れる環境をとり戻す事、生活に不安を与えないよう、今後も補償の継続、農業が再開出来るよう積極的支援と対策・施策。
男性	60代	今後村での雇用や、就労を考えた場合、村へ雇用の場が必要と考えられる。今回原発事故で村へは大きな損失を与えられた。少なくとも、村で原発に関わる研究機関の誘致。又、これからは自然エネルギーが取り上げられる蓄電地の工場誘致等も強力に進めてほしい。
男性	70代	復興とは、元の状態に戻すことで、完全復興するまでは、個人に対して生活支援賠償金を支払うことが、村へ帰還する条件です。
女性	20代	復興は、若い世代が戻れる環境作りが大事だし、ふるさとをなくさないでほしい。
女性	40代	選挙で人は変わっても、現時点で進めている事はブレずに今まで通り進めてほしい。このゴタゴタで復興を後回しにするような事は絶対にしないでほしい。

●中間貯蔵

性別	年齢	記載内容
男性	50代	もっと、村民の話を聞いてほしい。村を買いとってほしい！！村を最終処分地にしてほしい。
男性	30代	もっともっと、時間がかかると思うが、住民との話し合いを、根気良く続けていただきたい。仮置き場の問題も含めて今回の放射能の問題は、何十年もかかると思います。私たち世代も未来に向けて積極的に責任をもって関わり、決めて行きたいと考えています。
男性	60代	今村は除染をおこなっているが、仮置場も決定しない内に除染をして、廃棄物をその場に置いては、やっている意味がない。
男性	60代	除染不可能な場所は周辺自治体あるいは国に対して仮置場又は中間貯蔵施設として提供してもよいのではないかな…。飯舘は過去の地盤調査で、最適と判断されるほど硬い土地と報告されていると言う。被災住民が一日も早く再出発できるよう賠償に力を入れてほしい。
男性	40代	最終処分場および中間処理場は、もはや双場郡にしかないのだから、早々に金でカタをつけると言いたい。
男性	50代	飯舘は本当にいい所です。そこが真の楽土としてよみがえるならよし、無理のなら人を戻そうとはせず、原子力エネルギー政策が無事安全に役目を終えられるよう、中間貯蔵施設なり最終処分場なり、又、研究施設として、日本のすべての人々の安心の一助になったらいいのにとします。17年住んでなお、他所者のお気楽な発想かもしれません。

●その他

性別	年齢	記載内容
男性	30代	東電だけの責任ではないので、国もしっかり復興支援などしてほしい。
男性	30代	村や国や県の行政のトップとの話し合いの場を、設けてほしい。
男性	50代	はっきりした正確な情報。出来る、出来ない、中途半端な返答は入らない。長引き続けば、帰村人口は少なくなる。
男性	60代	情報提供や健康管理の支援や、仮設住宅や、借上げ住宅の利用期間の確保を長期にわたり、支援してもらいたいです。
男性	70代	国、政府の言っている事、東電の態度、全く信用する事が出来ない。復興するにしても除染が進まない。口先だけではだめです。なによりも、前の生活にもどしてほしいです。
女性	20代	村に戻ったとして、農業が出来なかったら、意味がない。たとえ、できたとしても、誰が食べるのか？農家もできず、ただ家にいるだけの生活になってしまうのか、不安。
女性	30代	家には戻れる、と村長は言いますが、飯舘には山がすごくあり、いくら除染しても無理なのは？何か不安で仕方ないです。田・畑も作れない所に戻る事は出来ないのでは？
女性	50代	本当の放射線量を公表してほしい。
女性	50代	国・自治体へは、この心を痛めている現状をわかってほしい。どうしてくれる。私達は、これからも“生きて”行かなければならないのだ。
女性	60代	私達は、今まで農業で生活してきたが、世界中にまで有名になった飯舘で取れた野菜・米を、だれが買ってくれるのでしょうか。買ってもらえなくては生活できないので、帰ってもしょうがないと思う。
女性	80歳以上	除染が終了しても、放射線が無くなるまで国の監視、対応が必要だと思います。

Ⅲ 調査票

(付:単純集計結果)

飯舘村 住民意向調査

記入上の注意

● 回答をお願いする方

ご回答は、本調査票の届きましたご住所の代表者の方をお願いいたします。(現在世帯が何か所かに分かれて避難されている場合は、それぞれの住所にお送りしております。)

● ご回答方法

ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。

「その他」に○をされた場合は、()内に具体的な内容もご記入ください。

の中に具体的な内容の記入をお願いしている問いには、具体的な内容(地名、数など)をご記入ください。

※ 調査票はすべて無記名でお願いしております。

● ご提出方法

ご記入済みの調査票は、12月14日(金)までに、同封の返信封筒に入れ、最寄りの郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

飯舘村 福島県 復興庁

- ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

飯舘村

〒960-1301 福島県福島市飯野町字後川 10 番地の 2

飯野出張所 総務課企画係

電話: 024-562-4246

東日本大震災発生当時および避難状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 1 震災発生当時の世帯構成についてうかがいます。

(1) 震災発生当時は、あなたを含めて何人でお住まいでしたか。(具体的に) (n=1,523)

震災発生当時の世帯合計人数(あなたを含めて)	(7.9) 1人	(16.0) 2人	(16.9) 3人
	(15.0) 4人	(12.1) 5人	(30.2) 6人以上

(2.0) 無回答

(2) 震災発生当時一緒にお住まいであったご家族は、現在、何か所に分散してお住まいですか。

(○は1つ) (n=1,523)

(33.2) 世帯でまとまって避難している	(17.3) 合計3か所に分散
(38.2) 合計2か所に分散	(7.3) 合計4か所以上に分散

(3.9) 無回答

(3) 震災発生当時一緒にお住まいであったご家族を、現在住んでいらっしゃる住居ごとに教えてください。

あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢を、あてはまる人数でご回答ください。 (人数で回答)

【すべての方に記入をお願いします】

① あなたが現在いっしょに住んでいる方の人数を教えてください。 (n=1,523)

ア) 未就学児(小学校入学前) (86.7) 0人 (6.0) 1人 (2.1) 2人 (0.5) 3人以上	エ) 高校生 (87.6) 0人 (6.4) 1人 (1.1) 2人 (0.1) 3人以上
イ) 小学生 (84.7) 0人 (7.0) 1人 (2.7) 2人 (0.8) 3人以上	オ) 15～64 歳(中学・高校生を除く) (20.8) 0人 (33.5) 1人 (28.7) 2人 (12.2) 3人以上
ウ) 中学生 (88.5) 0人 (5.8) 1人 (0.8) 2人 (0.1) 3人以上	カ) 65 歳以上の方 (47.4) 0人 (27.8) 1人 (17.9) 2人 (2.2) 3人以上

(4.8) 無回答

② あなたのお住まいとは別の、2か所目の住居にお住まいの方の人数を教えてください。

(n=957)

ア) 未就学児(小学校入学前) (85.2) 0人 (6.4) 1人 (2.1) 2人 (0.6) 3人以上	エ) 高校生 (86.6) 0人 (6.5) 1人 (1.1) 2人 (-) 3人以上
イ) 小学生 (83.8) 0人 (7.0) 1人 (2.3) 2人 (1.1) 3人以上	オ) 15～64 歳(中学・高校生を除く) (21.1) 0人 (36.5) 1人 (28.9) 2人 (7.7) 3人以上
ウ) 中学生 (88.1) 0人 (4.8) 1人 (1.4) 2人 (-) 3人以上	カ) 65 歳以上の方 (60.2) 0人 (16.8) 1人 (15.3) 2人 (2.0) 3人以上

(5.7) 無回答

③ あなたのお住まいとは別の、3か所目の住居にお住まいの方の人数を教えてください。

(n=375)

ア) 未就学児(小学校入学前) (78.1) 0人 (3.7) 1人 (0.5) 2人 (0.3) 3人以上	エ) 高校生 (80.0) 0人 (2.4) 1人 (0.3) 2人 (-) 3人以上
イ) 小学生 (80.0) 0人 (1.3) 1人 (0.5) 2人 (0.8) 3人以上	オ) 15～64 歳(中学・高校生を除く) (21.6) 0人 (45.9) 1人 (10.9) 2人 (4.3) 3人以上
ウ) 中学生 (81.6) 0人 (0.5) 1人 (0.5) 2人 (-) 3人以上	カ) 65 歳以上の方 (58.4) 0人 (14.7) 1人 (8.3) 2人 (1.3) 3人以上

(17.3) 無回答

④ あなたのお住まいとは別の、4か所目の住居にお住まいの方の人数を教えてください。

(n=111)

ア) 未就学児(小学校入学前) (75.7) 0人 (1.8) 1人 (1.8) 2人 (-) 3人以上	エ) 高校生 (77.5) 0人 (0.9) 1人 (0.9) 2人 (-) 3人以上
イ) 小学生 (74.8) 0人 (2.7) 1人 (-) 2人 (1.8) 3人以上	オ) 15～64 歳(中学・高校生を除く) (27.0) 0人 (40.5) 1人 (9.0) 2人 (2.7) 3人以上
ウ) 中学生 (76.6) 0人 (0.9) 1人 (1.8) 2人 (-) 3人以上	カ) 65 歳以上の方 (49.5) 0人 (18.0) 1人 (10.8) 2人 (0.9) 3人以上

(20.7) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 2 震災発生当時にお住まいだった地区を以下から教えてください。(○は1つ) (n=1, 523)

(11. 9) 草野	(2. 2) 大倉	(7. 9) 上飯樋	(3. 4) 前田
(4. 7) 深谷	(3. 2) 佐須	(5. 0) 比曾	(3. 6) 二枚橋・須萱
(5. 5) 伊丹沢	(4. 1) 宮内	(4. 7) 長泥	(0. 5) その他
(5. 1) 関沢	(6. 4) 飯樋町	(2. 8) 蕨平	(わからない場合住所を記載してください)
(7. 3) 小宮	(5. 3) 前田・八和木	(3. 0) 関根・松塚	()
(2. 0) 八木沢・芦原	(4. 1) 大久保・外内	(4. 5) 臼石	(2. 7) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 3 あなたが現在避難されている先の自治体を教えてください。(○は1つ) (n=1, 523)

(56. 2) 福島市	(2. 6) 福島県内のその他の市町村 (具体的にご記入ください。)
(9. 9) 伊達市	→ 市・町・村)
(6. 9) 相馬市	(7. 0) 福島県外 (具体的にご記入ください。)
(6. 1) 南相馬市	→ 都・道・府・県) 市・町・村・区)
(6. 7) 川俣町	
(1. 4) 二本松市	
(0. 4) 郡山市	
(1. 1) 国見町	

(1. 8) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 4 現在お住まいになっている住宅はどのような所有形態ですか。(○は1つ) (n=1, 523)

(55. 5) 借上げ住宅(借上げ型の仮設住宅。無償)	(1. 3) 家族どなたかのお住まい・実家
(16. 5) プレハブ型の仮設住宅 (無償)	(1. 6) 親戚・知人宅
(14. 1) 民間賃貸(有償)	(1. 6) 持ち家(ご本人またはご家族所有)
(6. 0) 社宅、公務員宿舎	(1. 5) その他 (具体的に)

(1. 8) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 5 ご自身またはご家族が、現在の避難生活においてもっとも困っていること、改善を求める分野を 1 つ教えてください。(○は1つ) (n=1, 523)

(7. 6) 医療	(14. 9) その他
(3. 9) 教育	具体的に
(8. 4) 介護・福祉	(23. 8) 特になし
(17. 7) 労働	
(17. 9) コミュニティ形成(地域社会とのつながり)	

(5. 8) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 6 ご自身またはご家族が、医療サービスについて困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=1, 523)

- | | |
|--|---------------------------|
| (3. 2) 医療機関がない、もしくは少ない | (18. 5) 受付から診療まで時間がかかる |
| (18. 8) 遠くまで通院することになった | (5. 1) 診察・診療の質に満足できなくなった |
| (7. 6) 医療機関までの交通手段がない、または不便 | (2. 6) その他 |
| (3. 7) 特定の診療科がない | 〔 具体的に |
| (13. 1) かかりつけ医がいない(気軽に相談できない)・
どの病院に行けばよいかわからない | |
| | (46. 7) 特にない |

(6. 2) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 7 ご自身またはご家族が受けている介護・福祉サービスについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=1, 523)

- | | |
|---|--------|
| (37. 1) 自分や家族は、現在、介護・福祉サービスを受けていない | |
| (4. 9) 施設・事業所が少なくサービスが受けられない(もしくはサービス頻度が相当減った) | |
| (2. 2) 設備が整っていない | |
| (2. 1) 職員が少ない(足りていない) | |
| (3. 3) その他 | 〔 具体的に |
| | |
| (42. 7) 特にない | |

(9. 9) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 8 ご自身またはご家族が受けている教育(学校)について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=1, 523)

- | | |
|---|--------|
| (33. 9) 自分や家族は、現在、学校に通っていない | |
| (11. 6) 通学に時間がかかるようになった | |
| (4. 1) 避難先で通学する学校において、施設が不足している | |
| (3. 0) 教員(先生)による十分な学習指導・教育相談が受けられなくなった | |
| (4. 5) 避難している子供たちに対して偏見を持たれている | |
| (2. 7) その他 | 〔 具体的に |
| | |
| (32. 8) 特にない | |

(14. 6) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 9 ご自身またはご家族の労働について、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=1, 523)

- | | |
|---------------------------------|--------------------------------|
| (14. 8) 自分も家族も、現在、就労していない | (19. 4) 仕事のために家族が離れて生活する必要が生じた |
| (37. 6) 通勤に時間がかかるようになった | (6. 5) その他 |
| (9. 0) 震災前と違う職であり、慣れない | 〔 具体的に |
| (15. 0) 給与が減った | |
| (13. 5) 長期雇用が保障されない | (15. 4) 特にない |
| (8. 5) 避難していることに対して職場の人の目が気になる | |

(6. 5) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 10 地域のコミュニティについて、困っていることはありますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=1, 523)

- (55. 7) 震災前の地域の人たち、友達と集まる機会が少ない(もしくはまったくない)
(36. 6) 避難先の地域住民との交流が少ない(もしくはまったくない)
(25. 4) 気軽に困りごとを相談できる人が近くにいない
(3. 5) その他(具体的に)
(27. 5) 特にない

(3. 6) 無回答

ここからは、将来についての気持ちを教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 11 震災発生当時にお住まいだった地区によっては、避難が続くことが考えられますが、あなたは、今後の避難期間中の生活をどこで過ごしたいですか。(○は1つ) (n=1, 523)

- (39. 2) 今の住居で継続して暮らしたい → **次ページの問 14 へ**
(22. 7) 今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村内への引っ越し)
(3. 4) 今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)
(30. 4) 現時点ではわからない、判断できない

(4. 3) 無回答

【問 11 で「2」「3」「4」と回答した方にうかがいます。】

問 12 避難期間中の住居には、どのような所有形態、住宅の建て方を望みますか。

(1) 所有形態(○は1つ) (n=861)

- (24. 7) 民間賃貸 (46. 8) 持ち家(ご家族またはご本人所有)
(16. 5) 公営住宅(災害公営住宅を含む) (6. 3) その他 [具体的に]
(0. 8) 給与住宅(社宅、公務員宿舎など)

(4. 9) 無回答

*「災害公営住宅」とは…今回の原子力災害による避難地域に指定され、帰宅が困難な方(もしくは住宅を失った方)が低廉な家賃(有償)で入居できる公営住宅です。

(2) 住宅の建て方(○は1つ) (n=861)

- (3. 8) 集合住宅(一般的な中高層のもの) (73. 1) 一戸建て
(12. 7) 集合住宅(一戸建に近い低層なもの) (1. 6) その他 [具体的に]

(8. 8) 無回答

【問 11 で「3 今の住居から引っ越したい(現在居住している市町村外への引っ越し)」と回答した方にうかがいます。それ以外の方は問 14 へお進みください。】

問 13 どちらに移動することを望みますか。(〇はいくつでも) (n=52)

(23. 1) 福島市	(1. 9) 福島県内のその他の市町村 (具体的にご記入ください。)	
(11. 5) 伊達市	→	(市・町・村)
(9. 6) 相馬市		
(11. 5) 南相馬市		
(13. 5) 川俣町	(3. 8) 福島県外 (具体的にご記入ください。)	
(7. 7) 二本松市	→	(都・道・府・県) (市・町・村・区)
(3. 8) 郡山市		
(3. 8) 国見町		
(-) 会津若松市	(40. 4) 決まっていない	
(1. 9) いわき市		
(-) 喜多方市		

(17. 3) 無回答

村では、「いいたてまでいな復興計画(第2版)」において、「村外子育て拠点(仮称)」及び「帰村のための村内拠点(仮称)」の整備を掲げており、災害公営住宅の建設に向けた検討が進められています。以下、問 14 から問 18 では、これに関して伺います。

<村外子育て拠点について>

【すべての方にうかがいます。】

問 14 飯舘村では「村外子育て拠点」として、子育て世帯が中心に避難期間中の生活を送るための災害公営住宅を、仮設小中学校等が立地する地域に建設することを検討しています。候補地のひとつである福島市飯野地区に建設される場合、あなたの世帯は入居を希望しますか。

(子育て世帯以外の方もご回答ください。〇は1つ)

(n=1, 523)

(18. 5) 入居を希望する	(5. 1) その他 →次ページの問 16 へ
(59. 1) 入居を希望しない →次ページの問 16 へ	具体的に

(17. 3) 無回答

【問 14 で「1 入居を希望する」と回答した方にうかがいます。】

問 15 あなたが、今後一緒に住む予定の世帯家族人数は何人ですか。(具体的に) (n=282)

あなたご自身を含め、合計

(7. 8) 1 人	(17. 4) 2 人	(17. 4) 3 人
(17. 7) 4 人	(12. 1) 5 人	(25. 5) 6 人以上

(2. 1) 無回答

<帰村のための村内拠点について>

【すべての方にうかがいます。】

問 16 飯舘村では、すぐに元にお住まいであった場所に帰還することが困難な村民を対象に、放射線影響の少ない臼石地区周辺および除染が完了した区域に「帰村のための村内拠点(仮称)」を整備することを検討しています。

あなたの世帯は、村内拠点に災害公営住宅が整備される場合、入居を希望しますか。(○は1つ)

(n=1,523)

(14.2) 入居を希望する (78.3) 入居を希望しない →問 19 へ

(7.6) 無回答

【問 16 で「1 入居を希望する」と回答した方にうかがいます。】

問 17 どちらの地域での入居を希望しますか。希望する地域をすべて教えてください。

(n=216)

(○はいくつでも)

(29.6) 二枚橋・臼石地区 (29.2) 飯樋地区
(35.2) 草野地区 (7.4) 村内のその他の地区(具体的に)

(9.7) 無回答

【問 16 で「1 入居を希望する」と回答した方にうかがいます。】

問 18 あなたが、今後一緒に住む予定の世帯家族人数は何人ですか。(具体的に) (n=216)

あなたご自身を含め、合計

(14.4) 1人 (22.2) 2人 (18.1) 3人
(15.7) 4人 (6.5) 5人 (14.8) 6人以上

(8.3) 無回答

<村への帰還について>

【すべての方にうかがいます。】

問 19 飯舘村への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。(○は1つ) (n=1,523)

(21.9) 戻りたいと考えている →問 20 へ
(26.9) 戻りたいと考えているが判断がつかない →9 ページの問 25 へ
(20.2) わからない →9 ページの問 25 へ
(27.8) 戻らないと決めている →9 ページの問 26 へ

(3.2) 無回答

【問 19 で「1 戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 20 飯舘村に戻った時に、村内に必要なものは何ですか。最も必要と思うものから、2番目、3番目に必要と思うものまでを、それぞれ1つずつ、アからケの記号で記入してください。(1つずつ)

【選択肢】 (n=334)		最も必要	2番目に必要	3番目に必要
(□)の中にア～ケのカタカナ記号を記入)	ア) 医療機関	(49.1)	(16.8)	(7.5)
	イ) 介護・福祉施設	(6.9)	(19.8)	(6.9)
	ウ) 学校	(3.0)	(7.2)	(4.5)
	エ) 雇用・就労の場、通勤できる範囲で雇用が確保されること	(13.8)	(11.4)	(10.5)
	オ) 商業施設	(11.4)	(23.7)	(21.0)
	カ) 地域コミュニティ	(0.9)	(4.5)	(17.4)
	キ) 災害公営住宅	(4.2)	(3.0)	(3.0)
	ク) 交通インフラ(道路、公共交通機関)	(3.0)	(5.1)	(18.3)
	ケ) その他(具体的に)	(4.2)	(0.9)	(1.8)
無回答		(3.6)	(7.8)	(9.3)

最も必要と思うもの □

2番目に必要と思うもの ... □

3番目に必要と思うもの ... □

【問 19 で「1 戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 21 避難指示が解除され飯舘村に戻る時に、行政にどのような支援を望みますか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=334)

- | | |
|------------------------|------------------|
| (75. 7) 住宅再建・修繕の支援 | (61. 7) 商店の再開の支援 |
| (61. 7) 継続的な健康管理の支援 | (38. 6) 農林畜産業の支援 |
| (22. 8) 仕事のあっせん | (4. 5) その他 |
| (50. 3) 飯舘村からの継続的な情報提供 | (具体的に) |

(3. 6) 無回答

【問 19 で「1 戻りたいと考えている」と回答した方にうかがいます。】

問 22 自営業の再開意向についてうかがいます。

避難指示が解除になって戻った場合、村内で事業を再開したいと思いますか。(○は 1 つ)
(n=334)

- | | |
|----------------------------------|-----------------|
| (16. 2) 避難前に自営業（農林畜産業、商業等）をしていない | →10 ページの間 30 へ |
| (24. 3) 再開したい | →問 23 へ |
| (6. 3) 再開するつもりはない | →問 24 へ |
| (20. 1) まだ判断できない | →問 24 へ |
| (2. 1) その他（具体的に | ）→10 ページの間 30 へ |

(31. 1) 無回答

【問 22 で「2 再開したい」と回答した方にうかがいます。】

問 23 村内で事業を再開する際の課題があれば教えてください。(○はいくつでも) (n=81)

- | | |
|----------------------------------|-------------------------|
| (46. 9) 長期間利用していない設備や家畜などへの新たな投資 | (23. 5) 後継者(担い手)・従業員の確保 |
| (64. 2) 農畜産物や製品の放射能からの安全性確保 | (4. 9) その他 |
| (66. 7) 風評被害の払しょく | (具体的に) |

(2. 5) 無回答



この設問の回答後は 10 ページの間 30 へ

【問 22 で「3 再開するつもりはない」「4 まだ判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 24 事業を再開しない理由、判断できない理由を教えてください。(○はいくつでも) (n=88)

- | |
|---------------------------------------|
| (22. 7) 事業に必要な設備や家畜などへの新たな投資ができないから |
| (52. 3) 事業に必要な土地や建屋などの除染の進捗に不安があるから |
| (60. 2) 風評被害があるから |
| (30. 7) 再開するための後継者(担い手)・従業員の確保ができないから |
| (22. 7) 新たな顧客や販売先が確保できないから |
| (6. 8) その他(具体的に) |

(12. 5) 無回答



この設問の回答後は 10 ページの間 30 へ

【問 19 で「2 戻りたいと考えているが判断がつかない」、「3 わからない」と回答した方にうかがいます。】

問 25 飯舘村に戻るかどうかを判断する上で必要と思う情報について、あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=717)

- (61. 4) 受領する賠償額の確定
(53. 8) どの程度の住民が戻るかの情報
(54. 4) 道路、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途
(79. 1) 放射線量の低下の目途
(14. 2) その他(具体的に)

(5. 2) 無回答



この設問の回答後は 10 ページの問 30 へ

【問 19 で「4 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 26 「戻らないと決めている」とお答えになった理由はなぜですか。あてはまるものをすべて教えてください。(○はいくつでも) (n=424)

- | | |
|------------------------------|--------------------------------------|
| (84. 7) 放射線量に対する不安があるから | (22. 2) 介護・福祉サービスに不安があるから |
| (45. 8) 原子力発電所の安全性に不安があるから | (27. 1) 教育環境に不安があるから |
| (15. 1) 避難先で仕事を見つけているから | (50. 5) 生活に必要な商業施設などが元に戻りそう
にないから |
| (47. 9) 飯舘村に戻っても仕事がないから | (24. 8) 他の住民が戻らないから |
| (55. 7) 家が汚損、劣化し、住める状況ではないから | (15. 1) その他 |
| (42. 9) 営農などができないから | (具体的に) |
| (35. 1) 村外への移動交通が不便だから | |
| (45. 0) 医療環境に不安があるから | |

(2. 1) 無回答

【問 19 で「4 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 27 戻らない場合に、今後の生活拠点に転居する時期は決まっていますか。(○は1つ)

「2 転居時期が決まっている」を選択された方は、の中に具体的な時期もご記入ください。
(n=424)

(7. 3)すでに新しい生活拠点に転居済み →次ページの問 29 へ

(2. 8) 転居時期が決まっている → 次ページの問 29 へ (n=12)

- | | | |
|--------------|---------------|----------------|
| (41. 7) 半年以内 | (25. 0) 1 年以内 | (25. 0) 1 年半以内 |
| (-) 2 年以内 | (-) 2 年より後 | (8. 3) 無回答 |

(82. 5) 転居時期は決まっていない →問 28 へ

(7. 3) 無回答

【問 27 で「3 転居時期は決まっていない」と回答した方にうかがいます。】

問 28 転居時期は、どの段階で判断したいとお考えですか。(○はいくつでも) (n=350)

- (60. 6) 受領する賠償額が確定した段階
(68. 3) 希望する転居先での住宅が確保された段階
(15. 7) 希望する転居先での家族または自分の学校の転入などの目途が立った段階
(10. 9) 職が決まった段階
(14. 0) その他(具体的に)

(1. 4) 無回答

【問 19 で「4 戻らないと決めている」と回答した方にうかがいます。】

問 29 飯舘村に戻らない場合に、今後の生活においてどのような支援を求めますか。

(○はいくつでも) (n=424)

(72. 4) 住居の確保の支援	(59. 9) 仮設住宅、借上げ住宅利用期間の確保
(51. 2) 継続的な健康管理の支援	(48. 3) 飯舘村からの継続的な情報提供
(14. 6) 仕事のあっせん	(8. 5) その他
(具体的に)	

(5. 0) 無回答

【すべての方にうかがいます。】

問 30 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどを自由にお書きください。

自由記載

最後に、あなたご自身のことについて教えてください。

F1 あなたの性別(○は1つ) (n=1, 523)

(63. 5) 男性 (28. 4) 女性

(8. 1) 無回答

F2 あなたの現在の年齢(○は1つ) (n=1, 523)

(0. 4) ～1 9 歳	(4. 7) 4 0 ～4 4 歳	(8. 4) 6 5 ～6 9 歳
(2. 0) 2 0 ～2 4 歳	(6. 8) 4 5 ～4 9 歳	(8. 1) 7 0 ～7 4 歳
(3. 0) 2 5 ～2 9 歳	(10. 6) 5 0 ～5 4 歳	(7. 4) 7 5 ～7 9 歳
(3. 7) 3 0 ～3 4 歳	(13. 6) 5 5 ～5 9 歳	(7. 7) 8 0 歳以上
(5. 0) 3 5 ～3 9 歳	(14. 7) 6 0 ～6 4 歳	

(3. 9) 無回答

F3 あなたは震災発生当時、世帯主でしたか。(○は1つ) (n=1, 523)

(55. 5) 当時世帯主だった (32. 4) 当時世帯主ではなかった

(12. 1) 無回答

調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返送封筒にご記入済み調査票を入れて、

12月14日(金)までに 郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。